阿智村智里中平地区農業生産基盤整備事業に伴う
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

大垣外遺跡

1999.3

長野県下伊那郡阿智村農林課
長野県下伊那郡阿智村教育委員会

平成１１年５月　　日

各　　位

長野県阿智村教育委員会

埋蔵文化財発掘調査報告書『大垣外遺跡』
の贈呈について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、阿智村教育委員会が行いました『大垣外遺跡』の発掘調査報告書が発行されました。この間多くの方にご協力を賜りましたこと厚く御礼を申し上げます。報告書を贈呈しますので資料としてご活用いただければ幸いと存じます。お気付きの点がありましたら、ご教示くださいますようお願いいたします。

大垣外遺跡は奈良平安時代の官道である東山道の通過地とされる網掛峠、その東麓の古代祭祀遺跡として他に類をみない遺跡として注目される場所であります。これを機に阿智の歴史を解明するに格段のご支援をお願いするしだいです。今後ともよろしくお願いいたします。

阿智村智里中平地区農業生産基盤整備事業に伴う
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

大垣外遺跡

1999.3

長野県下伊那郡阿智村農林課
長野県下伊那郡阿智村教育委員会

北沢方面から大垣外地籍を望む

大垣外遺跡　遺構全景

石製模造品 ― 勾玉・鏡・管玉・ガラス玉・角玉 ―

序　　文

平成９年に山村振興農林漁業特別対策事業として、阿智村中平地区農業生産基盤整備事業が実施されるに当たり、その域内にある大垣外遺跡発掘調査が実施されました。４月７日より、分布調査、試掘調査、保護協議が行われ、５月７日から本発掘が開始されて、７月９日に完了することが出来ました。

ご承知のように、この地域は、かねてより、東山道関連遺跡として数多くの石製模造品の出土記録があり、また、近くに無量寺が存在し、小字名にも「大門」があるなど東山道研究者から注目されてきた土地であります。また、調査の進行状態は、たびたび地元の新聞に報道されましたし、小学生の発掘作業参加や中間に実施された現地説明会には70名ほどの参加者が集まるなど、村内はもとよりこの地方の多くの人々の関心の中に作業は終了しました。

60日余りの調査結果から、円板、剣形、臼玉などの石製模造品が大量に出土し、20か所余から祭器と思われる土器が検出されたことから古代東山道の祭祀遺跡としての位置付けが明確になってきました。特に、大量の祭器群の検出は他に前例のないことで、当時の祭祀の様子を知る上で注目される発見であると思われます。また、石製模造品や祭器の配列を伴った道路跡と思われる場所も発見されて、いよいよ古代東山道祭祀遺跡として確かなものになってきました。

今回の調査は、恵まれた天候の下で、短期間に多くの成果を得て終了出来ましたが、今回の発掘場所から、かつて大量に石製模造品が発見された場所の間には、まだ手つかずの土地が広くあり、今後、計画的に調査をしなければならない課題と夢が残されたように思います。古代東山道史解明のためにもこれらの土地の発掘は阿智村に荷せられた大きな責務と考えます。

終りになりましたが、報告書の刊行に当りまして、献身的に調査を推進し、報告書を作成していただきました今村善興調査団長、調査員、調査補助員の皆さん、ご指導いただいた長野県教委文化財保護課の先生方、熊谷千昭氏ご一家をはじめとして調査実施に当り格別な御理解と御協力をいただきました中平部落、近隣の方々に厚く感謝申し上げます。

平成11年３月

阿智村教育委員会

教育長　石原泰蔵

例　　言

1．本報告書は、平成９年阿智村教育委員会が実施した、阿智村智里中平地区農業生産基盤整備事業に先立つ、大垣外遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2．この発掘調査は、阿智村教育委員会が委嘱した特設の大垣外遺跡発掘調査団が行っている。

3．事業予定地内の遺跡の広がり等がはっきりしないので、事前に事業地内の分布調査を実施して、大垣外地籍を重点調査地区にして発掘調査が行われている。Ｂ１・２地区から道路跡・祭器群・石製模造品が集中したために、他地域の発掘調査は試掘調査・遺物採集調査に留まっている。

4．Ｂ１・２地区の弥生時代・縄文時代の包含層については、盛土保存の方途が決められたので、上層祭祀遺跡遺構群の検出だけに留まっている。

5．本報告書作成に当たっては、遺構測量はKKジャスティックに委託し、遺物出土地点測量は今村・赤羽により行われ、土層記録等は主として林・福田が当たっている。遺構写真撮影は主として今村、周辺景観写真は原が分担している。古代東山道関連の写真は、昭和48年の斜坑広場調査のもの・原が以前に撮影したもの等も含まれている。

遺構図整理・土器実測・石製模造品実測・石器実測は主として林・今村が当たり、拓本撮りは高森町調査員三石が担当している。

6．報告書編集に当たり、古代東山道通過推定地図は阿智村東山道研究会の資料提供を得、他遺跡の石製模造品については、長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－阿智村斜坑広場その２－から再採録している。

報告書の編集は主として今村が当たっている。

7．阿智第三小学校児童の「阿智村を通る東山道」資料の一部は、阿智第三小学校の協力を得て採録した。

8．遺物・測量原図・調査記録カード・写真関係資料は、阿智村教育委員会が保管している。

目　　次

口　絵
北沢方面から大垣外地籍を望む
大垣外遺跡　遺構全景
石製模造品 ― 勾玉・鏡・管玉・ガラス玉・角玉 ―
序　　文　阿智村教育委員会教育長
例　　言

Ⅰ．調査の経過 …… 1
1．保護協議 …… 1
2．検出調査の経過 …… 1
3．調査団組織 …… 2
(1) 調査事務局 …… 2
(2) 発掘調査団 …… 2

Ⅱ．阿智村智里地区の環境 …… 3
1．自然環境 …… 3
2．歴史的環境（遺跡分布・古代東山道を中心にして） …… 3
(1) 古代東山道研究 …… 3
(2) 智里地区の遺跡 …… 4
(3) 園原新田等の開発 …… 11
(4) 神坂線の開発 …… 12
(5) 網掛峠踏査記 …… 13

Ⅲ．調査の結果 …… 17
1．大垣外遺跡の位置と概要 …… 17
2．調査結果の概要 …… 18
3．調査の結果 …… 18
(1) B 1 地区の結果 …… 18
1．道路跡 …… 21
2．祭器群 …… 21
①祭器 3 …… 21
②祭器 4 …… 22
③祭器15 …… 22

④祭器17 …… 22
⑤祭器19 …… 22
⑥祭器18・21・24 …… 23
3．土坑 …… 23
①土坑11 …… 23
②土坑6・12・16 …… 24
③土坑17 …… 24
4．溝址1 …… 24
5．中世遺物出土地 …… 24
(2) B2地区の結果 …… 26
1．祭器群 …… 28
①祭器1 …… 28
②祭器10 …… 28
③祭器11 …… 29
④祭器12 …… 29
⑤祭器22 …… 29
⑥祭器8 …… 29
⑦祭器13 …… 30
⑧祭器14 …… 30
⑨祭器9 …… 30
⑩祭器20 …… 30
⑪祭器6 …… 31
⑫祭器23 …… 31
⑬祭器16 …… 31
⑭祭器5 …… 31
⑮祭器7 …… 42
⑯祭器2 …… 42
2．溝状遺構群 …… 42
3．石製模造品の出土状況 …… 42
4．1号住居址 …… 44
5．火葬墓1・2 …… 44
6．土坑 …… 45
7．建物址 …… 45
8．縄文時代土器片出土地 …… 45
9．弥生時代の遺物出土地 …… 46
10．周辺分布調査の結果 …… 46

阿智村にほしい物 …… 67

阿智村 智里を通る東山道 …… 67
学習過程 …… 68
阿智第三小学校（平成10年度 6年生） …… 68

Ⅳ 調査のまとめ …… 69
1．大垣外遺跡の概要 …… 69
2．祭器群の検出 …… 69
3．道路跡の検出 …… 70
4．大垣外遺跡の石製模造品 …… 71
5．古代東山道通過推定地 …… 72

挿 図 目 次

第1図 阿智村智里地区埋蔵文化財包蔵地地図 …… 7
第2図 阿智村古代東山道通過推定地図 …… 15・16
第3図 中平地籍の地字と表採遺物分布図 …… 19・20
第4図 遺構全体図 …… （別掲）
第5図 B1地区道路跡、祭器3・4・15・17・18・21・24配置図 …… 25
第6図 B1地区石製模造品・土器片出土分布図 …… 25
第7図 B2地区遺構配置図 …… 32
第8図 B2地区石製模造品・土器片出土分布図 …… 32
第9図 B2地区西側祭器・石製模造品出土分布図 …… 33
第10図 祭器出土状況図（祭器2・3・4・5・8・9・11・15・20・23） …… 34
第11図 B1・2地区出土祭器（1）— 甕形土器 — …… 35
第12図 B1地区出土祭器（2） …… 36
第13図 B1・2地区出土祭器（3）— 小形甕・坏形土器等 — …… 37
第14図 B1・2地区、1号住居址出土須恵器・灰釉陶器 …… 38
第15図 大垣外遺跡出土石製模造品（1）— 勾玉・管玉・円板等 — …… 39
第16図 大垣外遺跡出土石製模造品（2）— 剣形 — …… 40
第17図 大垣外遺跡出土石製模造品（3）— 臼玉 — …… 41
第18図 神坂峠出土石製模造品（1） …… 49
第19図 神坂峠出土石製模造品（2） …… 50
第20図 神坂峠出土石製模造品（3） …… 51
第21図 神坂峠出土石製模造品（4） …… 52
第22図 神坂峠出土石製模造品（5） …… 53
第23図 神坂峠出土・地表採集石製模造品 …… 54

第24図　神坂峠・三壺洞遺跡出土石製模造品 …… 55
第25図　杉の木平（A）遺跡・大垣外遺跡出土石製模造品 …… 56
第26図　大垣外遺跡・大平神社（頭権現）遺跡・川畑遺跡出土石製模造品 …… 57
第27図　川畑遺跡・杉ヶ洞遺跡・森下遺跡・山岸遺跡・赤坂遺跡・中原遺跡出土石製模造品 58
第28図　中原遺跡出土石製模造品 …… 59
第29図　大垣外遺跡出土中世陶器 …… 60
第30図　大垣外遺跡出土中・近世陶器 …… 61
第31図　大垣外遺跡出土内耳鍋、常滑系陶器、鉄製品、砥石等 …… 62
第32図　大垣外遺跡出土擂り鉢、鉄滓、古銭 …… 63
第33図　大垣外遺跡出土縄文時代前期・中期初頭土器 …… 64
第34図　大垣外遺跡出土縄文時代中期土器・石器 …… 65
第35図　大垣外遺跡出土弥生時代中・後期土器 …… 66

写真図版目次

写図1　発掘調査前の大垣外遺跡 …… 77
写図2　石碑二態　祭祀遺跡、小野川関址 …… 78
写図3　小野川村旧絵図 …… 79
写図4　旧関所石臼 …… 80
写図5　諏訪明神社・大平神社 …… 81
写図6　無量寺跡石仏群 …… 82
写図7　B1・B2地区遺構全景 …… 83
写図8　B1地区道路跡 …… 84
写図9　杉ノ木平遺跡道路跡 …… 85
写図10　B1地区土層断面 …… 86
写図11　B1・B2地区の段差面 …… 87
写図12　B2地区遺構全景 …… 88
写図13　1号住居址 …… 89
写図14　土坑12・7 …… 90
写図15　祭器No.1出土状況 …… 91
写図16　祭器No.1・2（土器） …… 92
写図17　祭器No.2出土状況 …… 93
写図18　祭器No.3出土状況 …… 94
写図19　祭器No.3・4（土器） …… 95
写図20　祭器No.4出土状況 …… 96
写図21　祭器No.5出土状況 …… 97

写図22 祭器No.8出土状況 …… 98
写図23 祭器No.9出土状況と土器 …… 99
写図24 祭器No.10出土状況と土器 …… 100
写図25 祭器No.11出土状況と土器 …… 101
写図26 祭器No.13出土状況と土器 …… 102
写図27 祭器No.13（土器） …… 103
写図28 土坑11と祭器No.15出土状況 …… 104
写図29 祭器No.15出土状況と土器 …… 105
写図30 祭器No.16出土状況と土器 …… 106
写図31 祭器No.17出土状況と土器 …… 107
写図32 祭器No.19出土状況 …… 108
写図33 祭器No.20出土状況と土器 …… 109
写図34 祭器No.22出土状況と土器 …… 110
写図35 P24出土土器 …… 111
写図36 石製模造品（1） ― 勾玉・鏡・管玉・ガラス玉・角玉 ― …… 112
写図37 石製模造品（2） ― 円板・剣形 ― …… 113
写図38 石製模造品（3） 熊谷千昭氏蔵・川畑遺跡出土 …… 114
写図39 須恵器・灰釉陶器 …… 115
写図40 天目茶碗出土状況 …… 116
写図41 青磁・山茶碗・古瀬戸 …… 117
写図42 縄文時代前期・中期初頭土器片 …… 118
写図43 弥生時代中期土器片 …… 119
写図44 神坂峠祭祀場（昭和46年） …… 120
写図45 神坂峠西側と千本立の山道 …… 121
写図46 園原・網掛山の遠望 …… 122
写図47 杉ノ木平遺跡と児の宮遺跡（昭和46年） …… 123
写図48 児の宮遺跡の遊歩道と園原の集落 …… 124
写図49 網掛峠と山道 …… 125
写図50 網掛峠から園原・神坂峠遠望、蛇瘤杉之碑 …… 126
写図51 本沢頭の平場と石群 …… 127
写図52 網掛尾根道からの東方遠望 …… 128
写図53 中平の集落と大垣外遺跡調査地 …… 129
写図54 大平神社と富士石 …… 130
写図55 川畑遺跡と阿知川・大沢川合流地点 …… 131
写図56 仏供田から網掛山遠望 …… 132
写図57 駒場方面から網掛山遠望 …… 133
写図58 阿智高校（中原遺跡）付近から大垣外遺跡遠望 …… 134
写図59 発掘調査風景 …… 135

写図60　現地見学会 …… 136
写図61　発掘調査に参加（阿智第三小） …… 137
写図62　縄文時代の土器が出た …… 138
写図63　阿智第三小学校の東山道探訪（1） …… 139
写図64　阿智第三小学校の東山道探訪（2） …… 140

表　目　次

表1　阿智村智里地区埋文包蔵地一覧No. 1 …… 8
　　阿智村智里地区埋文包蔵地一覧No. 2 …… 9
表2　阿智村発掘調査（含分布調査）遺跡一覧 …… 10
表3　阿智村大垣外遺跡祭器的土器一覧表 …… 27
表4　大垣外遺跡石製模造品・祭器出土位置一覧 …… 43
表5　飯田・下伊那石製模造品出土遺跡の概要 …… 48
　　1．円板・剣形・勾玉の数 …… 71
　　2．剣形 A·B·Cの比率 …… 71

I. 調査の経過

1. 保護協議

山村振興農林漁業特別対策事業の中平地区農業生産基盤整備事業が実施されるので、平成８年11月27日、県教委文化課野沢指導主事を迎えて、阿智村建設課・教委事務局・文化財委員・担当予定者による保護協議が行われた。

中平地区の大垣外遺跡は、石製模造品大量出土地と知られているが、遺跡状況・範囲等がはっきりしないので、大垣外地籍を中心にして分布調査・試掘調査を実施して、その後再び協議の上調査範囲・調査方法を決めることにした。

平成９年４月７日から３日間、大垣外地籍とその周辺の分布調査を行った。その結果は本文の分布調査の結果報告のように、事業予定地の全域に近い範囲から遺物が採集されている。全域の発掘調査は不可能なので、まず、大垣外地籍６枚の水田地を重点地域にして、４月10日から調査地Ｂ１・２地区の試掘調査を始めた。１・２地区共に中世陶器片・土師器・須恵器片や石製模造品の出土も多いので、４月30日、県教委原指導主事が来訪し、阿智村助役・農林課長・教育長・調査関係者の協議が行われ、調査費の先行計上を決めて本格的な検出調査の実施が決められた。

2. 検出調査の経過

連休明けの５月７日から重機も導入して、Ｂ１地区の下側・Ｂ２地区の排土を始める。Ｂ２西側から土師器甕形土器の横倒しが発見される。後の祭器１である。同地区の東側では火葬墓が発見され、１号住居址も発見され、灰釉陶器坏形土器が出土し、北側半分から縄文土器片・黒曜石が出土する。５月20日頃までにＢ１地区の石製模造品は20個くらいになる。５月23日にＢ３～Ｂ６地区の整地をした。Ｂ５地区から円板残欠・剣形石製模造品と土師器片・縄文土器片が出土したが量は少なく、新しい黒色土のピット列・Ｂ３地区の弥生式土器片集中地のほかは遺構の発見はなさそうで、Ｂ１～３地区の調査に重点を置くことにした。

５月26日からＢ１地区の道路跡周辺の掘り下げ・土層ベルトの記録、Ｂ２地区の平板による出土地点を記録しながら削り作業を進める。祭器３・６・７・８・９等が発見され、土師器片の出土も増え、石製模造品も集中するようになった。６月10日には石製模造品出土数が103個となり、Ｂ２地区では祭器10・11・12が発見されている。この頃は村長・助役さん、村議会文教委員の方々が来訪されている。

６月23日以降は、Ｂ１地区では臼玉の発見が多くなり、祭器15・17も発見され、Ｂ２地区では西側に炭の集中地が出て、その東側一帯から円板・剣形石製模造品の集中地がよりはっきりしてきた。日によって16個以上の石製模造品が発見されて、27日は石製模造品の出土数が231個になっている。

６月28日には現地見学会があり、祭祀遺跡様相がはっきりしてきたので、遠くは高森町・近くは中平の方々も多く、見学者70人を越えるにぎやかな日であった。

7月1日には建設課長・教育長・地権者熊谷氏等により埋没保存の方策が検討され、最上段の水田掘り下げの計画が変更されて、B1・2地区は50cm盛土して現状保存することが決められた。そのために、B1地区の転石群の取り除きは止め、西側の黄白色土の未調査区はそのまま残し、B2地区の下層にある弥生時代・縄文時代の包含層もそのまま保存することにした。

これより前に阿智第三小学校5・6年生により縄文時代の包含層の一部の調査が行われ、多くの土器片が出土した。この体験がきっかけとなり、「阿智村を通る東山道」の研究が行われ、本誌末尾にその成果が採録されている。

6月30日からB1・2地区の道路跡・祭器群、石製模造品・土器群の出土状況を記録しながら詳細検出作業を進めた。B1地区では道路跡周辺の祭器群・西側傾斜面の石製模造品出土状況調査作業が行われ、祭器19が発見され、鏡形石製模造品のほかに数点の剣形模造品が検出されている。B2地区では、西側傾斜面の石製模造品出土状況・炭の多い溝状遺構の正体・それを取り巻く祭器1・10・11・12・13等の詳細調査を行って、西側斜面と東側斜面に石製模造品を伴う祭器群があることも確かめられている。7月7日に空中測量をして、7月9日に現地作業を終了している。その間、地質学者松島信幸・上郷考古博物館館長宮沢恒之先生の現地指導を受けている。

報告書編集については、今村が高森町・喬木村の現地調査が続くために、平成10年度に延期して頂き、平成10年2・3月と12月から11年2月にかけて整理作業を進め、漸く3月印刷の運びになっている。

なお、特筆される古代東山道関連の祭祀遺跡と思われるので、平成10年12月16日、阿智村教育委員会の主催で、網掛峠・矢平地籍の現地調査が行われている。また、古代東山道通過推定地の景観写真も多く採録したいと考え、原治幸調査員によって地域の写真撮影が進められ、採録されている。

3. 調査団組織

(1) 調査事務局

阿智村教育委員会教育長　石原泰蔵
社会教育係長　佐々木陽司（平成9年度）　林茂伸（平成10年度）
農林課長　原田公人
土地改良係長　河合隆文

(2) 発掘調査団

調査団長　今村善興（飯田市文化財審議委員）
調査員　小林昭治　原治幸（阿智村文化財委員）
林賢　福田千八　赤羽隆
現地指導　松島信幸　宮沢恒之　熊谷千昭
協力作業員　原誠　脇坂範良　原健　田中貞美　田中美芳
田中美代子　田中秀子　田中チハル　坂井博子　熊谷千穂
原智子　寺田直由美　熊谷和佳子　熊谷悦子　熊谷安倫
熊谷悦雄　福田裕亮
阿智第三小学校（平成9年度　6年生）
井原達貴　小池祐介　原寿一　篠原将司　水上達也
遠山博之　小松元樹　田中一樹　渋谷隆典　牛山晃一
遠山温　井原稔輔　佐世子　大倉裕希子　田中奈美
熊谷麻祐子　熊谷茜　吉澤小百合　原あゆみ
（指導者　高木正彦）

Ⅱ．　阿智村智里地区の環境

1．自　然　環　境

下伊那郡阿智村は、飯田市の西側にあたる下伊那郡西部地域の口元にあり、村の中心となる駒場・春日地域は飯田盆地の最西南にある。東は飯田市山本・三穂地区に接し、北は夜烏山・梨子野山・南沢山の山陵で清内路村に、西は富士見台・恵那山の山陵で中津川市に、西南は恵那山南陵・三階峰・松沢山で浪合村と境し、南東側は、駄科川・阿知川下流の渓谷で下條村に境している。村の北東部に開ける駒場盆地や伍和の丘陵と、西側一帯は恵那山を主峰とする木曽山脈南部山地や下條山地北部山地に三方に囲まれ、これらの山地から流れ出る大小の河川に沿った渓谷に智里地区のいくつもの集落が構成されている。

智里地区は、西地区と東地区に区分され、西地区には本谷川沿いの戸沢・中央・濃間地区、園原川沿いの園原地区、横川沿いの横川地区に分かれ、東地区には大沢川沿いの大野・中野・奥根木・藤ノ戸・大沢地区、寺沢川流域の中平・伏谷、下流の下平地区と阿知川左岸の昼神地区に分かれている。東地区は大きく言えば小野川地籍で、歴史的にみれば下方の小野川親村から西地区の各地区が分離した経過がある。

大垣外遺跡のある中平は、網掛山・網掛峠の東麓に位置し、網掛山を源にする本沢と網掛峠を源にする南沢に挟まれた細長い崖錐面に構成される台地で、北側に並列する大平（おおだいら）の扇状台地は本沢に分断されている。本沢と南沢が合流する寺沢川の扇状台地へ続いている。後項で触れる小野川遺跡群が集中するところで、古代東山道の通過推定地の有力候補地になっている。

神坂峠とともに古代東山道の通過地である網掛峠（971m）は、大垣外遺跡（やく710m）西側上方にあたり、北の網掛山（1132m）と南の三階峰の稜線に挟まれた鞍部にある。網掛山は山頂に網を被せたように緩やかな稜線を持つトロイデ山容で、北側飯田市の風越山・笠松山、清内路村境の高鳥屋山・梨子野山と同様な木曽山脈の前山部分の山列で、東側は三州街道断層線により断層崖が作られ、駒場地籍や園原地籍からも眺望され、コースの目当てとされる山陵である。

2．歴史的環境（遺跡分布・古代東山道を中心にして）

（1）古代東山道研究

原始・古代のことは遺跡分布で触れることにして、古くは古事記・日本書紀に科野坂（神坂峠）を日本武尊（大和朝廷複数の英雄）が通過した説話があり、ヒルガミの故事も残されている。延喜式には駅の記録の中に阿知駅の記録が残されている。またこの道を通った防人の歌が万葉集に記載されたり、伝教大師の東国巡行記等の古書に記載されている。これらの記録等から、古代東山道は、神坂峠・園原地籍・網掛峠・駒場周辺を通過したことは間違いなく、大正時代から昭和にかけて、鳥居龍

蔵・坂本太郎・大場磐雄・市村咸人・一志茂樹氏ほか多くの研究者によりより確かな実証研究が進んでいる。

明治時代には熊谷直一氏らの発起により、園原古跡保存会が設立されたり、大正時代には鳥居龍蔵・市村咸人氏らの実地調査、昭和26年からの下伊那誌編纂会による現地踏査がたびたび行われている。市村咸人氏が主体であるが、一志茂樹・大場磐雄・坂本太郎氏の協力により、神坂峠・網掛峠の検証が行われている。その結果は下伊那史第四巻に詳しく記載されている。昭和42年の神坂峠緊急分布調査・昭和43年の神坂峠発掘調査により大量の石製模造品が検出され、調査報告書「神坂峠」に詳しく記載されている。昭和46・48年には、中央自動車道恵那山トンネル斜坑広場の緊急発掘調査が杉ノ木平遺跡で行われ、大量な古墳時代・奈良時代・平安時代・中世期の遺物が発見され、古道と思われる道路跡や祭祀跡と思われる石製模造品出土地が検証されている。これらのほかに、石製模造品を伴う遺構・遺物が発見された遺跡発掘調査や表採調査は、春日の中原遺跡・京田遺跡、小野川の庄ケ原遺跡・杉ケ洞遺跡と今回の大垣外遺跡である。発掘調査ではないが過去において石製模造品が発見されている遺跡は、園原児の宮遺跡、小野川大平遺跡・川畑遺跡、春日中原遺跡、智里北沢・藤ノ戸・梅ケ久保遺跡からも出土しているので、阿智村全体で14遺跡以上に及んでいる。平成元年前後から、県文化財保護協会を主体にして全県的な古代東山道研究が行われている。阿智村東山道研究会は原隆夫さん等を中心にして画期的な研究が行われている。神坂峠・網掛峠を持ち、大量な石製模造品出土地のある阿智村であるから、コース推定の拠点が多く、大山祠ほかの有力な地名が開拓され、古道にふさわしい自然景観の考察を含めて図２のような阿智村古代東山道通過推定図が作成されている。まだ未解明のところは多くあるといわれるが、神坂峠から網掛峠まではほぼ確定的なコースと思われる。

（２）智里地区の遺跡

智里地区の遺跡は、東地区・西地区合わせて82遺跡が登録されている。このような山間地帯にこれだけの遺跡が登録されているのは、渓谷河川沿いに独立の小台地が形成されることもあるが、古道にかかわる研究が進んでいる地域でもあるといえる。

旧石器時代の遺跡は、横川地籍の浪人松遺跡と濃間地籍の下の平遺跡、小野川北沢遺跡・大野向山遺跡で、浪人松・北沢遺跡の遺物は定かでないが、下の平のものは大形なポイント（尖頭器）が縄文時代の住居址から出土している。向山のものも尖頭器である。縄文時代草創期の遺物は確認されていないが、早期・前期の遺物出土地が多い。遺構等は昼神中平遺跡の前期住居址のほかは検出されていない。横川ホド平・園原薬師平遺跡のほかは発掘調査の結果によるもので、発掘調査が行われればこの時期の数が増えることを物語っている。特筆されることは、昼神中平の住居址検出例は阿智村では珍しく、神坂峠の鞍部（現在の道路下）から縄文時代前期の土器片が10数片集中して出土したり、杉ノ木平遺跡では川原に面する低地から縄文時代早期の深鉢形土器が１個体出土している。神坂峠や杉ノ木平遺跡の場合には、縄文時代にすでに峠を越える人々の移動があったように思われる。

縄文時代中期になるとどこの地域でも遺跡数が多いのが普通で、智里地区でも同様である。発掘調査の行われた遺跡では殆どが縄文時代中期の住居址が検出されているが、数基以上集中的に出土しているところは、中央自動車道用地内の杉ケ洞遺跡と下水道終末処理場用地内の平林遺跡で縄文時代中期中葉の住居址５軒と40基以上の土坑群が集中的に検出され、現在のところ智里地区縄文時代の遺跡

では最大の遺跡とされている。中平の大垣外遺跡では下層に縄文時代前期・中期中葉の土器片集中地があったが上層の祭器群の遺構を保存するために掘り下げでない。相当規模の遺跡があるように思われる。縄文時代後期・晩期の遺跡はずっと数が少なくなるが、他の時期同様発掘調査をするとこの時期の遺物が発見されるのはこの地区も同じである。

弥生時代の遺物出土地は阿智村全体が少なく、智里地区でも同様であるが、発掘調査をしたり詳細分布調査をすると発見される例がある。今まで智里地区では小野川庄ケ原遺跡で弥生時代後期の住居址が検出されただけであったが、今回の大垣外遺跡では表面採集調査で弥生時代後期土器片が発見され、発掘調査では中期土器片と後期土器片の集中出土地が2か所あった。さらに掘り下げれば縄文時代と同様により多くの土器片が出土したと思われる。大垣外遺跡で特筆したいことは、中期の土器片が集中的に出土したことである。阿智村全体では阿智村誌の遺跡表によると、伍和地区で水神平式と呼ばれる東海系の古手の弥生式土器片が発見されているだけで、駒場・智里地区では中期の土器片が出土したのは初めてある。

古墳時代から平安時代にかけての遺物出土が多いのは阿智村の特徴で、駒場地区・智里地区がとくに多い。近隣の飯田市山本・三穂、清内路村、浪合村では余り見られない状況で、飯田・下伊那地方でも濃厚遺跡群のある地域の中に含まれている。これは古代東山道にかかわる遺跡群の存在が推測される地域ということができる。とくに智里地区では、神坂峠、園原地区、小野川中平・下平地域に集中している。古代東山道通過推定図に沿いながら特徴的な遺跡を挙げてみると次のようになる。

神坂峠遺跡では1800点以上の石製模造品が集中的に発見され、土師器・須恵器や渡来陶器を含む多くの陶器類・金属器等も発見され、焼土群も検出されて代表的な祭祀遺跡とされている。手向ケ丘の近くから縄文時代前期の土器片・同後期かと思われる石鏃が集中的に出土し、原始時代からこの峠が利用された事を物語っている。

万岳荘周辺から東側の千本立遺跡では、土師器片・須恵器片・灰釉陶器片が登山道とその周辺から今でも拾うことができる。中腹の水場のある池の平遺跡では、以前に灰釉陶器が出土したと伝えられている。横川の部落を見下ろしながら稜線を登る辺りに悪沢・悪沢上遺跡がある。登山道の切り取り斜面から灰釉陶器片が採集されたり、昭和43年、神坂峠発掘調査に登る途上、牛の足跡から灰釉陶器を拾った事がある。そぶ沢・イワガシャ・井尻洞・第二洞遺跡は、神坂神社裏山から悪沢手前の登山道交差地点まで辺りで、信濃遊歩道ほかの尾根道を三手に分けて登った時に、それぞれの場所で須恵器片・常滑陶器片等を拾った場所である。このあたり一帯では山中に遺物が落ちていることを知ることができる。

神坂神社境内では以前に土師器片を採集した言い伝えが残されているが、品物は残されていない。神社前のS字の道路開鑿中に黒い色の壺が出た伝えられる。その物の所在は不明である。現在駐車場のある傾斜地で縄文時代の土器片と石鏃を拾ったことがある。地籍は杉ノ木平遺跡に含まれるかと思われるが、田中さんの墓地付近で耕作中に発見された土師器高坏形土器を見せてもらったこともある。

杉ノ木平遺跡は、恵那山トンネル換気用煙突のあるところで、以前は杉ノ木沢を挟んで二つの崖錐状傾斜面があり、上方をA、下方をB地区とすれば、A地区は園原川に南面する6段に構成される水田・畑地があって、表面から異常なほどの土師器・須恵器・灰釉陶器・中世陶器片が採集された。最上段の水田下は3m下に焼土を伴う平安時代の包含層があり緑釉陶器の碗形土器が出土している。1mほど下層からは大量の焼土塊に混じって近世陶器片が出土している。明治時代に茶屋か旅籠があっ

たと伝えられている事から、これにかかわる遺物かと思われる。この林道に沿った最上段地域は造林地として掘削はしないという公団との約束で、それ以上調査は行われていないので、旧状が保たれている所である。2段目から4段目辺りは、浅いところで1m、深いところでは2mほど下層から夥しい焼土群が検出され、平安時代の竪穴式住居址が2軒、掘立柱建物址や中世期の掘立柱建物址が検出され、多くの灰釉陶器・中世陶器・金属製品が出土している。4段目から6段目にかけては、古墳時代・奈良時代の土師器・須恵器が個体で発見され、焼土と共に石製模造品が出土する祭祀的な場所と思われるところも検出された。5段目辺りには灰釉陶器片を大量に含む炭層帯が検出されたり、灰釉陶器や中世陶器を伴う配石遺構も各所で検出されている。

杉ノ木沢下方のB地区は、A地区より平坦な傾斜面であるが、遺物の出土は少なめである。水田の造成工事により削られた部分もあるが、土手下の深いところには灰釉陶器片を含む道路状遺構が数か所検出され、所によっては道路跡に沿うテラス状の平地があり、石製模造品や灰釉陶器碗が出土したり、大きな石の元に大形円板の石製模造品が出土するところもある。道路跡は、須恵器・灰釉陶器を伴うもの、常滑系の水壺を伴うもの等が並行するところもあある。主たる道路址は上方では蛇行しながらA地区に繋りそうで、下方ではその延長は確かめられないが、朝日松方向に伸びているように思われる。

朝日松の周辺は児の宮遺跡で、朝日松付近から石製模造品が出土したと伝えられている。今村の手元には大正時代に朝日松周辺で採集したといわれる剣形模造品が3個ある。朝日松下の土手沿いに大石があり、灰釉陶器が出土したといわれる。昭和45年の斜坑広場Aの発掘調査に先立つ分布調査で、朝日松のある平の試掘調査をしたが、水田の床地下は砂礫層で、遺物の発見はなかったが、その上方桑大株の畑では土師器片・須恵器片・灰釉陶器片が大変多く採集されたところがある。現在の植木園が造成されているところで、今でも多くの遺物が拾えるところで、園原地籍では杉ノ木平遺跡に次ぐ遺物出土の多い所でもある。

千代の沢から下方の園原地籍ではマサゴヤ・クラガリ沢・菖蒲平・薬師平・上の平・長者屋敷A・同B・サブゴヤ・下瀬ケ原遺跡が登録されているが、集中的に遺物が発見されるところは今のところ確かめられていない。園原川ダム建設に伴う林道の待避所新設工事に先立つ試掘調査が長者屋敷B・薬師平等で行われたり、伝教大師像建立に先立つ上の平遺跡での試掘調査や、万葉ふれあい館建設や道路工事に伴う掘削面の調査地からもごく一部の須恵器片が発見されただけで、集中的な遺物出土地は今のところ発見されていない。まだほかに集中的なところがあるのか、ないのか大きな課題の一つである。伏せ屋とか無料宿泊所（広拯院）跡は月見堂周辺という説もあるが、遺物・遺構の出土状況から児の宮・杉ノ木遺跡周辺説も出てきそうにも思われる。

殿島地籍にはまきだち遺跡が登録されていて、縄文時代の遺物出土が伝えられているが古墳時代・平安時代の遺物は発見されていない。ここから山腹を縫いながら網掛峠へ登る旧道があって、途中に矢平の部落があり、土師器・須恵器・灰釉陶器片が採集されている。殿島橋西側から網掛峠西麓にかけた一帯には、大山道上ノ口・大山道上・大山道日影・大山道・大山洞日向の地名が続く。山道（やまんど）と呼ばれる地名は古代東山道にかかわる有力な地名といわれ、コース等からほぼ確定的な東山道通過推定地とされている。大山道川を渡り、網掛川に沿った右岸の急坂を登り切ると網掛峠で、頂上には狭いが平場があり、神坂峠を望む小高い丘がありかっては鉈瘤杉が聳え、格好な手向ケ丘である。以前に薙鎌・灰釉陶器片が採集されているが、石製模造品は発見されていない。

第1図　阿智村智里地区埋蔵文化財包蔵地地図

表1　阿智村智里地区埋文包蔵地一覧

No. 1

NO	遺跡名	所在地	旧石器	縄文時代						弥生時代			古墳時代			奈良	平安時代			中世	近世	備考
				草	早	前	中	後	晩	前	中	後	土	須	石		土	須	灰			
1	兎平	昼神					○															縄文時代中期住居址 2
2	中平	〃				○	○												○			縄文時代前期住居址 1、土壙
3	阿智神社北	〃					○															耕作中住居址発見
4	高木	〃					○															昼神温泉郷の中央
5	阿智神社前	〃					○															
6	昼神前田	〃					○															
7	二本松	〃					○															
8	庄ヶ原	智里東				○	○						○	○	●				○	○		縄文・弥生・古墳時代住居址 4、土壙3・配石遺構
9	塩場	〃					○								●			○	○		○	近世屋敷跡
10	北垣外	〃					○													○		縄文時代中期住居址2．中世火葬墓2
11	根木屋	〃																				出土遺物不詳
12	森下	〃			○	○	○	○					○	○	●			○	○	○	○	縄文時代中期住1、配石遺構1、火葬墓5、土壙5
13	南	〃					○															
14	平林	〃			○	○	○	○				○		○						○		縄文中期住5、土壙群・ロームマウンド
15	さがり	〃					○	○														縄文中期土壙2
16	寺沢	〃					○															以前に住居址確認
17	いもう	〃					○															
18	中原	〃					○								●							
19	杉ヶ洞	〃				○	○								●							縄文中期住6（以前に2・中央遺4）
20	中ツルネ	〃					○															
21	古畑	〃					?															
22	川郷	〃				○		○				○	○		●							縄文中期住1、配石遺構2、火葬墓2
23	赤坂	〃													●							
24	若林	〃					○								●							
25	大平	〃													●							
26	福澤	〃					○															
27	鬼ヶ久保	〃					?															
28	大垣外	〃				○	○	○				○	○	●	○	●			○	○	●	○	400点以上の石製模造品　祭器群
29	綱掛峠	〃																	○	○		○	塞鍵が出土
30	北沢	〃	○				○								○	●				○		
31	廻ノ戸	〃					○							○	○	●						
32	高蒲平	〃					○															
33	奥根木原	〃					○	○														
34	前田	〃					○															
35	長平	〃					○															
36	宮ノ越	〃					○															
37	梅ヶ久保	〃					○	○				○										
38	草刈場	〃					○															
39	牧ヶ原	〃					○	○														
40	むかい	〃					○															
41	大野向山		○																			尖頭器
42	長塚原						○															

表1　阿智村智里地区埋文包蔵地一覧

No. 2

NO	登録番号	所在地	旧石器	縄文時代						弥生時代			古墳時代			奈良	平安時代			中世	近世	備考
				草	早	前	中	後	晩	前	中	後	土	須	石		土	須	灰			
43	大沢	智里東					○															
44	原の平	〃					○															石鏃・石匙ほか石器出土が多い
45	棚原	〃																				石鏃
46	矢平Ⅰ	〃					○										○	○				
47	矢平Ⅱ	〃																				スクレーパー
	智里西地区																					
1	浪人松	横川	○																			
2	かったい洞	〃					○															
3	ホド平	〃				○	○	○														
4	まきだち	〃					○															
5	神坂峠	神坂山				○	○	○				○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	石製模造品大量出土、縄文時代遺物出土
6	神坂峠東	〃																○	○			
7	万岳荘	〃																	○	○		
8	千本立	〃											○				○	○	○	○		
9	池の平	〃																	○			
10	わる沢上	〃																	○			
11	わる沢	〃																	○	○		
12	そぶ沢	〃																		○		
13	山伏塚	〃																○	○			
14	イワガシャA	〃																		○		
15	イワガシャB	〃																○		○		
16	井尻洞	〃																		○		
17	第二洞	〃																		○		
18	神坂神社	園原					○										○			○		
19	杉ノ木平	〃			○		○	○	○			○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	祭祀址・平安住2・掘立柱建物址・配石遺構・竪穴址・土壙・道路跡・墓壙等
20	児の宮	〃					○						○	○	●				○	○		朝日松周辺
21	マサゴヤ	〃													●							
22	クラガリ沢	〃											○		●							
23	薬師平	〃				○	○					○	○									
24	菖蒲平	〃					○						○	○								
25	上の平	〃												○								勾玉出土
26	長者屋敷A	〃					○						○						○			
27	長者屋敷B	〃						○					○				○		○	○		
28	下瀬が原	〃					○	○									○		○	○		
29	サブゴヤ	〃					○															
30	下ノ平	濃間	○			○	○	○										○		○	○	縄文中期住2、竪穴・土壙群、近世陶器窯跡、旧中御山社礎石・石段
31	濃間	〃					○	○				○										
32	濃間上ノオ山	〃					○															
33	外濃間	〃					○															
34	上野平	中央				○	○															
35	向平	戸沢					○					○										

表2　阿智村発掘調査（含分布調査）遺跡一覧

	調査年数	地区	遺跡名	事業名	検出された遺構・遺物	
1	昭和27年	春日	中原遺跡	阿智高校造成	古墳時代住居址 1	伊久間原と共に下伊那最初の古墳時代住居址
2	昭和42年	〃	中原〃	〃	縄文時代中期住居址 2　弥生時代住居址 2　古墳時代住居址7　土師器・須恵器　石製模造品	古墳時代の土器は和泉式のものが多い。
3	昭和42年	智里西	神坂峠〃	分布調査	縄文時代早期・後期の土器や石器、土師器・須恵器発見	
4	昭和43年	全地区	中央道遺跡地	分布調査	各時代の遺物が確認される。	矢平Ⅱ・杉が洞・川端・北福外・場場・苗場・おう・宮の脇遺跡が登録される。
5	昭和43年	智里西	神坂峠 遺跡	確認発掘調査	石製模造品・土師器・須恵器・中世陶器等大量発見	その後国史跡に指定される。
6	昭和44年	春日	下原〃	住居団地造成	縄文時代中期住居址 1	
7	昭和45年	智里東	矢平Ⅱ〃	中央道工事	スクレーパー出土	
8	〃	〃	杉が洞〃	〃	縄文時代中期住居址 4、石製模造品	
9	〃	〃	川畑〃	〃	縄文時代中期住居址 1、縄文時代晩期配石遺構 2、中世火葬墓 2、土師器・須恵器・石製模造品	縄文時代晩期墓形土器は貴重品
10	〃	〃	北屋外〃	〃	縄文時代中期住居址 2、中世火葬墓 2	
11	〃	〃	横場〃	〃	近世屋敷跡、縄文時代土器・須恵器・近世陶器	
12	〃	駒場	切塚古墳	〃	方形石積み基壇・墓壙、古銭	
13	〃	〃	宮の脇 遺跡	〃	スクレーパー・須恵器片	
14	昭和46年	智里西 園原	杉ノ木平A〃	中央道斜坑工事	石製模造品出土地、平安時代住居址 2、配石遺構 7、中世掘立柱建物址 2、道跡跡、焼土跡、銭甕等	盛鉢斜面に遺構・遺物が集中し重要遺跡の一つ
15	〃	智里東	庄ヶ原〃 （旧森下）	国道改良工事	縄文時代・弥生時代・古墳時代住居址 4、土壙 3、中世配石遺構 1、石製模造品・灰釉陶器片・中世陶器片	
16	〃	〃	さがり〃	〃	縄文時代土壙、縄文時代中期・後期土器片	
17	昭和47年	〃	森下〃	〃	縄文時代中期住居址 1、中世配石遺構 1、中世か老母 5、土壙 5、石製模造品を伴うローム マウンド・土師器・須恵器片、縄文時代早期土器片	川畑遺跡から国道周辺にかけて石製模造品が出土する。
18	昭和48年	智里西 園原 神坂山一帯	杉ノ木平B〃	中央道斜坑工事	縄文時代早期竪穴 1、石製模造品を伴うテラス 2、道跡跡及び道跡状遺構 7、竪穴・土壙 7、土師器・須恵器・灰釉陶器・中世陶器	道跡跡には奈良時代・中世のものがあり、構造的・コース等から東山道跡と推定される。
19	〃	〃	中原遺跡	分布調査	黒沢上・そぶ沢・いわがしゃ・井沢割・第二調地蔵で、須恵器・灰釉陶器・中世陶器片が採集される。	神坂神社から神坂峠一帯には遺物出土地が多い。
20	昭和51年	春日	中平〃	阿智高校グランド拡張工事	縄文時代中期住居址 5、弥生時代後期住居址 3、方形周溝墓 1、土壙、道跡跡（石製模造品30・土師器・須恵器・灰釉陶器片出土）	杉ノ木平遺跡の道跡跡と共に重要な遺構である。
21	昭和52年	昼神	鬼平〃	浄水場建設	縄文時代前期住居址 1、土壙 5、縄文時代中期住居址 2	阿智村では縄文時代前期の遺跡として貴重
22	昭和53年	春日	内垣外・向田	土地改良事業	縄文時代中期住居址 1、中世火葬墓1	那治幸等の調査による。
23	昭和55年	〃	下原遺跡	住宅団地造成	縄文時代中期住居址 7、小竪穴 21、中世建物址 1	
24	平成 3年	〃	宮田〃	農協事業所建設	縄文時代前期竪穴址 1、古墳時代後期住居址 13、奈良時代住居址 1、古墳時代・奈良時代・中世掘立柱建物址5以上、土壙・ピット群・溝址、石製模造品・山茶碗・青磁鍋片出土	奈良時代の住居址・建物址の検出は重要な発見である。
25	平成 4年	〃	内垣外〃	村道改良工事	縄文時代中期住居址 2、平安時代住居址 7、土壙 25、平安時代・中世掘立柱建物址 6、中世配石遺構・土壇状遺構、近世石臼み遺構等、銭貨石積	平安時代・中世・近世の遺構遺跡である。
26	平成 6年	智里東	平林〃	下水道終末処理場工事	縄文時代中期住居址 5、縄文時代中期・後期土壙群（140基以上）縄文時代後期ローム マウンド 5、集石遺構10、弥生時代後期・須恵器片出土	縄文時代中期中葉の完形土器多く、後期の土器片も出土している。
27	平成 6年	伍和	カヤハラ〃	土地改良事業	縄文時代早期集石炉 4、縄文時代早期・前期土壙群、縄文時代中期・後期土壙群、方形配列土壙群、1、時期不詳竪穴址 1、平安時代灰釉陶器片出土	伍和地区では最初の本格的な発掘調査で、縄文時代早期の集石炉、土壙群が検出された。
28	平成 7年	智里西	下の原〃 京平	スキー場リフト建設	縄文時代中期住居址 2、同竪穴址 5、同土壙群、中世以降石組遺構 3、近世陶器窯ものはら、近世田中前山社碑石群・長大石敷遺構遺物は確認されなかった。	過剰焼窯跡の所在が新しく検証され、近世陶器窯跡の遺物が多い。中前山社の遺構も確認された。
29	平成 9年	智里東	大垣外〃 （本報告）	土地改良事業	道跡跡・祭祀群・石製模造品・祭祀場、縄文時代土器集中地・弥生時代土器集中地・中世陶器	本報告、祭祀群・石製模造品出土で祭祀場検出

網掛峠から東へ下るコースは東側の尾根道と西側の沢道があるが、古代のコースは尾根道が有力と思われる。峠の東側には尾根上に平場があり、今回須恵器片が採集され、磐座状の石群もある。ここから下ると大垣外の諏訪明神社の裏に出て大垣外遺跡に通じている。大垣外遺跡は大正時代から300点余の石製模造品が集中的に出土していて、網掛峠東麓の祭祀遺跡とされていた。今回の発掘調査により300点ほどの石製模造品が出土し、石製模造品を伴う祭器的な土器が埋められたところが20か所以上検出され、道路跡も見つかっている。本文分布調査の報告のように、中平地籍のほぼ全域から古墳時代の土師器・須恵器片、平安時代の須恵器・灰釉陶器片、中世頃の陶器片が多く採集されている。

大垣外遺跡の調査結果は本文にあるとおりであるが、単に石製模造品が多く出土してということだけではなく、須恵器・土師器を伴い、石製模造品も伴う道路跡が検出されたり、南面の傾斜面に帯状に続く祭器群が検出されたことで、網掛峠東麓のこの地で山の神を祀りながら、旅の安全を願った数少ない祭祀場があったことが実証されて、典型的な祭祀遺跡の一つとなった。またこの一帯は、古墳時代・平安時代の遺跡であるほかに、縄文時代・弥生時代の大きな遺跡であることも実証されている。

大垣外からは、本沢を渡河して東側の尾根沿いに下平地籍へ下っている。その間には稲葉・若林・赤坂・川畑・北垣外等の遺跡が続いている。これらの中で、石製模造品が出土している遺跡は大平・若林・赤坂・川畑遺跡で、とくに川畑遺跡では42点が集中的に出土している。古墳時代・平安時代の遺物が発見されているところは川畑遺跡だけである。国道153号線改修工事に伴い発掘調査された庄ケ原・森下遺跡では石製模造品のほかに古墳時代・平安時代の遺物が発見されている。

鎌倉・室町時代の事は不詳なところが多いが、古代東山道に続く交通路として網掛峠・神坂峠が使われていることから、駒場地籍・智里地籍の東山道沿いの遺跡では中世の遺物出土が多い。会地地籍では、内垣外・中関・京田・五反田遺跡であり、智里東地区では庄ケ原・森下・大垣外遺跡で、智里西地区では杉ノ木平・神坂山一帯・神坂峠遺跡等が挙げられるが、これらの遺跡は大部分が発掘調査された遺跡で、発掘調査が行われれば中世遺物出土の遺跡は増加するものと思われる。

（3）園原新田等の開発

戦国時代に阿智地域がどのようであったか定かでないが、武田信玄終焉駒場説があったり、下條氏の支配下にあったこと、長塚・坊塚等の信仰塚等が残されていたこと等から開けた地域であったと思われる。小野川村・昼神村が組織化されたのは飯田領主京極時代で、江戸時代初期は上町宮崎氏の預かり地であったらしい。飯田の領主が堀氏に替わった時、下伊那の多くの村々が天領（幕府領）になった。小野川・昼神村もその中に含まれているが、村上領や沢氏領であったり、旗本知久氏預かり・飯島代官所支配等入り組んだ支配関係が続いている。

古代東山道の交通が盛んな頃には小野川は勿論、智里西地区にも何軒かの家があったと考えられる。交通路が衰退した室町時代頃には他所に移住して、西地区は無人の状態になったと伝えられている。

江戸時代の初期には現在の西地区、網掛山から恵那山一帯は野熊山と呼ばれ、御榑木山で地元小野川村を初め、昼神・上中関・向関・大鹿倉・備中原の６か村の人々はこの山から榑木を伐り出して、米の代わりに榑木で納めていたが、元禄年間になると口元の山には榑木材の櫨・檜が乏しくなり始め、享保年間には山頂近い奥山を除いては材がなくなる状態になったといわれる。

現在の園原・本谷の集落のある平な所は、寄せ付け場として最も早く伐り出され、材木の寄せ付け

場・休息所が設けられたと思われる。この時期に園原・本谷の地へ小野川の人々が入り込んで新畑を開いて居住し始め、園原新田村が作られたと伝えられている。この場所が認められるまでには幾多の苦労があったことは当時の開発先達者佐々木久左衛門が記した「園原末代鑑」に詳しい。

寛保3年の新田検地帳によると、反別10町1反9畝27歩、作人は26人となっているが、実際は37人と伝えられている。江戸時代後期には小野川村園原新田と呼ばれ、小野川村を親村とか本村と呼んでいる。阿智村誌の戸口調査表によると、戸数は寛保3年（1743）は小野川村450戸（内園原新田36戸）であったが、明治2年（1869）には1012戸（園原新田76戸）と急増している。園原新田が新たに開発されただけではなく、親村でも新田開発が盛んに行われたためといわれている。矢平地籍は明治時代の入植で現在でも智里東地区に含まれている。西地区に属する横川地籍は古くは駒場村上町にかかわっている。

このように奈良・平安時代に官道として賑わった古代東山道も、鎌倉時代には廃道となり、その後も通行人はいくらかあったと思われるが、室町時代末期の木曽氏による木曽街道の開鑿や清内路街道の開設等により神坂峠・網掛峠は使われなくなった。反面、戦国時代には武田信玄による伊那街道の改修、江戸時代の野熊山の開発等による小野川の道路や網掛峠越えの道路も改修されていると思われる。中平地籍に小野川関所が設けられたのも網掛峠往来の人々が多かったものと思われる。この頃の道は、古代東山道を辿るコースもあったであろうが、最短コースを辿る新道も開発されたと思われるので、新・旧の道路が入り交じる所もあり、古代東山道を探る困難度も高いところでもある。

（4）神坂線の開発

交通のとだえた神坂峠越えが復活したのは、明治35年である。中央線名古屋・中津川間が開通し、名古屋方面からの移出入物資の運搬が三州街道から鉄道輸送に一変した。中津川から荷車で落合・湯舟沢まで運ばれ、ここから馬の背により神坂峠越えで園原から駒場まで運搬されていた。明治36年、智里・会地両村が起業者となり改修を請願したが、飯田を起点とする大平街道、駒場を起点とする清内路街道の改修により実現することなく10年ほどで再び交通がとだえることになった。なお、この時のコースは神坂線（富士見台公園線）の開鑿により網掛峠は通っていない。

神の御坂道復興の願いは地元園原の人々の悲願でもあった。安政5年には尾張藩に願い出たり、慶応2年には新領主堀氏へ願い出ている。明治元年には、熊谷直一・熊谷治作・熊谷勇作・田中平七・渋谷弥一郎氏等により飯田藩奉行を現地案内して、落合から霧ケ原まで1里12町・霧ケ原から園原まで2里15町・園原から駒場まで2里半、総工費825両2分として上申調書を提出したが実現していない。

明治10年には自力開発を計画し、前記発起人のほか園原33戸が総出で開鑿に従事して、神坂峠までの道筋を作ることができた。（沢道コースかと思われる）明治12年には飯田町有力者の資金援助を得て、熊谷松太郎・熊谷栄三郎・渋谷彦太郎・熊谷伊太郎・熊谷喜太郎氏等が発起人となり、昼神を経て駒場へ達する新道開鑿が計画された。駒場を起点にして園原まで2里10町15間、月見堂から神坂峠まで42町24間、峠より落合村まで3里、人夫賃阿知川線1500工・神坂線2000工を予定したが、難工事で資金は不足し中止されそうになった。耕地内から271円95銭の義援金を得、さらに近郷の駒場・伍和・山本村を始め、遠く飯田町、座光寺・松尾・神稲・三穂・下條の諸村から690余円の義援金も集まり、明治15年に再び工事を始め、明治17年に竣工している。人夫延べ5565人、土工賃金1019円65銭、諸雑

費80余円を費やして横川渡から昼神までの新道が開鑿され、一応駄馬の通行ができるようになった。その後、木曽地方への連絡道候補としての請願、中津川駅開通に伴う復活等の事情は前記の通りである。

明治36年以降、たびたび請願を出したが実現されないまま、昭和38年昼神－本谷間が富士見台公園線（県道245号線）となるまで、長い間地元民と関係村々の負担で行われている。昭和41年、中央自動車道（東京－小牧間）の施行命令が出され、昭和43年に恵那山トンネル坑口付近の買収契約がなされ、恵那山トンネルのパイロットトンネルの掘削工事に着手している。この工事の工事用道路でもあったり、地域開発のためにたびたび改修工事が行われ、現在のようなりっぱな道路に生まれ変わっている。

このような道路改修工事によって、網掛峠道は山林経営の山道であり、矢平・園原・本谷の人々の徒歩道に使われるだけで、災害等により荒廃した道路になっている。ある意味ではこのことが幸いして、古代東山道を彷彿させる自然景観が多く残されているともいえる。

（5）網掛峠踏査記

明治時代・大正時代から現代まで多くの研究者が網掛峠の踏査をしていると思われるが、その記録は定かではない。昭和26年７月、下伊那史編纂にかかわる大場磐雄・市村咸人先生等一行により網掛峠・神坂峠の踏査が行われているが、網掛峠の蛇瘤杉の付近で雄鎌・灰釉陶器片が採集されて、下伊那教育会の教育参考館に保管されている。平成元年以降、阿智村東山道研究会の方々により、たびたび網掛峠から矢平までのコースが踏査され、大山道の小字名を拠り所にして通過推定コースが検証されているが、遺物の発見は報告されていない。平成９年の大垣外遺跡の発掘調査の後、地元の方々から山道の整備・遊歩道整備の聲が高まり、阿智村教育委員会では何回かの踏査が行われている。

平成10年12月16日、阿智村教育委員会の招きを受けて網掛峠越えの尾根道を踏査した。この日は、石原教育長・原文化財委員・林社会教育係長・地元研究者熊谷耕平氏と今村ほか調査員の総勢８名である。大垣外熊谷千昭氏宅に集結し、裏山の杉木立を分け入って無量寺跡・お池跡を見る。大垣外地籍を扇端にして、本沢による扇状地が再び本沢によって解析された地形で、上方は雑草と雑木が茂るので地表の様子は分かり兼ねるが、下方は扇状面が開け土師器・灰釉陶器片も拾え、火葬墓らしい遺構の所在も推測される。その下方が大垣外の発掘地点で、遺跡の広がり・性格を知る大事な場所のように思われる。無量寺跡周辺にはオタキバ・ヤマイワの地名が残り、本沢対岸には大平神社がある。お池跡はわずかな窪みが残り、水草もある。何時か正体を確かめたいという声も出た。

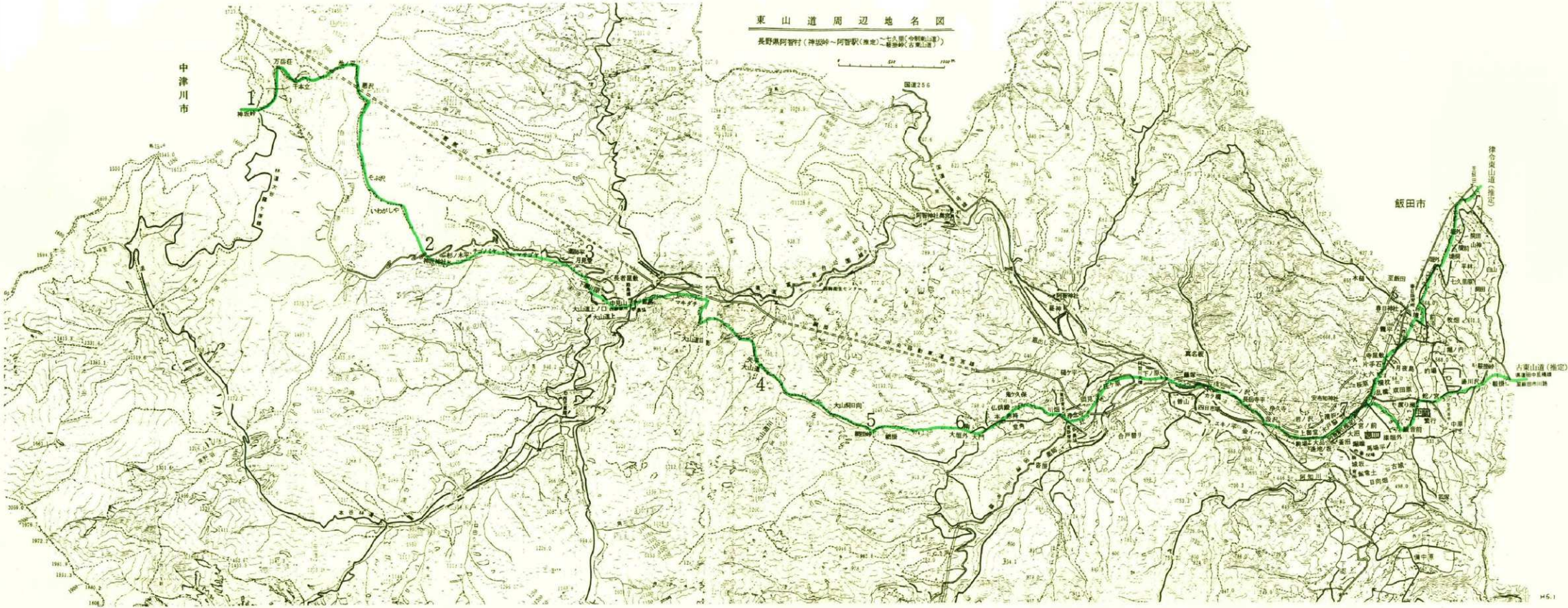
古代東山道は無量寺近くを通ったという意見と、参道が南側にあるとすれば南側下方が適当という意見も出された。無量寺の開創は定かでないが、寺号・十一面観音等から推量すると古そうにも思えるので、古代東山道の通過推定地を探る重要な手がかりがあるように思われる。

ここからつづら折れの山道を登ると、諏訪大明神社の南側を通る山道と合流するところがある。大垣外遺跡の石製模造品集中地や祭器群が遺跡の主体部と考えれば、諏訪明神社近くのコースが有力という意見も出た。この辺りから上方のコースにはつづら折れの道形が各所で観察され、所どころに崩壊の痕跡が残されている。振り返ると木の間越しに遠くは駒場の平が望まれ、下平の集落を見下ろすことができる。中腹にかかる辺りは窪みの道形が比較的よく残され、眼下の視界もだんだん広くなる。所どころに竪堀状の窪みがある。材木搬出の木落とし場の名残といわれる。道沿いに円形状の窪みがあり、炭も散乱している。炭焼き場の跡といわれる。先にも触れたように近世から近代にかけてこの

山の利用度の高かったことを物語っている。

さらに登るとカイツケと呼ばれる地籍があり、窪み状のつづら折れの山道が続く。道形がよく残されているところで、この辺りから大きな転石が所どころにある。磐座があるとよいな思いながら登り切ると、平場の尾根が続き、大きな石群があった。北の傾斜はきついが南側は緩やかで、大野部落や所沢トンネルに続く国道153号線を見下ろすことができる。絶好の休み場で、薄日を浴びて昼食を食べた。この平場は立ち木は低く落ち葉の堆積は少なく、雨木村の市瀬さんが須恵器片を拾った。今までのコースは落ち葉が厚く堆積し木の子根も多く遺物にお目にかかれなかったが、世紀の大発見といって皆が目を皿にして探したが次の発見はなかった。

この平場を下るつづら折れの窪道を下りると、かっては蛇瘤杉の大木のあった網掛峠である。大杉の株は残され、傍らに網掛峠の説明板がある。東麓から来る山道・大山洞へ下る山道・タカツカサマの山へ登る山道・林道線へ下る山道の落合にあり、石段を登る小高い丘の上に蛇瘤杉の記念碑が建っていて、木の間越しに園原の部落と神坂峠の鞍部を望むことのできる絶景の眺望で、網掛峠の「手向けが丘」に相応しいところであった。以前には網掛社が祀られていたが、現在は伏谷神社に合祀されている。今は、熊笹の雑木の生い茂る所で、遺物の有無を確かめる手立てはないが、昭和26年、市村・大場先生一行による薙鎌・灰釉陶器片発見の故事を懐かしみながら矢平へ向かう大山洞の急坂を下っていった。



1 神坂峠　　2 神坂神社　　3 月見堂　　4 矢平大山道　　5 網掛峠　　6 大垣外遺跡　　7 阿知駅推定地

第2図　阿智村古代東山道通過推定地図　（阿智村古代東山道研究委員会作成）

Ⅲ. 調査の結果

1. 大垣外遺跡の位置と概要

大垣外遺跡は阿智村小野川中平地籍の上段に位置する。寺沢川支流の本沢沿いを登ると、網掛峠東麓裾に祀られる諏訪明神社前に開ける扇状台地上にある。この扇状地は西方に南北方向に並ぶ網掛山（1132m）・網掛峠（971m）・タカツカサマの山（1075m）の山稜から流れ出る本沢・寺沢川・ウルシ沢・奥根木沢によって解析された渓谷が並び、その麓に大平・中平・藤ノ戸・奥根木の台地が南北方向に連なり、中でも大平・中平の台地が広い。とくに、中平台地の広さは、南北は上方でやく300m・下方では100m足らずの逆三角形の傾斜面で、長さは600mほどある。東側下方は傾斜がきつく、西上方は比較的緩やかな傾斜面が続く。この中平の台地には、現在26戸による散在した集落が構成されている。本沢沿いの急坂を登り切った所にある旧小野川関所跡付近から南側の寺沢川右岸の北沢地籍までは、村道１－10号線が台地を取り巻くように平坦に続いている。この道路周辺から上方山麓の扇状地頂部までが大垣外遺跡の中心のように思われるのは、第３図表採遺物分布図で推測できる。

大垣外遺跡の中心部をさらに詳しく観察すると、「小野川関跡」の石碑の建つところから西へ登ると「古代東山道祭祀遺跡」の大きな石碑がある。ここで村道３－208号線と旧道が分離している。旧道は湾曲しながら発掘調査地の上で村道と合流している。旧道の北側には旧屋敷跡の区画が何か所かに残され、土師器・中世陶器片を拾うことができる。便宜上、村道３－208号線の上方をＡ地区、この村道と旧道の合流点の道下が調査地Ｂ地区で、南側へ続く段々の水田が造成されていた。最上段Ｂ１地区の水田下から多くの石製模造品が出土し、道路跡・祭器３・４・15・17・18・19・21・24が検出されている。村道３－208線から上方には熊谷千昭氏宅があり、その庭園内から大量な石製模造品が集中的に出土している。この場所は、調査区Ｂ１からの距離は20m足らずである。昭和53年の熊谷鋭三郎の談話記録（聞き手・記録者原治幸）によると、「大正６～７年頃、梅の木を植えるため径３尺・深さ３尺くらい穴を掘ったらバラバラと模造品が出て来た。数は10個くらい。その後その北側５メートルくらいを掘ったら200個くらい出た。梅の木から５メートルくらい南に50×50×10cm（厚さ）くらいの平石があり、その上側が黒く焦げ、そのそばから高坏の脚部と磨製の石斧（破片）が出た。（地下１尺くらい）」

「熊谷氏の父愛次郎（義父）が屋敷引きの際、梅の木から西へ５メートル付近で径６尺くらいに石並べその中から矢尻（模造品か？）が両手いっぱいくらい出たが、祟るというので田んぼへ埋めてしまったというが、その位置はわからない。」と熊谷千昭氏は語っている。

熊谷氏宅の東側・北側一帯は、諏訪明神社のある崖錐面と本沢に挟まれた山麓の扇状地形のところで、縦横に通ずる旧道が方形状に入り組み、周辺の水田や畑から土師器・須恵器・灰釉陶器片・中世陶器片が多く採集され、耕作中に発見された石組み遺構等から火葬墓の所在も推測される。旧道は北西上方に向かう山付けの道と本沢沿いの道が並んでいる。この間にも旧畑が続くが、雑草が生い茂り遺物の採集はできないが、陽だまり状の緩傾斜地で、上方に無量寺跡とお池跡が残されている。本沢

の対岸には、大平神社が祀られ、上方の畑から遺物出土（含模造品）が伝えられている。

土地改良地域の詳細分布調査をした結果は第３図に示したように、上方大垣外地籍から南沢に面する低地にかけて、土師器・須恵器・灰釉陶器・中世陶器が広範囲から採集されている。とくに多いところは村道３－208線周辺から上方にかけた一帯である。そこで、事業地全体の調査は困難なために、熊谷千昭氏宅前の６枚の水田を重点地域に定め、下方については必要により調査をすることにした。将来のことも勘案して、村道３－208線上方（事業地外）をＡ地区、村道下の水田６枚をＢ地区、村道１－10号線下をＣ地区と呼び分け、Ｂ地区は上段から水田ごとにＢ１～Ｂ６地区とした。

熊谷氏宅前から村道３－208線は傾斜を増し、台地を掘り割つて登っている。この両側の畑では石製模造品（勾玉）のほか土師器・灰釉陶器片が多く採集され、鉄滓・溶滓も出土している。調査地の中で古墳時代以降平安時代までの中心は上方３枚の田であり、Ｂ地区の東側に続く2392番地の畑では表採調査地の中で最も多くの土師器が採集されている。第３図にみられるように、調査地Ｂと此処を取り巻く三方の地域を含めた一帯が大垣外遺跡の中心部と思われる。

2. 調査結果の概要

（主な遺構）縄文時代土器集中地・弥生時代土器集中地、古墳時代祭器埋設地24、古墳時代以降の道路跡１、同時代土坑５、平安時代竪穴住居址１、同時代火葬墓２、中世遺構（建物址）２～３・溝址２、縄文時代ほかの土坑15。

（主な遺物）縄文時代前期土器片・同時代中期土器片、弥生時代中期土器片・同時代後期土器片、古墳時代甕形土器（含小形甕）15・碗坏形土器６以上・高坏形土器４（内須恵器１）・鼬形土器２、平安時代灰釉陶器坏形土器２、中世天目茶碗１、中世青磁・天目茶碗・古瀬戸灰釉陶器・常滑系陶器片多数、管玉３・石製模造品238以上（除く小破片）・砥石４・刀子２・鉄製品４・鉄滓10以上。

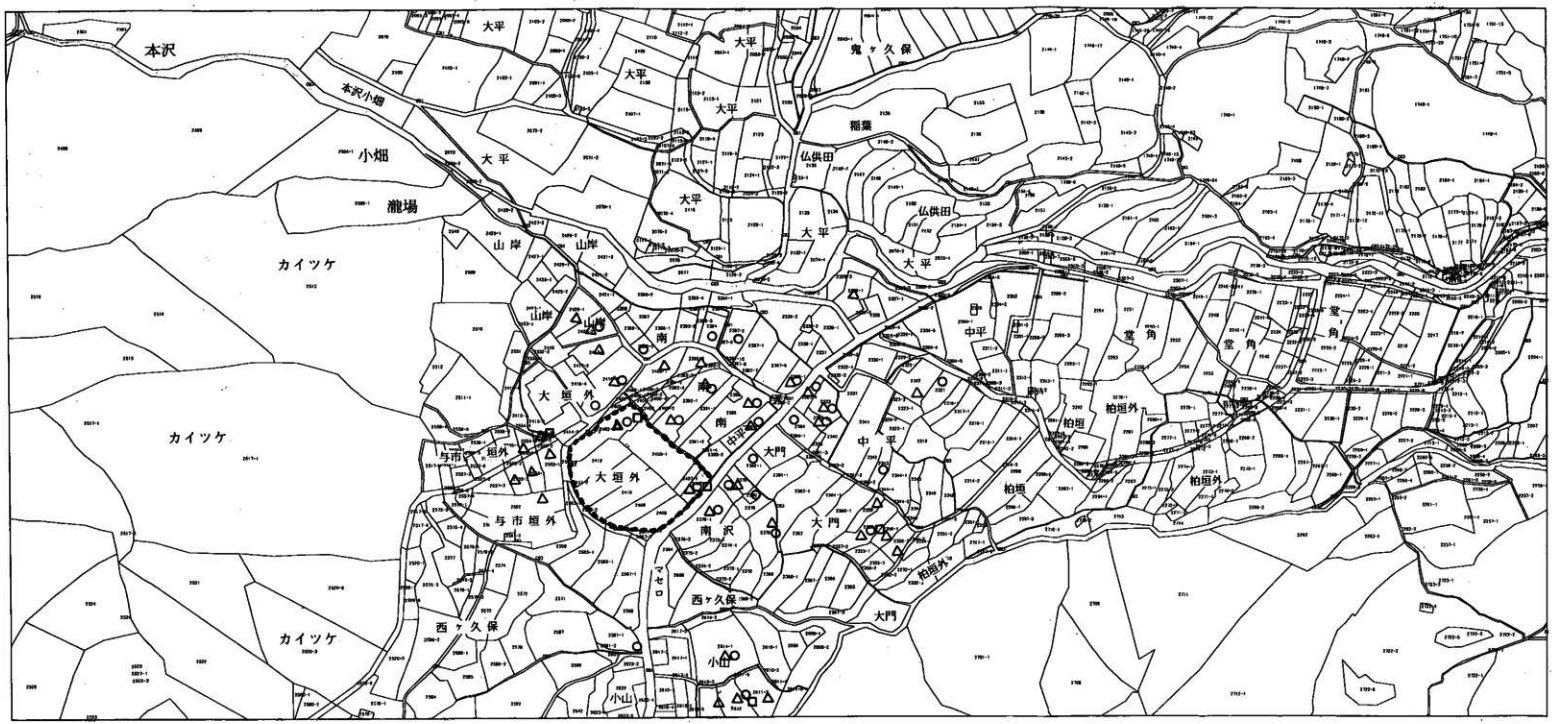
3. 調 査 の 結 果

上記の遺構・遺物の大部分はＢ１・Ｂ２地区のもので、Ｂ３地区では祭器と思われる高坏形土器（ＮＯ７）と弥生時代後期の土器片集中地が検出されただけで、下層の様子は確かめられていない。Ｂ４からＢ６地域にかけては少量の土師器・須恵器が出土し、下層からは縄文時代の土器片が出土しているが、遺構は検出されていない。Ｂ６地域では縄文時代中期の遺物が固まって出土しているが、遺構の検出までには至っていない。調査期間が限定されていることと、Ｂ１・Ｂ２地区に石製模造品が集中し、祭器群が検出されたので、Ｂ１・２地区を主にした調査が行われている。

村道３－208号線より上方の様子は不詳であるが、Ａ・Ｂ地区の原地形は、北から南へ傾斜し、中央部は高く東・西側へ緩やかに傾斜する、尾根状の地形で、山寄りの西側への傾斜は大きい。中央の微高地上に20か所ほどの祭器群が検出され、土器片・石製模造品が集中するのも同様の場所である。

（１）Ｂ１地区の結果

Ｂ１地区というのは、調査地最上段の村道３－208線に沿った水田下で、幅（南北）やく12m、長さ



第3図　中平地籍の地字と表採遺物分布図

（東西）やく40mほどの範囲で、道路跡、祭器3・4・15・17・18・19・21・24が検出され、古墳時代と想定される土坑3～4、時期不詳の溝址1、転石群中の中世遺物集中地が検出されている。

1．道路跡（第4・5・6図、写8・9）

B1地区中央用地境から東西方向に続く、幅2.2m・深さ30cm～40cmほどの帯状の窪みがある。中央部の土層図をみると、長さ1.7m・深さ40cmほどの窪みがあり、水田の床土下にわずかに黒色砂質土が堆積し、その下は黒色土混じりの黄または灰白色砂質土が4～5層堆積し、底は平坦で地山の黄褐色砂質土が踏み固められたように硬く締まったところが続く。東側は全面に転石が多くこの窪みの方向が見定めにくいが、後述する石製模造品の出土状況や小石・砂の堆積等から直線的に続く方向、東北へ湾曲する方向が観察される。

昭和48年の杉ノ木平遺跡で検出された1号道路跡は、傾斜地形の地下2mほどの所で検出されたが、大垣外の場合は水田造成による削り取りのために表土下20～30cmであり、地形・傾斜状況等から比較するのは困難ではあるが、路縁幅2.4m・路底幅1.6mと似通っており、小石や砂の堆積状況等の似た状況が観察される。

遺物の出土状況は、上層黒色土中から中世陶器片の出土はあったが、中層の茶褐色土・下層の灰褐色砂質土中からは須恵器・土師器片に留まり、道路底面や周辺から石製模造品が多く出土し、とくに臼玉は採集によるものが大部分で、路底の砂質土中や直上の砂質土中から拾われている。北西側の砂質土上層から大形の管玉（第15図10）やD21グリットから滑石製の紡錘車（第15図11）が出土している。後述する祭器3・17・21・4・24・18が直線的に並んでいる。

この道路跡は遺物の出土状況等から古墳時代に比定されると思われるが、東山道跡かどうかは決められないが、コース・方向等をみると、西側の延長線上には熊谷氏宅横の石製模造品集中地に当たり、東側は直線的に続くと仮定すれば、寺沢川沿いに下平へ続くと推定されるコースに繋る可能性は高い。

2．祭器群

① 祭器3（第4・5・6・10・12図、写7・18・19図）

F20グリットで検出された祭器で、道路跡沿いの砂質土中に径50cm・深さ20cmほどの窪みがあり、甕形土器と坏形土器2個が重なり、坏形土器が下で甕形土器が上になって潰れ込んでいた。土器を取上げると黒色土が碗状に残り、焼土や炭等は検出されていない。甕形土器は壊れが著しくて復元不能であるが、胎土は灰白色、たたき目文のつく土器で、B2地区の祭器10・14類似のもので、坏形土器は第12図9・10である。9は口径12cm・器高5.7cmでへらなで調整痕が明瞭に残り、器面調整の整った土器である。10は口縁部を欠き器面粗雑な浅い坏形土器である。このように複数の土器が埋められている例は祭器3だけである。

② 祭器4（第4・5・6・10・12図、写7・19・20図）

F23グリット周辺やく6m四方一帯には、上層検出の時から土器片が集中出土し、広い範囲から炭混じりの黄褐色土の堆積が厚く、黒色土のピット群が検出されている。出土する土器片は土師器片だけで、須恵器・灰釉陶器片は見つかっていない。

形が整った土器は第12図の土器で、第10図1の中央部大石の際に固まっていた土器を主体にして、東南側3mほど離れた位置の土器片も接合されて復元されている。非常に薄手のもので、底は丸底である。口径16.5cm・18cm、胴部最大幅18cmで器形は球状に近い。口縁は緩やかに外反し、口唇は斜めに面取りが施され、内部は薄く削り取られて口唇が内湾している。器面は水漉し調整がなされ、細いはけ目が横走・縦走・斜走し、底裏まで施文されるもので、飯田・下伊那地方では見かけないタイプのものである。18の土器は上層検出中に出た土器片であり、21の甕形土器底部、24の高坏形土器の脚部は検出終了間近に砂質土中に潰れ込んで埋まっていたものである。土器片集中部の下層には溝状の窪みが入り組み、東南面には20個に近い黒色土のはいった径15～20cmほどのピット群がある。祭器群にかかわるものかどうか不詳であるが、B2地区祭器10周辺にも類似のピット群があったので、祭器群または道路にかかわりがあるのかもしれない。

③ 祭器15（第4・5・6・10・12図、写7・28・29図）

祭器4の南西2mほどのところに土坑11がある。この南側に接して祭器15が検出されている。第10図2でみられるように土坑11に接するように径30cm・深さ10cmほどの窪みがあり、縁と底に平状の石が置かれ、その周辺に小形甕形土器片が固まっていた。底は東側やく1m離れた位置のものが接合されている。土器片の固まりに接して第31図14の刀子が出土している。刀子等の鉄製品はB2地区西側斜面で集中出土したほかはB1地区では此処だけである。

甕形土器は、口径13cm・器高12.5cm、胴部最大幅15.5cmの横幅の広い土器で丸底である。へらによる器面調整が丁寧で光沢を持っている。内面は黒色研磨され、底近くまで器面調整が行き届いている。厚さ・調整方法は違うが祭器4に似た器形である。

④ 祭器17（第4・5・6・12図、写7・31図）

祭器4と祭器3の中間、道路跡南縁沿いに砂質土に埋まるように横倒しの状態で須恵器高坏形土器が出土している。掘り込み等の形跡は見当たらない。

口径9.5cm・器高10cm、坏部高さ3.5cm・脚部高さ6.5cmあり、脚部両面に二段に重なる長三角状の透かし彫りが施されている。数少ない須恵器の中で器形の分かる唯一の高坏形土器である。

⑤ 祭器19（第4・5・11図、写7・31図）

西側傾斜面K30グリットの粘質の強い黄褐色土の中に甕形土器一個体が潰れ込んでいた。この場所は西側の低湿地に落ち込む低いところで水気が多いので、泥の中に落ち込んだ状況である。破片は多

かったが口縁がなく復元が難しかった。第11図３の甕形土器で、口縁・器高は不詳、胴部最大幅18cmのものである。

この辺りは埋め土・黄褐色土の堆積が１m以上あり、中層の黒褐色土・茶褐色土から遺物出土があり、下層の黄褐色土・灰褐色砂質土から祭器19のほかに、土師器片・石製模造品（鏡・剣形・臼玉）が出土している。

⑥ **祭器18・21・24**（第４・５・12図、写７）

祭器４の所で触れたように、祭器４の溝状遺構の回りに第12図３の甕形土器口縁（祭器18）、同図４・６の台付土器の台部、同図11の高坏形土器の脚部が出土している。11の高坏形土器脚部は、脚の径11cm・高さ７cmの小形なもので、細片を漸く復元したもので、３・４の土器も潰れて飛び散っていたものである。

これらの土器は祭器４の甕形土器片が飛び散っていたように、この周辺の中層・下層に散乱していた。同時期のものか、異時期のものかは不詳であるが、炭の散乱状況・ピット群の存在等から、この場所一帯が祭祀の場所に使われたものと思われる。第４・６図でみられるように道路跡周辺のような臼玉の出土は少ないが、祭器４・15の周辺からは円板・剣形の石製模造品が10点ほど出土している。

道路跡の時に触れたように、道路跡の南縁に沿って祭器３・17・21・４・28・24が直線的に並んでいる。石製模造品出土状況も同様で、とくに臼玉の出土は道路跡と北縁に多いことから、この道路を挟んだ両側が祭祀の場所に使用されたようにも思われる。

３．土坑

Ｂ１地区では登録された土坑は６・11・12・16・17の５基で、中央付近に祭器15に隣接した土坑11、その東南に固まる土坑６・12・16、西北側の用地境上層に土坑17がある。出土遺物の状況から全部古墳時代のものと思われる。

① **土坑11**（第４・５・11図）

Ｂ１地区中央部、祭器15の北側に隣接した土坑で、長径やく80cm・短径50cm、深さ20～25cmほどある。上層に３個の平状の石が配され、炭とわずかな焼土が検出されている。石の下は黄褐色炭混じりの砂質土で、その下層に焼土・炭混じりの層があり、下層は粘質の茶褐色土で、黄褐色土の地山に続いている。南側には深さが同じほどの祭器15の掘り込みに続いている。

焼土・炭は検出されたが、遺物は数片の土師器片だけで、南縁に近いところまで祭器15の土器片が落ち込んでいた。祭器15の上層・下層に配された平石、土坑11の上面に置かれた平石等の状況や土坑の深さ・東側に並ぶピット列等から推すと同一の施設のように思われる。

② 土坑6・12・16（第4・5・31図、写14図）

祭器15の南東2mほど離れたところに3基の土坑が重複するように並んでいる。大きさは土坑6は径60cm・深さはやく40cm、土坑12は径やく1.1m・深さやく50cm、土坑16は長径1.2m・短径やく90cm・深さやく60cmほどある。3基とも出土遺物・堆積土層等から古墳時代のものと思われるが、最も整ったものは土坑12である。

土坑12は径やく1.1mの円形プランで、深さはやく50cmの筒形のものである。覆土は上層は灰褐色砂質土、中層は灰茶褐色・黒褐色土が堆積し、下層は赤褐色の粘質土で、坑底は礫混じりの黄褐色土である。遺物は上層から中層にかけて土師器甕片・坏片が10数点出土し、下層から第31図25の砥石が出土している。

この辺りでは下層に黒色土の堆積がみられ、縄文時代の遺物包含も予想されるが、ここの土坑3基とも縄文時代の遺物は出土していない。

③ 土坑17（第4・5図）

西北側用地境の石積み下から須恵器片・土師器片が固まって出土している。掘り下げてみると茶褐色土の中に黒褐色土の落ち込んだところがあり、坏片・高坏形土器片が数点出土している。形態・土層等不詳であるが、土坑17として登録した。

4．溝址1

祭器4の南東側から南東方向に続く帯状の窪みがある。道路に並行するものと思われたが、掘り下げてみると南に向きを変え、灰褐色砂質土が厚く堆積する溝址であった。上層には黒色土の堆積するピット・土坑状の落ち込みがあったが共に浅く消えてしまった。出土する遺物は少なく上層では中世陶器片、中層から須恵器片・土師器片と石製模造品が出土している。南側では水田造成で削り取られて消滅している。西北上方も急激に細まり消滅しているが、或は祭器4の溝状の窪みに繋っていたかもしれない。いずれにしても時期を決めることは難しい。

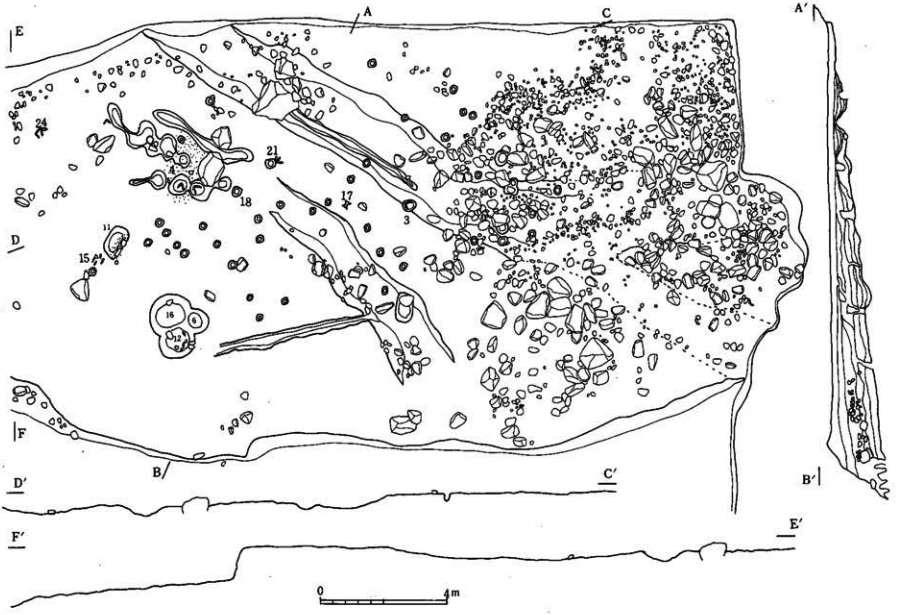
5．中世遺物出土地（第4・5・29～32図、写39・40図）

調査地全域から中世・近世の陶器片は多く出土しているが、とくに集中的に出土したところはB1地区の東側である。第4・5図でみられるように東側一帯は大きな石を含む転石群がある。これら転石の間やその上層から中近世陶器・陶器片が相当量出土している。第29図～32図に採録してあるが、山茶碗・青磁・天目茶碗・古瀬戸系の陶器・内耳鍋・常滑系の陶器・擂り鉢・近世陶器・フイゴ羽口・古銭・鉄製品・鉄滓等である。一部の完形・半完形のもののほかは大部分破片である。

出土する場所は一か所に集中するという状況ではなく、転石の間とかその上層であったり、水田造成による埋め土の中で、遺物にかかわる遺構等の発見はなかった。とはいっても出土する量は多く、北側上方・東側用地外には中世陶器片が表採できる所が多いことから、この近くに中世遺構の存在が

第6図　B1地区石製模造品・土器片出土分布図

第6図 SB1地区遺構検出図・3土器片出土分布図



第5図　B1地区道路跡、祭器3・4・15・17・18・21・24配置図

予想される。

第29図１・２は山茶碗の鉢片、３は青磁碗片、４～14は天目茶碗で４は口径10.5cm・器高6.5cm・底径4.2cmのほぼ完形品である。釉薬は濃茶褐色で細かい斑点混じりのものである。東側大石の間から出土している。(写図39) 15～43は古瀬戸系の鉢・碗・皿の破片で、菊皿の多いのが目につく。古瀬戸中期・後期のものが含まれているが中期と思われるものが多い。第30図のものには古瀬戸系のものも含まれているが、多くは近世のもの・雑器等の破片が多い。

第31図の１～10は内耳鍋の破片、11～13は常滑系の陶器片である。内耳鍋も破片ではあるがこれらのほかにも20点ほど出土している。第32図は擂り鉢である。採録してあるのは９点であるが、このほかにも破片20点ほど出土している。

陶器片のほかに鉄製品は第31図18～21の刀子破片・中茎、24の火打金が出土し、古銭は32図13～17の５枚で、13・14は咸平通寶、15は開元通寶、16は永楽通寶、17は不詳である。10～12は鉄滓でこの他に20点ほど出土している。

Ｂ１地区を大きくまとめると中央部の微高地状の緩傾斜面に道路跡とそれに沿うように祭器３・17・21・４・18・24が並び、少し離れた南側に祭器15、土坑11・６・12・16が検出され、祭祀の場として利用されたと思われる。東側は転石が多いところで上層または石間から多くの中世遺物が出土した。石の下には遺構がないように思われるし、将来道路跡の行方を確かめるために現状保存することにして、石の下は掘り下げてない。西側は西へ傾斜する地形で表土１mほどのところから石製模造品や祭器19が検出され、低湿地に面するところから数個以上の臼玉は出土し、低湿地に近いところの祭祀場のあり方に課題が残されている。

(２) Ｂ２地区の結果

Ｂ２地区というのは水田造成面の上から２段目の地域で、東側は畑地で切り取り面のない傾斜地で、西側は水田造成による上下の切り取り面（段差）に挟まれた地域と分けられる。遺物出土が多く、祭器が集中するのは西側であり、石製模造品の出土も西側が多い。西側の地形は中央に微高地があり、東側へ緩やかに傾斜して東地域に続き、西側は中央部に近いところは傾斜が緩やかであるが、西に行くにしたがって傾斜を増し、西側の低湿地へ落ち込む地形である。中央の微高地的な平場を中心にしてみると、平場の全域から祭器が出土しているが集中的に出る場所は西側傾斜面に多い。東側傾斜面にも祭器は検出されているが、灰釉陶器を伴う火葬墓１・２、１号住居址は東側に集中している。

検出された遺構は、祭器として登録したものは１・２・５・６・７・８・９・10・11・12・13・14・16・20・22・23の16個で、中央高所面では祭器６・９・14・20・23の５基、東側の傾斜面では23・16と東に離れて単独で検出された祭器２、地籍はＢ３に属する祭器５・７を含めても４基で、あとの１・８・10・11・12・13・22の7基は西側傾斜面にある。石製模造品の出土は臼玉１個のほかは円板・剣形が多く、祭器２を除けば多少に違いはあるが祭器の周辺から出土している。とくに集中的に出土したところは西側の祭器11・12・13に近いところと　西側傾斜面の環状溝址の周辺で、祭器の集団がこの地域に集中していることが分かる。

西側の低湿地に面する斜面には炭の包含が多いところがあり、環状に続く溝状地形がある。この東

表3　阿智村大垣外遺跡祭器的土器一覧表

NO	土器NO	出土地域	材質・器形・状態	焼土	炭	配石	設置状況	周辺状況・その他の説明
1	● 3	B1中央	土師器甕・坏形土器				15cmの掘り込み	道路跡南縁、上部に甕形、下部に坏形土器が重なる。
2	●17	〃 〃	須恵器高坏形土器				砂中に横倒し	道路跡南縁、周辺に石製模造品多
3	● 4	〃 〃	土師器甕形土器	○	○		3個の掘り込み上	道路跡南沿い、広く散乱（奥遺系）
4	●15'	〃 〃	土師器坩状甕形土器	○	○	○	平石上に潰れ込み	上部に焼石・炭を持つ土壙沿い
5	18	〃 〃	土師器高坏形土器脚				浅い掘り込みの中	土器NO4の東の潰れ込み
6	24	〃 〃	土師器甕形土器				浅い掘り込みの中	土器NO4の西、形態不詳
7	19	〃 西側	土師器甕形土器片		○		浅い掘り込みの中	口縁無、胴部片潰れ込み
8	● 2	B2東側	土師器甕形土器完形				20cmの掘り込み中横倒し	周辺土器・構造品出土少
9	● 5	〃 〃	土師器甕形土器	○			30cmの掘り込み	上部耕作攪乱・下部潰れ込み、南沿いに剣形構造品5点出土
10	16	〃 〃	土師器甕形土器片				掘り込み不詳	10点以上の土器片集中
11	●20	〃 中央	土師器甕形土器			○	20cmの掘り込み中	斜横倒し
12	● 9	〃 〃	土師小形甕形土器			○	15cmの掘り込み中	平石の横・形態不詳
13	6	〃 〃	土師高坏形土器坏部				掘り込み不詳	坏部4点復元・脚無・周辺剣形出土
14	●23	〃 〃	土師甕形土器口縁				浅い掘り込み中逆位	周辺石製模造品7点出土
15	●14	〃 西側	土師甕形土器口縁				10cm掘り込み中	ロームマウンド中・周囲大形土器片
16	●10	〃 〃	土師甕形土器片重複	○			周囲1m黄砂土上	潰れ重複・東奥遺系の土器
17	● 1	〃 〃	土師甕形土器完形				黄砂土掘り込み中	黄砂土中に横倒し、15cm下に剣形1周辺下層に剣形3点出土
18	●11	〃 〃	土師鉢形土器完形				3個の石横、15cm掘り込み中、逆位	土器は石に接触、口辺～胴部穿孔の形跡がある。
19	22	〃 〃	土師坏形土器潰れ				浅い掘り込みの中	下部円板形伴出、周囲円板形多
20	●12	〃 〃	土師甕形土器口縁				浅い掘り込み中逆位	土NO11・22・12の間に円板形集中
21	● 8	〃 西南	土師小形甕形土器形				15cm掘り込み中横位	周囲円板・剣形構造品4点出土
22	7	B3中央	土師高坏形土器坏部				掘り込み不詳	

祭器群のグループ

（A）B1地区中央（最上段）・・道路跡内と西南沿い　（土器NO3・17・4・15）

（B）B2地区東側（2段目）（土器NO2・5・16）

（C）B2地区中央（2段目）（土器NO20・9・6・23）

（D）B2地区西側（2段目）（土器NO14・10・1・11・22・12・8）

側に祭器1があったり石製模造品が出土し、北側には刀子・鉄鏃等の鉄製品が出土している。

高所面の東側には火葬墓1・2や土坑が数基並び、傾斜面の東側に灰釉陶器を伴う住居址があり、その東側では遺物の出土は少なかったが、土坑が3基ほど検出されている。後述する祭器2は完形の甕形土器が埋設されたものであるが、周囲から付随する遺物・遺構は検出されていない。

B1地区とB2地区の間には水田造成の切り取り面と削り取られた面が4m幅で続き、古墳時代の包含層は消え失せている。下層の黒色を掘り下げると縄文時代の土器が集中するところがあるが、祭器群の検出に重点を置いたので一部の掘り下げのほかは詳細調査をしてない。B3地区に近い辺りでは弥生時代中期・後期の遺物が集中するところもあるが、此処も同様古墳期の検出面を残すために掘り下げていない。第7・9図に示したJ・Yの場所である。なお北側の削り取られた面には中世以降と思われる黒色土の大形な掘り込みが4個直線的に並ぶところがある。

いずれにしても、B2地区の中心的な遺構は16基ほどの祭器群であり、円板・剣形の石製模造品や古墳時代の土器片の在り方が大きな課題になる。祭器については西側・中央部、東側斜面から東・南一帯に分けて取上げることにする。

1．祭器群

① 祭器1（第4・7・9・10・11図、写12・15・16図）

西側溝址群に沿った位置で検出されたもので、重機による表土排土中に姿を現したもので黄白色砂質土中に長胴形の甕形土器が横たわって発見されている。発見当初から黒褐色の落ち込みが観察され、掘り下げるうちに土器一杯くらいの浅い穴が掘られていることが分かった。土器の下部10cmほど下の黒褐色土から剣形石製模造品が出土している。（写図15）第9図の土層断面図で分かるように、石製模造品の出土する層は4の層であり、土層の圧縮を勘案しても高い位置にあることが分かる。

第11図7の土器で、口径やく13.5・器高20.5・胴部最大幅13.5cmの長胴形の土器で、底は丸底に近い。口縁の外反はゆるく口唇部の立ち上がりも小さい厚手の甕形土器で、頚部に1cm幅のへこみを回し、肩から胴部下方にかけて縦の条線が施文された粗雑な土器である。上面にあった口縁は半分以上は欠損している。

② 祭器10（第4・7・9・10・13図、写24）

祭器1の2mほど東側に黄白色のマウンドがある。このマウンドの中に甕形土器の底部と胴部片が固まって出土している。このマウンドの成り立ちは不詳であるが、土器片はマウンドの中に潰れ込んだ状況で発見されている。このようなマウンドは祭器1と10の中間、祭器12・14の周辺等にもあり、土器片・石製模造品の出土が多いところでもあるので、注意したい遺構の一つと思われる。

出土した甕形土器は第13図2・3で、全体の器形は定かでないが同一個体かと思われる。推定復元図によれば口径16cmほどの甕形土器で、胎土は灰白色の軟質の土器で、口辺には横なでの細いはけ目、頚部から胴部にかけては縦または斜めの太いはけ目により調整されている。胎土が灰白色のものは、祭器3・14・24に類似し、細いはけ目の施文状況はB1の祭器4に類似している。これらの土器片は

Ｂ１・Ｂ２地区から相当量出土している。

③ 祭器11（第４・７・９・10・13図、写23図）

祭器１の１ｍほど南側で検出されたもので、径35cmほどの窪みの中に拳大の平石が置かれ、その上に坏形土器が逆位に置かれていた。坏の横には３個の石が重ねられ、窪みの北縁には長さ30cmほどの平石が配されていた。穴の中にはいくらか炭が含まれていたが、焼土等は検出されていない。配石を持ち完形の土器が置かれたものはこの11だけである。

第13図10の土器で、口径12cm・器高6.2cm・底径５cmの完形坏形土器で、赤褐色の胎土で、横なでのへら調整痕が残され、口縁内部は縁取りされている。口縁から胴部下部にかけて外径7.2cmほど円形状に削り取られている。削り面は丹念に加工したものと思われる。このような例は後述の祭器９の坏形土器にもみられ、祭器として使用された形跡が残される土器である。周辺には模造品集中地を取り巻く祭器１・10・12・13があり、南側には20個以上に及ぶ円板・剣形の石製模造品が集中することから、祭祀場の中心的な位置にあると思われる。

④ 祭器12（第４・７・９・12図）

祭器11の４ｍほど南側に甕形土器口縁部が出土している。掘り込みは確認されていないが、黒褐色土中に逆位に埋まっていたこと・北側には円板・剣形の石製模造品が集中すること等から祭器として登録してある。

第12図２の土器で、図上復元図によれば口径17cmほどの甕形土器で、口縁は厚手で頸部のくびれは鋭く立ち上りの少ないタイプである。胎土は細かく水漉しが行われたように思われ、口辺は横なで、肩部は縦または斜めの細いはけ目がついている。調整痕等の状況はＢ１の祭器４、Ｂ２の祭器10に類似している。

⑤ 祭器22（第４・７・９・13図、写33図）

祭器12の３ｍほど北側、祭器10との中間に坏形土器半個体が潰れ込んでいた。掘り込まれた形跡はないが、西側にある円板・剣形の石製模造品集中地の東側外縁にあるので、祭器22と登録している。

第13図13の土器で、図上復元図によれば口径14.5cmほどの碗状に近いもので、胎土は赤褐色土、外内共に横なで調整痕が目立ち、口縁内部は幅広めに縁取りされ、祭器11の坏形土器に非常に類似している。

⑥ 祭器８（第４・７・９・10・13図、写22図）

祭器12の２ｍほど南側で検出された完形の小形甕形土器で、径15cmほどの掘り込みの中に横倒しの状況で出土している。土器の下には３cmほどの黒色土が堆積していることから、浅い穴が掘られて据えられた状況が明瞭に分かる。周囲からは土師器片が多く出土し、円板・剣形の石製模造品も４点ほど出土している。南側は水田造成の切込みが進み、Ｂ２地区の排土の山にもなったので詳細不詳であ

るが、段差の縁に当たるところと思われる。

第13図７の土器で、口径10cm・器高10.3cm・底径やく５cm、胴部最大幅10.5cm（図は１cm長い）小形甕形土器で、頸部は丸くくびれ手捻りの痕跡の残る素朴な土器である。似通った形態のものは祭器９（第13図８）であるが、施文・胎土は異なっている。

⑦　祭器13（第４・７・８・９・13図、写27図）

祭器12の２mほど北東（Q25）で出土した台付土器の台で、周辺から出土した破片が接合されている。出土範囲は割り合い広かった。台の出土したところは５cmほどの掘り込みがある。第13図23の土器で、台の底径7.5cm・高さ４cmほどあり、図上復元図によれば胴部最大幅は16.5cmほどある大形な台付甕形土器で、外内共に胴部から底に至るまで縦または斜めのタタキ状の施文が施されている。この辺りから南側にかけて弥生時代後期の土器片が集中していて、或は弥生時代末のものかと思われるが、祭器として登録してある。

⑧　祭器14（第４・７・８・９・13図）

祭器13の２mほど北東に黄褐色土のマウンドがある。このマウンドに埋め込まれたように甕形土器片が固まって出土している。出土した破片が接合されたものが第13図３で、図上復元図によれば口径15.5cmほどの甕形土器口縁部で、胎土は灰白色で軟質の土器で、口辺部は横なでの細いはけ目が残り、頸部から胴部にかけては縦または斜めの太いはけ目が施文されている。Ｂ１の祭器３・Ｂ２の祭器10に類似した土器である。第８図の土器片分布図によれば、祭器13・14周辺（Ｐ・Ｑ、24・25）は中央高所の西側傾斜面の上部にあって土器片出土が多く、大形な土器片もあり、第13図９・12・14・18・21・22等の小形甕形・坏形・高坏形土器が集中的に出土していて、高所部から傾斜面にかかる中心的な地域の一つのように思われる。

⑨　祭器９（第４・７・８・９・10・13図、写26・27図）

中央高所部の上方に長さ25cmほどの石が落ち込んだ径40cm・深さ15cmほどの掘り込みがあり、小石の間や落ち込んだ石の上に甕形土器の破片が散らばっていた。接合されたものが第13図８の小形甕形土器である。口径9.6cm・器高やく10cm・底部径やく3.5cm、胴部最大幅10.5cmの小形甕形土器で、祭器８とほぼ同じ大きさのものである。胎土は小石混じりの薄赤褐色土で、口辺部は横はけ目が坏頸部から胴部下部にかけてはタタキ目状の施文が残り、整形は整ったものである。胴部に外径５cmほどの円形の穴があけられている。丁寧な削り抜きで、祭器11の削り落とし技法とよく似ている。胴部穿孔のものは祭器９・11の２個だけである。

⑩　祭器20（第４・７・８・10・11図、写32図）

祭器９の２mほど東側に長径30cm・深さ15～20cmほどの窪みがあり、その上面から中層にかけて甕

形土器の口縁部と胴部片が重なって出土している。口縁部は西側にあったが、底部は見つかっていない。第11図６の土器で、口径17.5cm・器高は不詳であるが、胴部最大幅やく24cmの比較的大形な甕形土器で、頸部のくびれは鋭く口縁は外反しながら立ち上がりも高い。器形全体をみると底部が欠損しているので確実には言いにくいが球形胴で、口縁の状況等から後期鬼高式の古期から和泉式土器式に近いタイプかと思われる。

⑪ 祭器６（第４・７・８・13図）

中央高所の東側で、東側へ傾斜の始まる辺り（O22）に坏形土器が一個体潰れ込んでいた。掘り込み等の形跡は見られなかった。第13図11の土器で、口縁がわずかに残る坏形土器で、胎土は黄褐色きめの細かい土で、器面は荒いへら削りの跡がほぼ全面にみられる。図上復元図によると口径やく12.5cm・器高やく５cmで、口縁内側が縁どりされたもので、祭器11の坏形土器と大きさ・器形が良く類似している。

⑫ 祭器23（第４・７・８・10・11図）

中央高所部の南側、Ｂ３に落ち込む段差の縁に甕形土器の口縁部が径35cm・深さ10cmほどの窪みの中に潰れ込んでいた。周辺からは土師器片がいくらか出土しているが、目立つ遺物は円板の石製模造品が６個集中的に出土し、その中の１個はＢ３の段差面の２層に当たる茶褐色土中から発見されている。

第11図５の甕形土器口縁部がそれで、図上復元図によれば口径やく15cmで、口縁がＬ字形に立ち上がるタイプである。頸部から肩部にかけて斜交するはけ目がつけられ、裏側頸部に近い肩には細かい輪積み整形の痕跡が残されている。

ここまでの祭器群は西側傾斜面から中央高所・東側傾斜面にある12基の祭器である。ここからさらにＢ３地域には祭器16・２・５・７が散在しているので合わせて報告する。

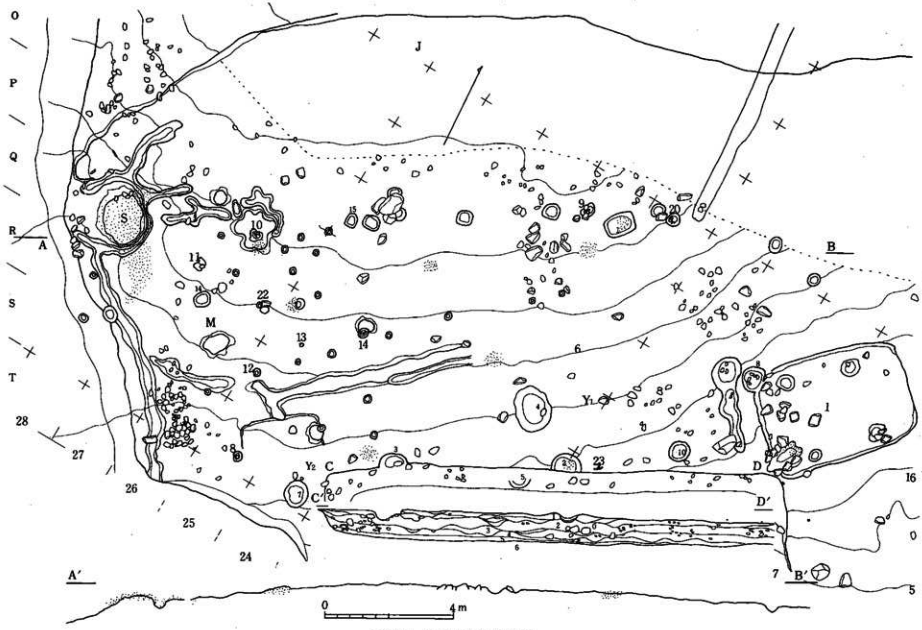
⑬ 祭器16（第４図）

東側の傾斜面、１号住居址の東側に祭器16がある。耕作の攪乱もあるので旧態ははっきりしないが、甕形土器片が10点ほど固まっていた。掘り込み等は確認されていないが、近くで石製模造品も出土しているので祭器16と登録した。土器も胴部片だけで器形は不詳であるが甕形土器の胴部である。

⑭ 祭器５（第４・10・11図、写21図）

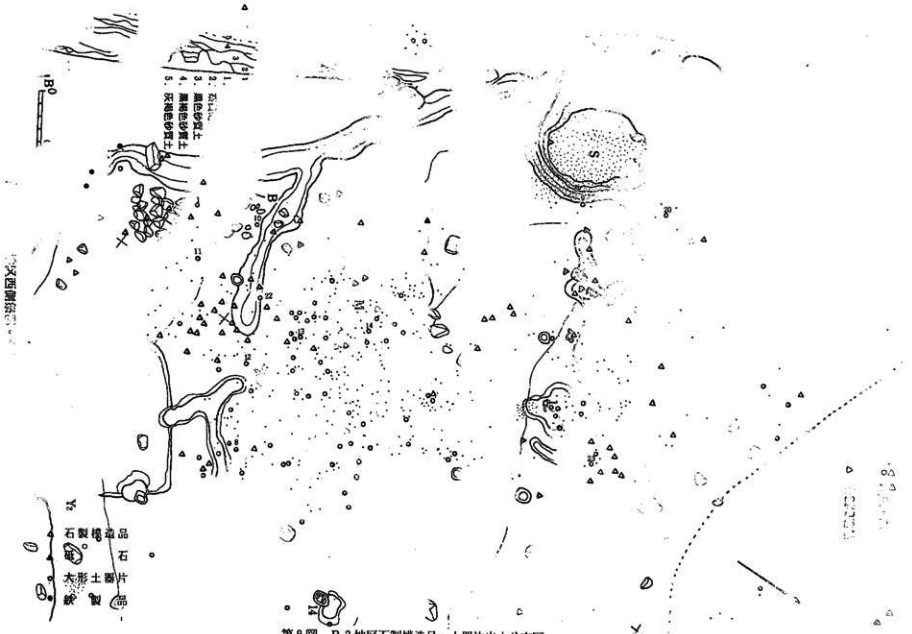
祭器16の４ｍほど南側に祭器５がある。径40～45cm・深さ30cm以上の掘りこみがあり、上層から中層まで20cmほどの間に甕形土器が潰れ込んでいた。土器片の重なりは不揃で攪乱された形跡もある。

第10図２の土器で口径18cm・器高不詳、胴部最大幅やく18cmの比較的大形な甕形土器で、頸部のくびれは丸みがあり口縁の外反は大きい。胎土は黄褐色で水漉しされた粘土のようで、口辺には横なで



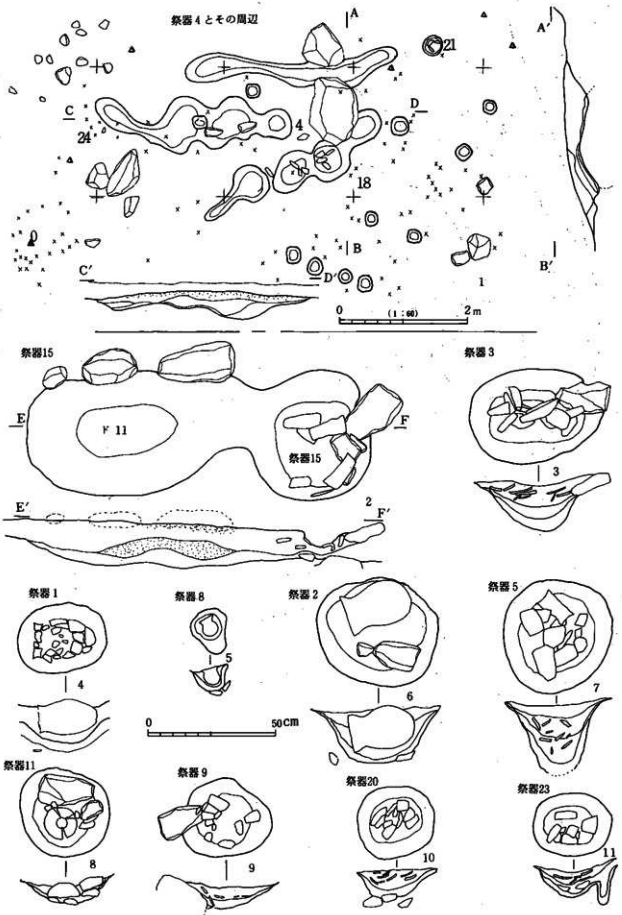
第7図　B 2 地区遺構配置図

第8図　B2地区石製模造品・土器片出土分布図

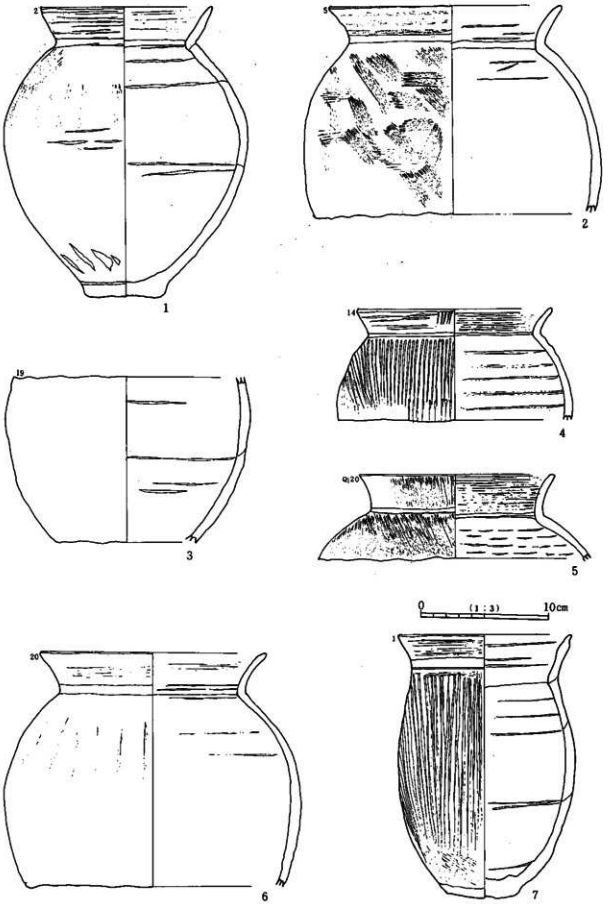


第8図　B２地区石製模造品・土器片出土分布図

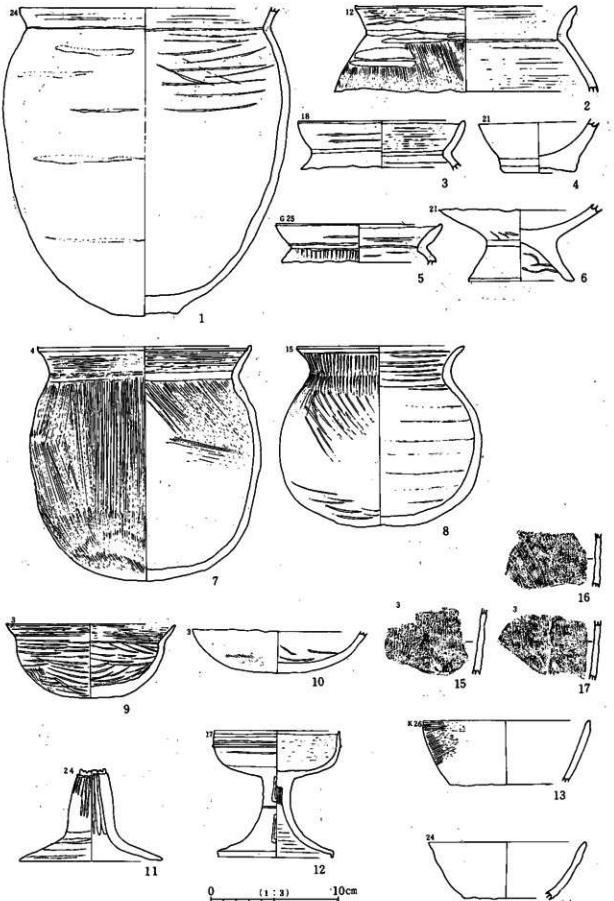
第9図　B 2 地区西側祭器・石製模造品出土分布図



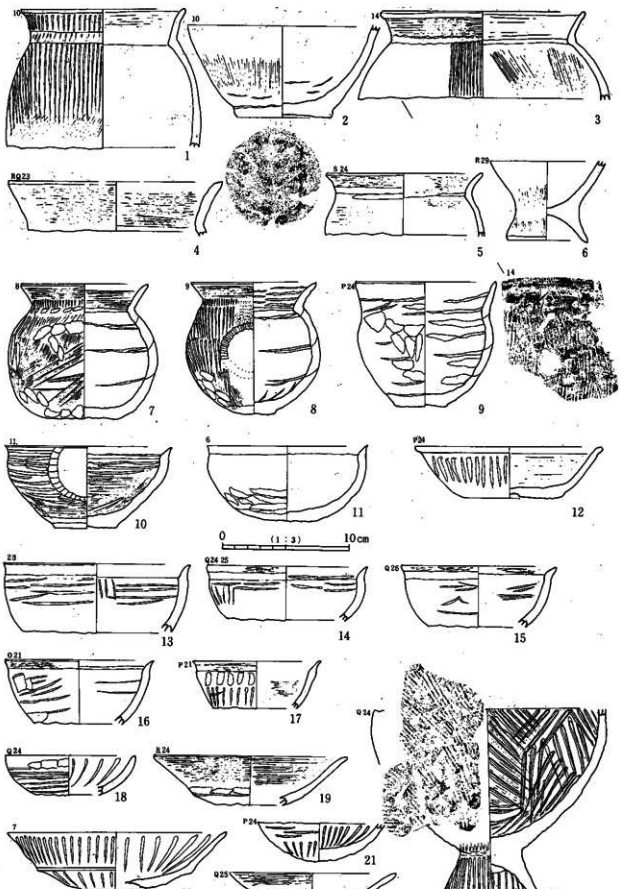
第10図　祭器出土状況図（祭器2・3・4・5・8・9・11・15・20・23）



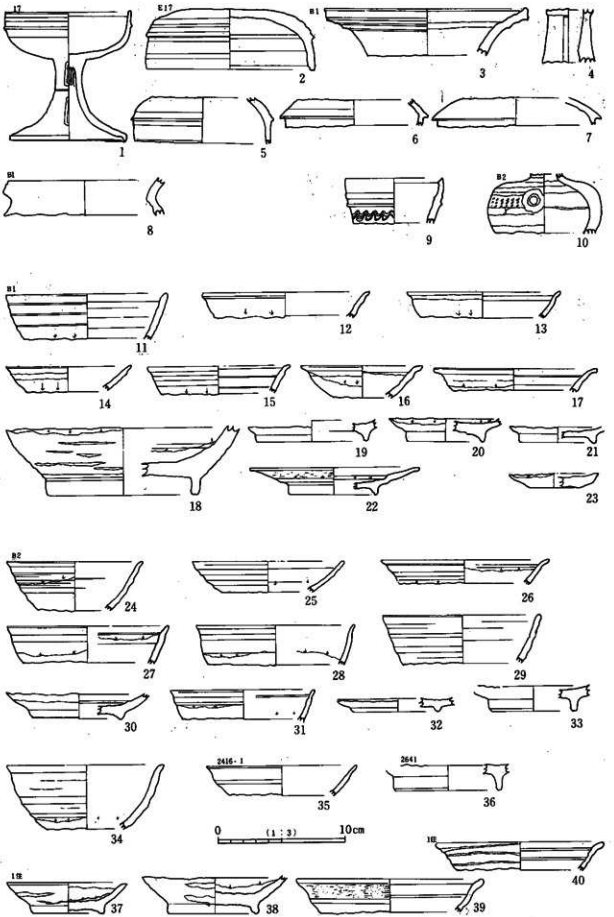
第11図　B1・2地区出土祭器（1）── 甕形土器 ──



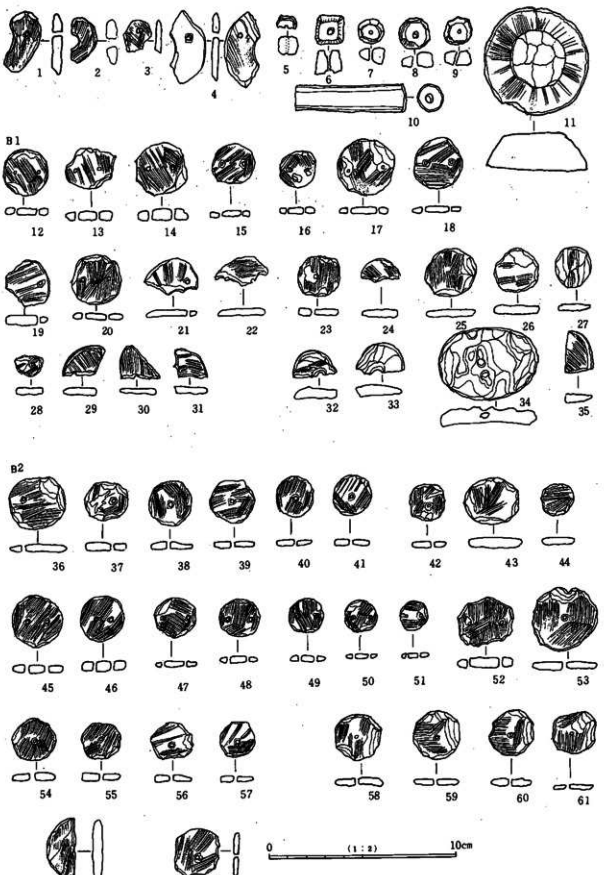
第12図　B１地区出土祭器（２）



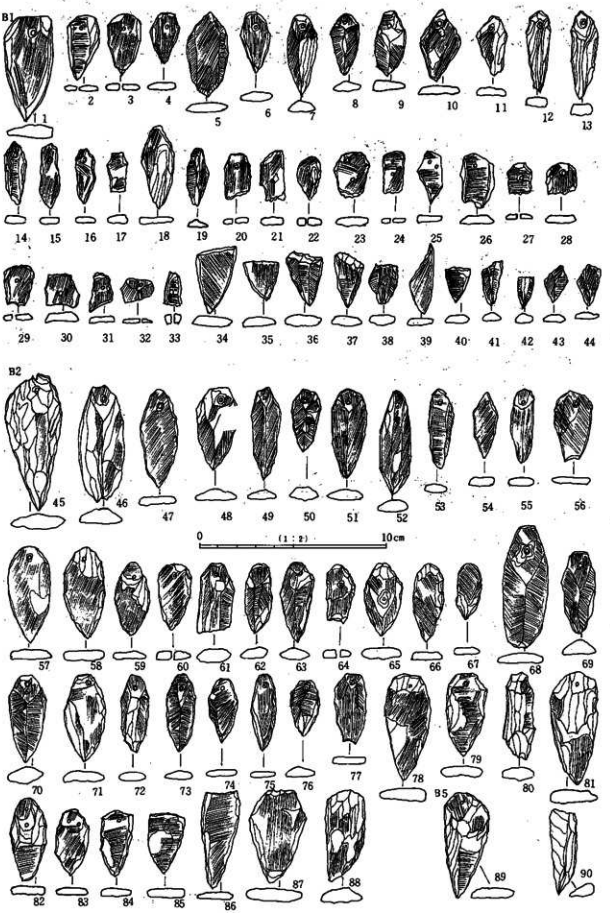
第13図　B１・２地区出土祭器（３）── 小形甕・坏形土器等 ──



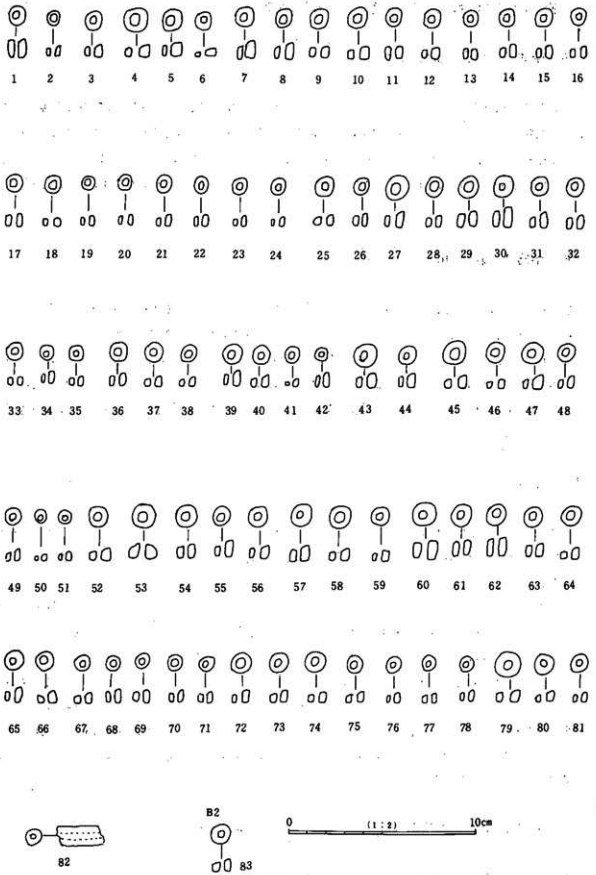
第14図　B１・２地区、１号住居址出土須恵器・灰釉陶器



第15図　大垣外遺跡出土石製模造品（1）── 勾玉・管玉・円板等 ──



第16図　大垣外遺跡出土石製模造品（2）── 剣形 ──



第17図　大垣外遺跡出土石製模造品（3）── 臼玉 ──

のはけ目、胴部は横・斜めの細いはけ目が交差するようについている。祭器12・16・23の施文に類似し、細いはけ目の状態はＢ１地区の祭器４の施文に類似している。

⑮ 祭器７（第４・13図、写21図）

祭器５の５ｍほど南西のＢ３地区で出土した高坏形土器の坏部である。掘り込み等の形跡はなく、伏さった状態で出土している。第13図20の土器で、口径17cm・坏部高さ５cmで脚部は欠損している。胎土は赤褐色、水漉しの粘土製で、細くて薄い暗文がつけられ、軽く段がつけられている。全体を通して坏部の形態の分かる高坏形土器はこれだけで、脚の形態が分かるものはＢ１地区の祭器24だけだある。

⑯ 祭器２（第４・10・11図、写16・17図）

祭器16の６ｍほど東側に単独で出土した完形の甕形土器である。第10図６でみられるように、径やく40～45cm・深さ25cmほどの窪みがあり、その中に口縁を西に向けて横倒しに埋められていた。穴の中・周辺には付随する遺物は発見されていない。第11図１の土器で、口径13.5cm・器高22cm・底径６cm、胴部最大幅19cmの完形甕形土器である。胴部最大幅は中央よりやや上にあり、長胴形に近いタイプである。頸部のくびれはきつく外に張りながら立ち上がる口縁等の様子から、鬼高式の古い時期のものと思われる。

２．溝状遺構群

第９図等でみるとＢ２地区の西側にある低湿地へ落ち込む地形のところに、入り組んだ溝状の遺構群がある。地形上からみれば低い方向に溝ができるのが普通であるが、ここの場合は祭器・石製模造品・鉄製品・炭層を伴うので、一括して溝状遺構群として取上げる。

西向き傾斜面の縁辺りに、２ｍ～2.5ｍ間隔で祭器１・10・11・22・12・13・８・14が低湿地に向かって弧を描き、それらの西側に30個以上の円板・剣形石製模造品が集中するところがある。この石製模造品集中地の西側には北東から南西に続く溝、東から西へ続く溝等が入り組み、祭器１の西側辺りから炭を含む層が増え、黄褐色土のマウンドを取り巻くように溝があり、マウンド上と東側の溝中には炭が多く堆積している。マウンドの東縁には剣形石製模造品２個があり、ここでの西限に当たる。北側の溝を越えたところに、台付土器（第13図６）のほかに刀子や鉄鏃等（第31図16・17・26・27・21・22）が集中していた。これらの状況をみると低湿地に面する傾斜地から高所縁にかけて一連の祭祀場があったと考えられる。

３．石製模造品の出土状況（第４・６・８・９・15・16・17図）

表５によると今回の調査地で出土した石製模造品（整品・破片）はやく239点に及ぶ。内訳は勾玉４・円板34・剣形80・臼玉68個のほか鏡・角玉・管玉等で、装飾整品の管玉２・ガラス玉１個である。

表4　大垣外遺跡石製模造品・祭器出土位置一覧

地区	グリッド	28～	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	
B1	B	円盤 剣形 臼玉						1		1	1			4 1					
	C							1	2	2 18	1 3	1 1	1		1	1			
	D						管	1 4	1 1 4	5	2 1	3	1 2	大玉1 1					
	E				土21	管 土4	土18		杭 2 5	1 土5・17・土3	1 2 3	3 1	大玉2 1	1					
	F					土24			1		3	1 1			1				
	G					1			1	2 1	1 1								
	H				1	1	1		2 1	1	1								
	I					1	1		1										
	J	1 土19																	
	K	2 2 20																	
	L	1						1 土9	土20					1					
B2	M							2 1											
	N	1					1	1	1	1 大玉				土16					
	O			2		1 1	2	1 1	1 1 土6		1		1			1			
	P	2 5	1 土10	2 土22	土13	土14			2	4 2 土23		1			1				土2
	Q	2	1 1	3 6		1		勾玉		1			土5		1				
	R	1	1 2	8 5	土12 土8														
	S				1	1													
	T				1					土7									
B3 B5																			剣1 円2

以前に出土した熊谷千昭氏所蔵のものを含めると400個以上に及ぶ。

図に採録した石製模造品は勾玉4・円板52・剣形90・臼玉83個の229個で、調査地区別に分けると勾玉はB1地区3個で他は表採、円板はB1地区23個・B2地区は28個、剣形はB1地区44個・B2地区も44個、B3地区が1個である。臼玉はB1地区が82個で、B2地区は1個である。臼玉の偏りのほかは、個数ではB1・2地区とも大きな違いはないが、形態・出土状況については相違がある。

B1地区では、第4図でみると東側の道路跡沿いに一つの集中点がある。ここでは臼玉の出土が多く、円板・剣形の石製模造品は整品もあるが、欠損品や不整形のものも多い。此処のほかに中央部の祭器15の周辺・西側の傾斜面にそれぞれ円板・剣形が数個づつ出土しているが、ここでは整品が多い。西側低湿地に近い縁の灰白色砂質土から臼玉が数個検出されている。

B2地区では臼玉は1個だけで、他は円板・剣形で総じて完全な整品や整形の整ったものが多い。集中する場所も前述の西側傾斜面のほかに東側の傾斜面、B3地区に近い辺りにも集中地がある。祭器群とのかかわりが強い。

B3地区から下方については、B5地区では2点（第16図89）で、最下段B6地区で欠損品を1個表採しただけである。したがって石製模造品の多出土地はB1・2地区であり、祭器群とかかわりそうな石製模造品が出土する所はB2地区に多いことが分かる。

4．1号住居址（第4・7・14図、写38図）

B2地区東側傾斜面で検出された竪穴式住居址で、主軸方向N40°W、長径4.6m・短径3.5mの隅丸方形の住居址で、北西隅に石芯粘土製竈を持っているが、貼り付けた粘土の残りは少なく、焼土も口元でいくらか検出されてだけである。掘り方は西側でやく20cm、東側では殆ど掘り方が確認されていない。柱穴と思われる窪みは4か所検出されているが、深さも10cm程度のものであった。床面は軟弱で検出に苦労したが、竈口元から住居の中央付近に平状の石が置かれ、炭やわずかな焼土を目当てに検出している。

遺物の出土は少なかったが、第14図37～40の土器は、灰釉陶器である。37・38は坏形土器・碗形土器の底部で、共に高台は退化し、37は山茶碗状の低い高台であるから平安時代末葉のものと思われる。

B2地区では後述する火葬墓1・2から灰釉陶器片が出土し、東側傾斜面でいくらか灰釉陶器片が出土している。B1地区では東側一帯から灰釉陶器片が出土してはいるが、調査地全体では出土量は少ない。周辺の分布調査の結果は、広い範囲から灰釉陶器片が発見されているので、この調査地以外に平安時代の遺物出土の中心地があるかもしれない。

5．火葬墓1・2（第4・7図）

B2地区で登録した火葬墓は2基ある。火葬墓1は中央高所部の東側、B1地区寄りの祭器9と20の間に長径やく1m・短径70cm、深さ20cmの方形竪穴がある。過去の水田造成で上面が削られているのではっきりしないが、検出当初に火葬骨が発見された。掘り下げていくと火葬骨は出土しなかったが、灰釉陶器片・土師器片が10数点出土している。

火葬墓2は中央高所の南側、B3地区境の段差面にかかって径70cm・深さ40cmほどの掘り込みがあ

り、上層から火葬骨が出土している。水田造成の掘りこみで半分削られているのではっきりしないが、土師器片が数点出土している。時代を決める遺物ははっきりしないが、1・2とも平安時代の火葬墓と思われる。

6．土坑（第4・7図）

調査地全体では土坑が20基検出されたが、B1地区の土坑6・12・16以外ははっきりしたものは少ない。

B2地区では、西側の傾斜面で土坑13・14・15、中央高所の南側段差付近から土坑3・4・5が検出されている。この中で土坑5は、段差面の中層下部黒色土中にあった土坑で、縄文時代中期の土器片が数点出土している。東側斜面には土坑8・9・10が登録されている。この中で、土坑10はB3の落ち込み縁から検出されたもので、径70cm・深さ60cmほどある整った土坑で、上層から剣形石製模造品が発見され、器形を見るまでには至らないが凝形土器・坏形土器土器の破片が10点出土している。さらに東側一帯でも土坑18・19・20が登録されているが、はっきりしたものはなかった。

7．建物址（第4・7図）

中央高所の北側に黒色土の入った長径50cmほどの方形の掘り込みが3個並ぶところがある。この3個の穴を柱穴とみると、柱間は東側は2.6m、西側2.65mあり、近くに平状石の落ち込んだ穴もあるので、建物址の一部かと思って検出してみたがはっきりしなかった。何かの遺構だとしても腹土の状況から、中世以降のものと思われる。

8．縄文時代土器片出土地（第4・33・34図、写41図）

調査地全体の中で縄文時代の土器片が出土したところは各所にある。多少にかかわらず縄文時代の土器片が出土したところは、B1地区では東側の石群のある一帯とその南側の切り取り部分である。中央部の水田造成によって切り取られた段差面下層の黒色土層から縄文時代の土器片が発見されている。

B2地区では、B1地区の段差面に続く削り取り部分（幅4.m・長さ15m）ほどの範囲と、B3地区に繋る段差面である。実際には上面の祭器群や石製模造品出土地の検出に追われて一部のところを除いては検出作業をしてないので、B1地区の段差面からB2地区の段差面で確認された下部黒色土は続いていると思われるので、中央高所部では祭器群の下層には縄文時代の包含層があると思われる。

B2地区の東側では、土坑9とか祭器5の辺りを深く掘ったが下部黒色土以外は見つかっていない。東側用地境でトレンチを入れたが、縄文時代の集中する層は確認されていない。このことから西側傾斜面に縄文時代の包含層があるのかもしれない。

B3地区には後述する弥生時代後期の土器片集中地があったが、その下層は礫混じりの黄褐色の地山があるので、縄文時代の包含層がないのかもしれない。B4・5地区も東側にトレンチを入れたが古墳時代土器片の出土はあったが、縄文時代の土器集中は確認されていない。

最下段のB6地区には黒色土中に縄文時代の土器集中地があり、B2地区と共に阿智第三小学校の

児童等によって発掘されている。これらの土器片が第33・34図のものである。

第33図1～6は、B2地区段差下一帯から出土した縄文時代前期の土器片であるが、4の土器片はB1地区の東側土手下から出土している。7も縄文時代前期に近い土器片であるが、7・9・12はB5地区出土のもので、B2地区にも類似の土器片がある。15から46の土器片は、縄文時代中期初頭から中葉にかけた土器片で、30・31・41・45はB1地区出土で、後はB2地区出土のものである。

第34図の1から27は縄文時代中期後葉の土器片で、14はB3地区、26はB5地区出土のほかは全部B2地区の土器片である。28から35は有舌ポイント・石鏃・缺入大珠等の石器類で、30はB1地区のほかはB2地区出土のものである。

何れにしても、調査期間が限定されていて、古墳時代の遺構群・遺物出土状態の記録に終われ、重要遺構を盛り土をして保全する方途が決められたので、古墳時代の下層の遺構については検出されていないので、現在下層に残されているものが多い。

9. 弥生時代の遺物出土地（第4・7・8・35図、写42図）

第35図の土器は弥生時代中期・後期の土器片である。1から33の土器は弥生時代中期の土器片で、1～3・14～17はB2地区O・P20周辺、18から33はB2地区S25周辺から出土している。O22周辺では、古墳時代の土器片・石製模造品出土の検出中に古墳時代の土器片と混じって出土したもので、堀り込み等の変化は見られていない。土坑とか祭祀の折に掘り出されたものかと思われる。S25の周辺でも祭器8や石製模造品出土状況の検出中に、古墳時代の土器片と同じ土層から出土している。この辺りには竪穴状の掘り込みの残りがあったり、焼土が広がるところがあったので、土坑3・7の掘り込みや祭祀遺跡の場所として堀り込んだ時に混在したのかもしれない。この2か所の土器は種類も違い時代差もあるように思われるが、阿智村では出土例の少ない弥生時代中期のもので貴重な発見であった。

B3地区には弥生時代後期の土器集中の場所が検出されている。第35図9から13・35がここの土器で、わずかな堀込みの中に礫群に混じって底部や土器片が出土している。4・6はB1地区、5から7はB2地区西側傾斜面出土で、広い範囲から弥生時代後期の土器片も出土していることが分かる。

10. 周辺分布調査の結果（第3図）

発掘調査に入る前に周辺の遺物散布状況を知って調査計画を立てるために、土地改良事業予定地を中心にして、4月7日から9日まで詳細分布調査を実施している。その結果を図示したものが第3図である。●印は石製模造品、△印は土師器・須恵器、□印は灰釉陶器、○印は中・近世陶器である。位置と概要の時に触れたように事業地内を区域分けして、村道3－2085線より上方をA地区、事業地内村道線の上方をB地区、下方をC地区、東側事業地外をD地区と分け、南西側を北沢地籍と呼び分けている。A地区の西側諏訪明神社西側の畑では、石製模造品勾玉を始め、土師器・灰釉陶器・中世陶器片・鉄滓が採集されている。中心になるところは、2415・2453・2454・2553・2554番地の地籍で、此処は以前に石製模造品集中出土した2415-2番地に隣接する台地上で、網掛峠登山口の一つといわれるところでもある。

熊谷氏宅の北東裏一帯は本沢に面する屑状地形が広がるところで、宅地以外は土師器片・須恵器片・中世陶器片が拾えたが、とくに2420-1・2番地の畑では大形な土師器片・須恵器片・灰釉陶器片・中世陶器片が多く採集されている。此処から上方は地形的には良さそうであるが、雑草が生い茂り遺物は採集されていない。

調査地の東側一帯でも遺物が拾えている。とくに2392-1番地の畑は遺物出土が多く土師器片・須恵器片・中世陶器片が4～50点ほど採集されている。村道3－2085線の東側は、旧屋敷跡・水田が多いが、どの地籍でも中近世の陶器片が拾え、2385-1番地の水田では土師器片・須恵器片・中世陶器片が採集され、そこの東側2336-2番地の畑では大形な須恵器片が拾えた。村道1－10号線沿いの2387-4・2333・2334番地の畑では土師器片・中世陶器片が採集され、集会所周辺でも土師器片・中世陶器片が拾えた。

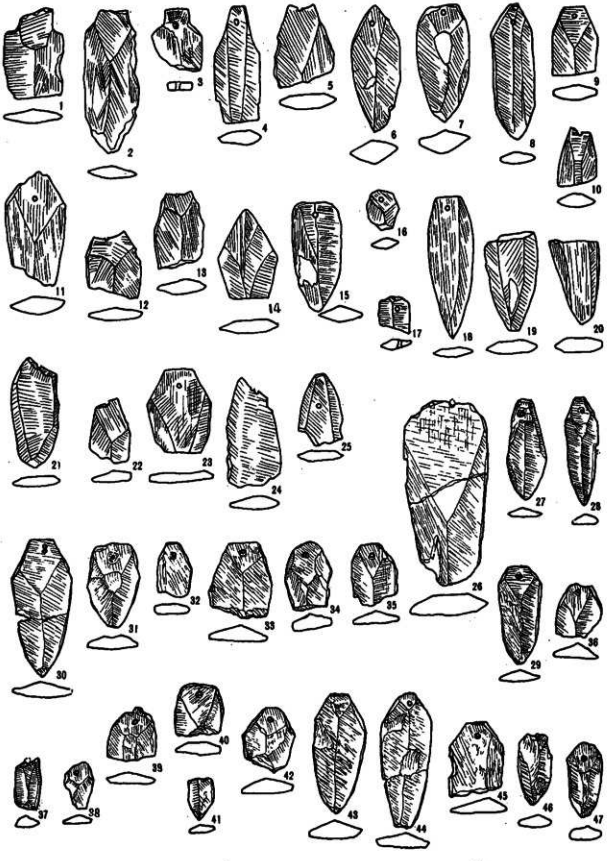
村道1－10号線の南側は段々造成の水田地帯で遺物採集は少なかったが、無量寺跡周辺では土師器片・中世陶器片が採集され、下方寺沢川に近い2357-1番地周辺から土師器片・灰釉陶器片・中世陶器片が拾え、2370番地の原野から土師器片・青磁片が採集され、遺跡の広がりをみせている。南沢を越えた小山地籍でも土師器片・灰釉陶器片中近世陶器片・鉄滓等が各所で表採されている。

事業予定地の柏垣外地籍周辺は不詳であるが、大部分が包蔵地の可能性はあった。とくに無量寺周辺は遺物散布の様子・伝承等から調査の必要性は感じたが、村道沿い2376-1番地の試掘調査により、遺物出土は少なく包含層も発見されなかったので、上方大垣外地籍に重点調査地域を設けた。

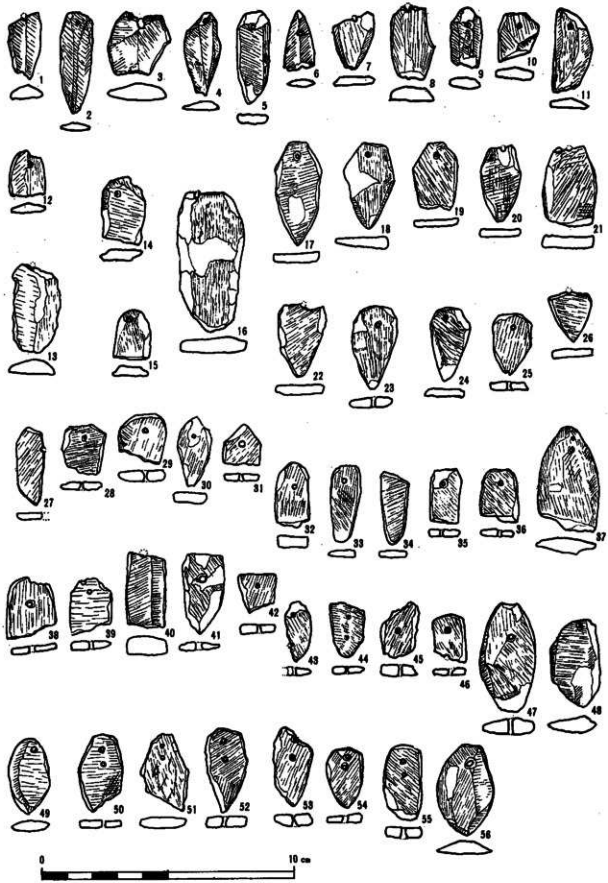
分布調査だけで判断することは困難ではあるが、今回の発掘調査結果を含めてみると、大垣外遺跡の範囲は堂角・柏垣外辺りまで広がる可能性はあるが、遺跡の中心は村道1－10号線の上方一帯にあるように思われる。

表5　飯田・下伊那石製模造品出土遺跡の概要　　平11・2・27

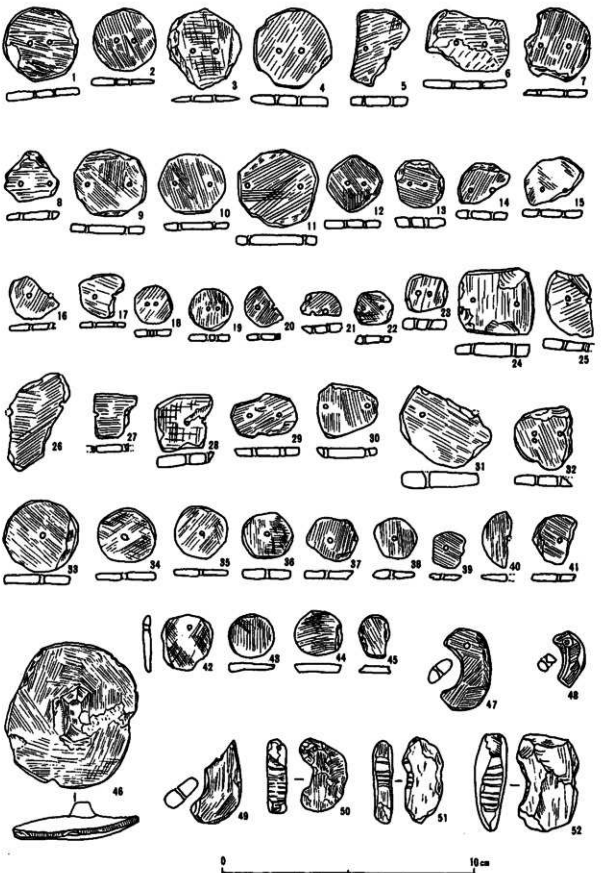
NO	遺跡名	市町村名	総数	勾玉	円板	剣形	臼玉	その他	備考
1	神坂峠	阿智村園原	1882	35	171	370	1231	5	調査報告書神坂峠から
2	杉ノ木平A	〃 〃	18		7	10		1	石製模造品集中地
3	〃 B	〃 〃	7		3	4			テラス1から出土
4	園原各地	〃 〃	(20)						以前の採集分（推定）
5	大垣外 A	〃 中平	151		18	105	11	20	熊谷氏宅出土分（150）
	〃 B	〃	239	4	34	80	68	53	平9年発掘調査分
6	大平神社	〃 小野川	8		2	6			
7	杉ヶ洞	〃	2		2				
8	川畑	〃	42	1	9	22	10		以前出土
9	庄ヶ原	〃	1		1				国道用地発掘調査
10	赤坂	〃	9		4	5			〃
11	中原 1	〃 春日	30	1	1	3	25		阿智高校校庭拡張
12	中原 2	〃 〃	170	1	11	24	125	10	原治幸氏表採資料
13	京田	〃 〃	10	1	6	3			阿智村農協、住居址内
14	北沢・藤戸 梅ヶ久保	〃			2	3			
15	梅ヶ洞	飯田市箱川	1			1			
16	サルコヒラ	〃 〃	4			3	2		
17	砂子田	〃 〃	1	1					
18	寺沢	〃 竹佐	1	1					
19	よじ原・寺山	〃 中村	2		1	1			
20	北村	〃 下殿岡	1		1				
21	山岸	〃 切石	1		1				中央自動車道用地内
22	天伯 B	〃 〃	171	1	1		169		〃住居址・祭器群周辺
23	中島	〃 別府	1			1			
24	恒川 田中	〃 座光寺	180						大部分 白玉、住居址
25	前の原	〃 桐林	8						円板・剣形 住居址
26	田村原	豊丘村田村	7						〃 〃 〃
27	伊久間原	喬木村伊久間	19			1	18		住居址内



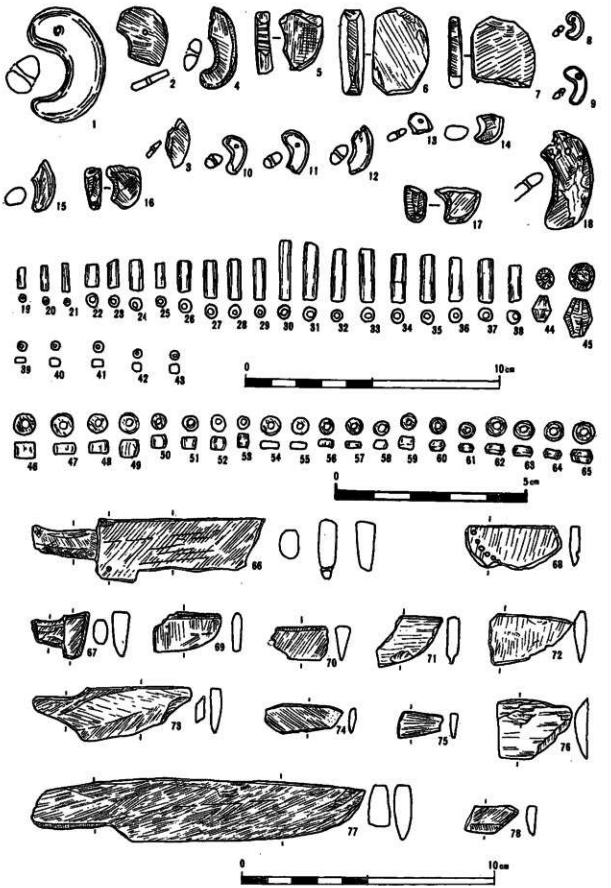
第18図　神坂峠出土石製模造品(1)(「44. 神坂峠報告書」より)



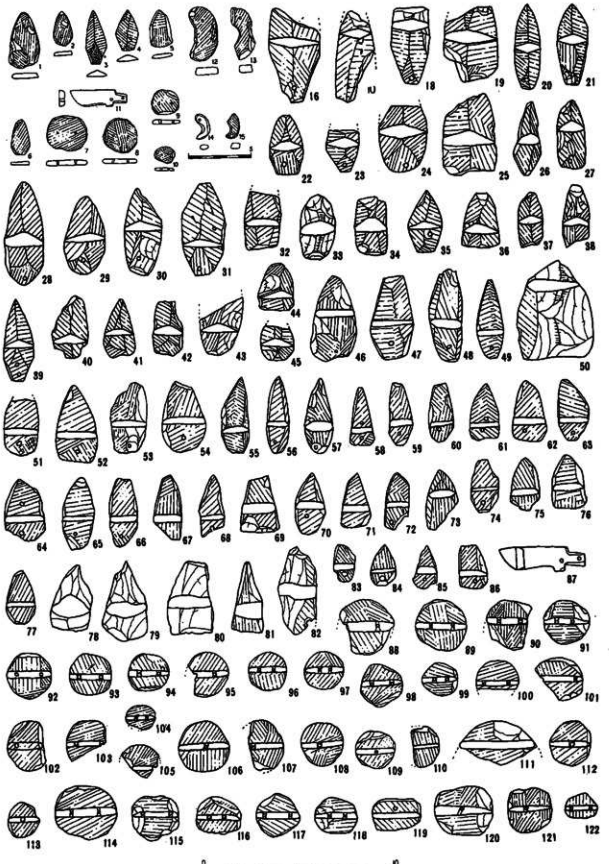
第19図　神坂神出土石製模造品（2）（「44. 神坂神報告書」より）



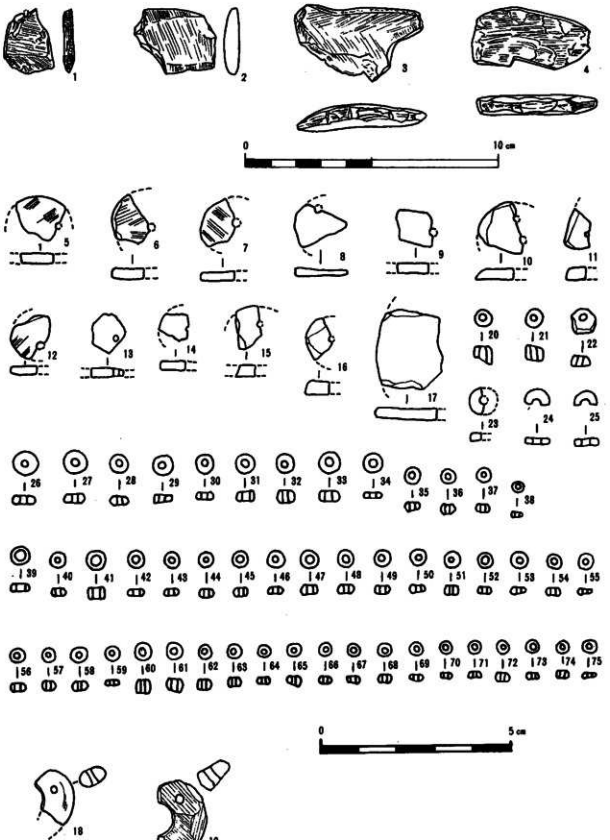
第20図　神坂峠出土石製模造品(3)（「44. 神坂峠報告書」より）



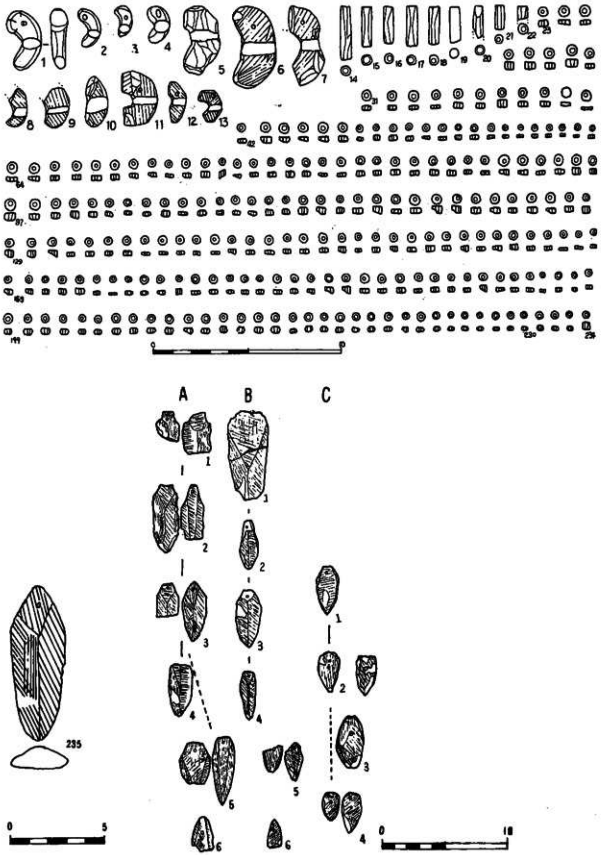
第21図　神坂峠出土石製模造品（4）（「44. 神坂峠報告書」より）



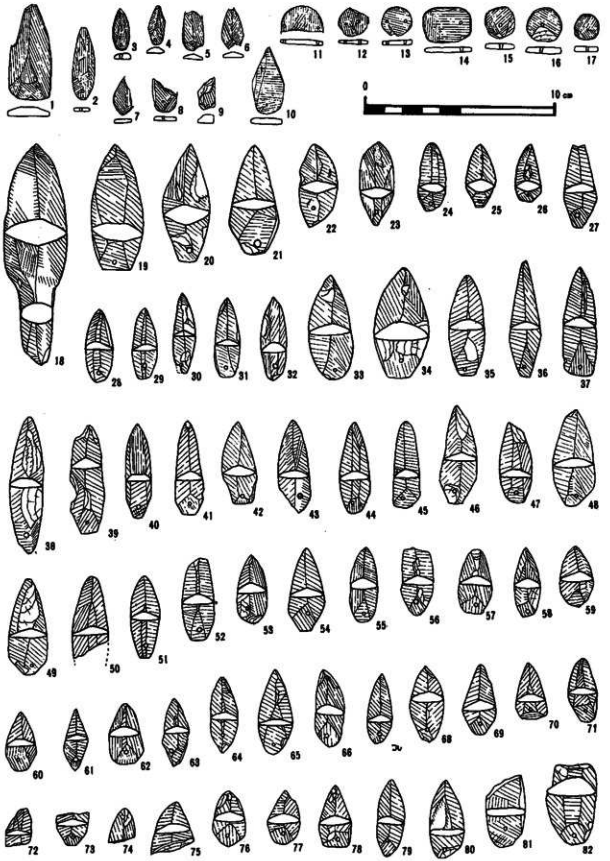
第22図　神坂峠出土石製模造品(5)（「45．中央道報告書」より）



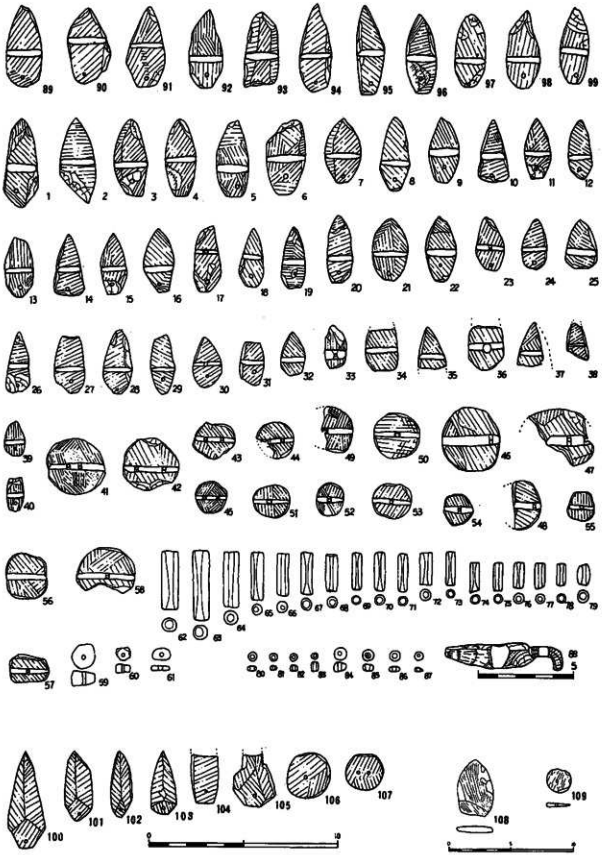
第23図　神坂峠出土・地表採集石製模造品　1～4　神坂峠出土　（「44. 神坂峠報告書」より）
5～75　神坂峠地表採集品



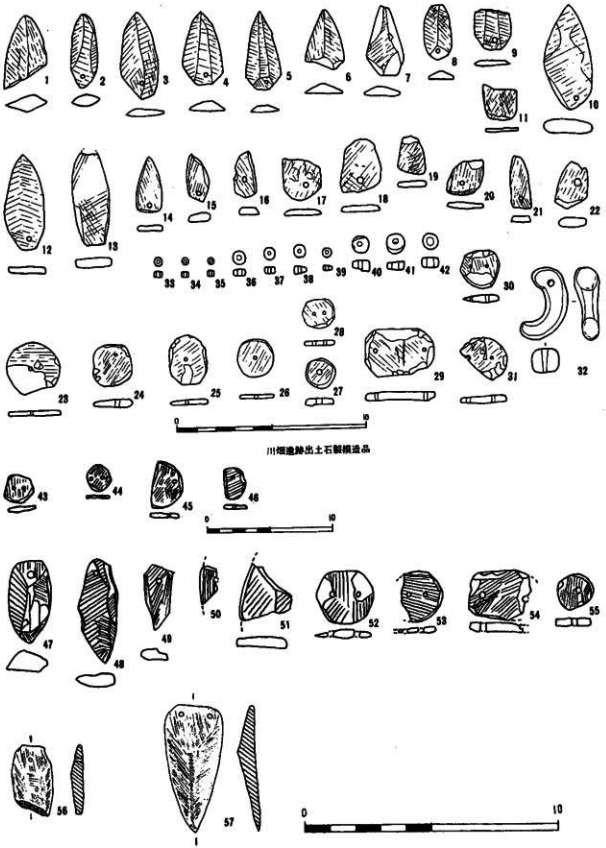
第24図　神坂峠・三壺洞遺跡出土石製模造品（「45. 中央道報告書」より）1～234 神坂峠・235 三壺洞遺跡剥形石製模造品分類図（神坂峠出土品による「44. 神坂峠報告書」）



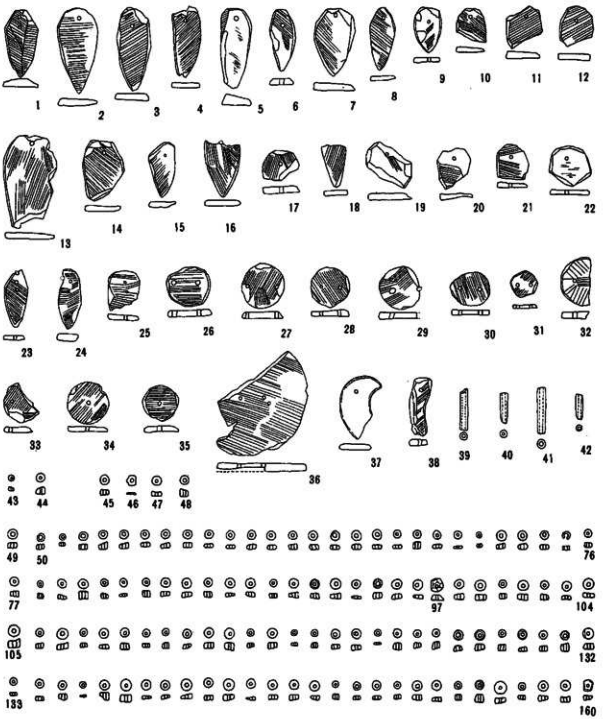
第25図　杉の木平（A）遺跡・大垣外遺跡出土石製模造品（『45. 中央道報告書』より）
1～17　杉の木平（A），18～82　大垣外



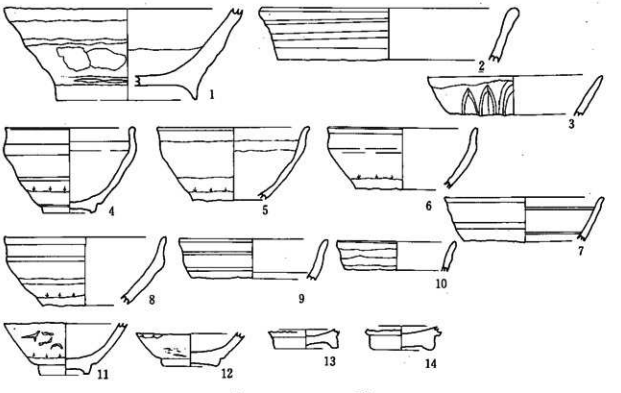
第26図　大垣外遺跡・大平神社（願権現）遺跡・川畑遺跡出土石製模造品（「45. 中央道報告書」より）
1～99　大垣外遺跡，100～107　大平神社（願権現）遺跡，108・109　川畑遺跡



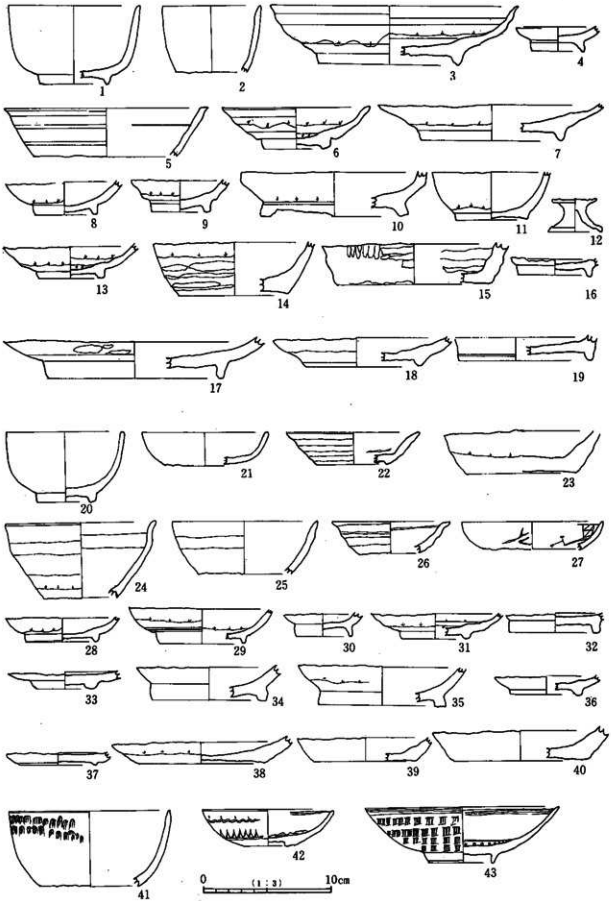
第27図　川畑遺跡・杉ケ洞遺跡・森下遺跡・山岸遺跡・赤坂遺跡・中原遺跡出土石製模造品　1～42．川畑遺跡，43　杉ケ洞遺跡，44・45　森下さがり遺跡，46　山岸遺跡，47～55　赤坂遺跡，56・57　中原遺跡（45．中央道報告書」「46．森下さがり報告書」「47．赤坂報告書」「中原報告書」より）



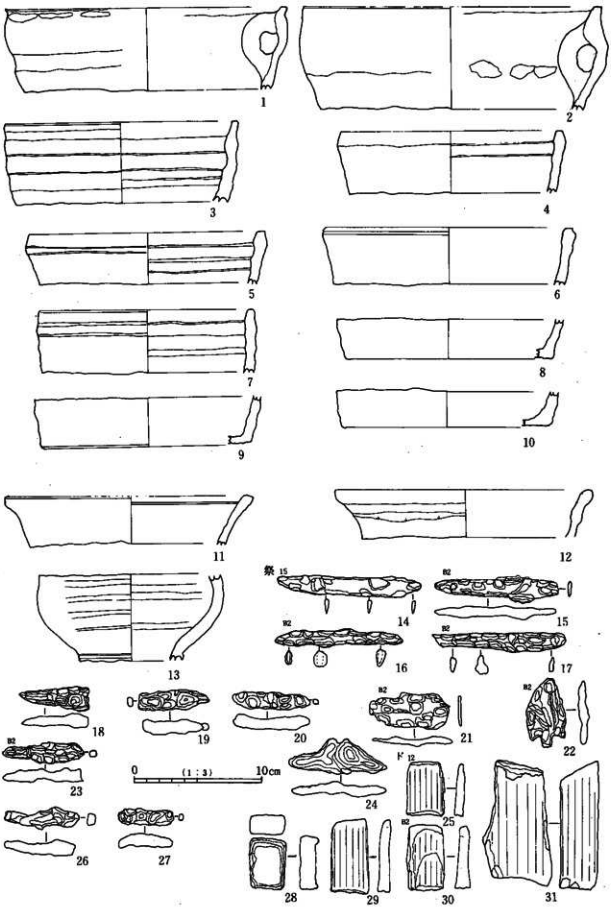
第28図　中原遺跡出土石製模造品



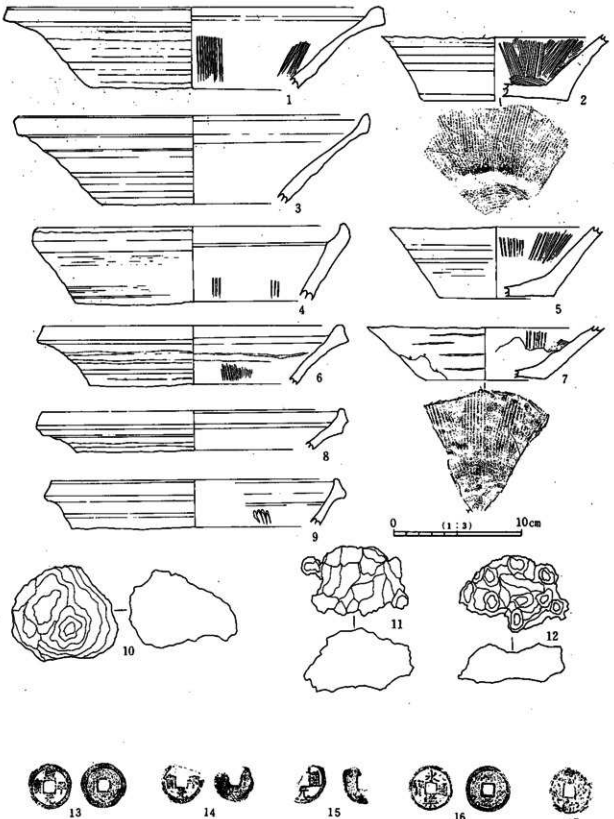
第29図　大垣外遺跡出土中世陶器



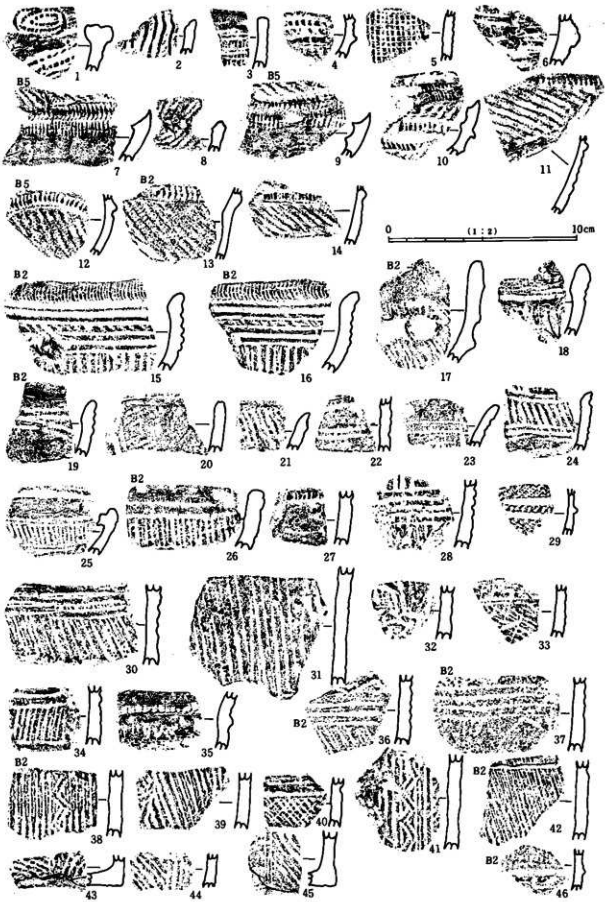
第30図　大垣外遺跡出土中・近世陶器



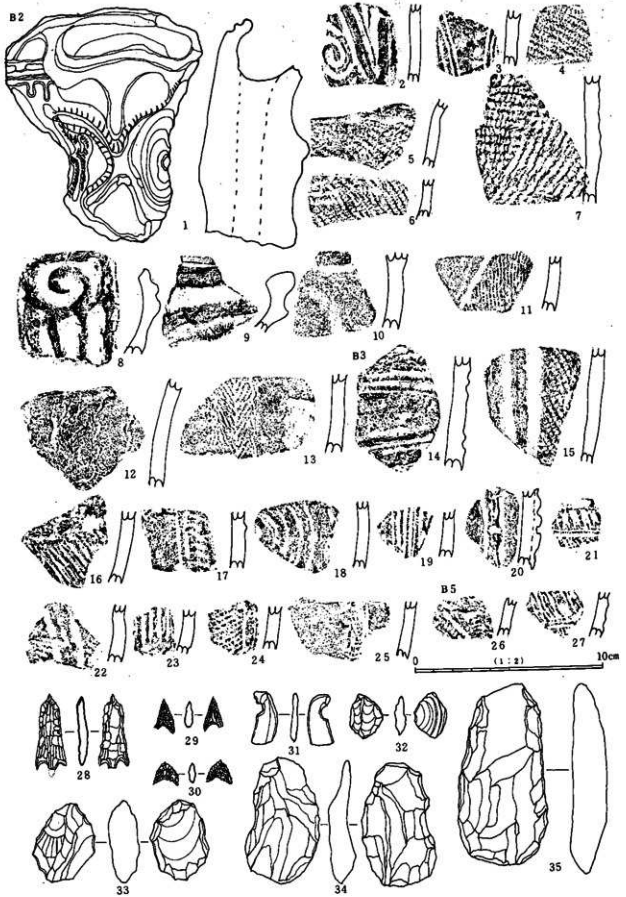
第31図　大垣外遺跡出土内耳鍋、常滑系陶器、鉄製品、砥石等



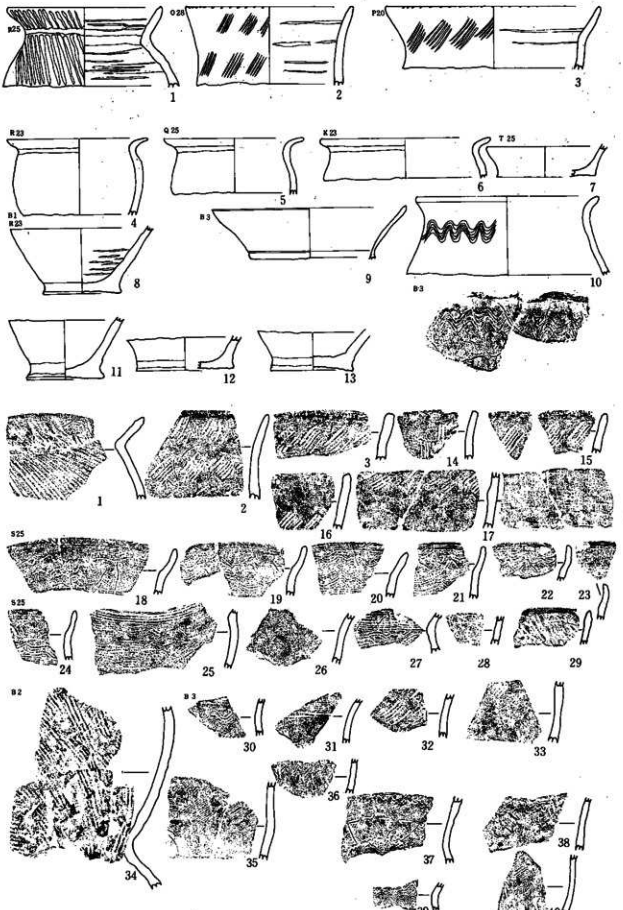
第32図　大垣外遺跡出土擂り鉢、鉄滓、古銭



第33図　大垣外遺跡出土縄文時代前期・中期初頭土器



第34図　大垣外遺跡出土縄文時代中期土器・石器



第35図　大垣外遺跡出土弥生時代中・後期土器

阿智村にほしい物

阿智第三小学校6年　熊谷　昂彦

ぼくたち、阿智第三小学校6年生は、今年東山道のことを勉強してきました。東山道とは、1千年以上も前、古くは、弥生時代、古墳時代からの踏み分け道で、滋賀県から宮城県まで通じていた、今でいう、高速道路のような、重要な道でした。このような、東西を結ぶ、重要な東山道がここ阿智村を通っていたということを知り大きな感動でした。ぼくの家は、智里の大垣外遺跡として、古墳時代ころのはじきや、まが玉などがたくさん出土している所です。ぼくの家の近くを、昔の人達が通っていたと思うと、うれしかったり、とても不思議な気持ちになります。また、その他にも、神坂神社などからも、「ちはやぶる神のみさかにぬさまつりいわう命はおもちちがため」とあるように、数々の土器が出土しています。実際に、馬が通りけずれたあとが残っていて、すごい歴史が残っているのだなと思いました。そこでぼくは考えました。ぼくは、このような土器や、調べたことを展示した「歴史博物館」があったらいいと思うのです。なぜかというと、こんな大きな歴史の足跡が残っているということを歴史博物館をつうじて、たくさんの人に知ってもらいたいと思うからです。もしできたら、今までに見つかった土器などを展示したり、東山道がどんなものか資料を展示したり、実際に、歩いてみて、土器などを採して、その土器を展示したらいいと思います。今ぼくたちのクラスでは、調べたことを製本にしています。こんな本も見てもらえるような所だったらいいと思います。

毎年、東山道を歩くなどのイベントを計画し、多くの人に参加してもらったり、そこでのたんさくの様子を、スライドや、ビデオにして、いろんな方々に見ていただく会の計画をしたらいいと思います。

また、見るだけでは、わかりにくいので、年に1度、自分の見つけた土器の年代を鑑定してもらったり、実際に土器を作ったり昔の時代の生活を体験できる体験コーナーがあると楽しいと思います。大人の方々も、知らない方がたくさんいました。だから、もっとたくさんの人に、この深い歴史を持つ阿智村を、知ってもらい、大事にしたいし住んでいながら知らないことがいっぱいあると思うので、みんなが気軽に立ちよったり深い興味をもてるような、すばらしい「歴史博物館」ができたらいいとぼくは思います。そして、昼神温泉の観光と合わせて、全国でも有名な、歴史や、温泉の里となったら、いいと思っています。

阿智村　智里を通る東山道

阿智第三小学校　6年全員（13名）

6年生になり歴史を学習する中で自分達の身近な歴史について関心を持った。古くから重要な道として知られる東山道が阿智村を通っていたことを知り調べることになった。東山道に詳しい地元の原隆夫さんをお願いし参観日におうちの方と一緒に聞き勉強した。そこで古くは、古墳時代頃からの踏み分け道として、後に大和朝廷勢力拡大のための政治的な道として発展した。奈良・京都より長野県を通り東北までつながって長い道でした。駅がおかれ駅には馬や駅子がいた。主に役人や公用の文書を運ぶのに利用された。岐阜県の坂本駅より阿知駅までは約40kmと途中神坂峠があり東山道随一の難所として有名であった。朝早く出ても着くのは、夜中となった。冬はこごえ死んでしまうこともあったそうです。そこで地元の小林昭治さんをお願いし実際に智里を通っていると思われる東山道を歩い

た。東山道については、ここを通ったという確固たる証拠がはっきりしていない現状の中で大きな発見が3つあった。1つめは、馬が通り6メートル程も削られた跡があったこと、2つめは、ここら辺では生息しない"ふたばあおい"（3つの葉を合わせると水戸黄門のあおいの紋となる）という植物があったこと、これは、関西方面より人の服などに種がついて運ばれてきたものと考えられる。3つめは、古墳時代に使われたと思われる土師器（土器の破片）を実際に見つけたことです。この3つの発見は、ここを東山道が通っていたという証拠としても大きな事だと思った。私たちの住む智里を通っている東山道と思われる道はだいたい歩くことができ感動した。

＜学習過程＞

4月 歴史の学習を始める
⇩
5月 身近な歴史を調べ
⇩
東山道のビデオを見よう　※20分にまとめてあり分かりやすい。
⇩
7月 東山道について学習し、疑問を出し合う。
⇩
7月 東山道に詳しい地域の方に依頼し学習会を持つ。（参観日に行い保護者の方々も参加）　講師　原　隆夫氏（阿智軽印刷）
⇩
7月 東山道を実際に歩いてみよう。
⇩
7月 東山道探検Ⅰ（矢平～神坂神社）地域の方々、保護者の方々にも呼びかけ一緒に歩く　講師　小林昭治氏（智里西）
⇩
7月 実際に歩き分かった事を話し合う
⇩
7月 東山道探索Ⅱ（富士見台キャンプ　神坂神社～神坂峠）
⇩
8月 分かった事を話し合いまとめる
⇩
9月 東山道についてまとめレッツチャレンジ21県大会佐久市で発表
⇩
10月 東山道探索Ⅲ（大垣外～川畑第三小付近）智里東　講師　熊谷千秋氏（大垣外）　原　治幸氏（中関）
⇩
10月 東山道についてまとめる
⇩
参観日で保護者の方々地域の方々に発表　東山道講演 ⇨ 大垣外遺跡等について　講師　今村善興氏
⇩
11月 東山道レッツチャレンジ21下伊那大会阿智公民館発表
⇩
1月 まとめて本作り

阿智第三小学校（平成10年度　6年生）

石原慎介　古畑智気　原　佳孝　原　拓大　田中拓磨
原　拓実　熊谷昂彦　小松純希　伊藤竜太郎　菅　雄太
遠山あゆみ　井原由加里　原　エリナ　（指導者　矢澤育子）

Ⅳ. 調査のまとめ

1. 大垣外遺跡の概要

大垣外遺跡は大正時代から石製模造品複数出土の遺跡として知られている。大正13年に発刊された「下伊那の先史及び原始時代」には先史（縄文・弥生時代）・原始（古墳時代）の包蔵地に登録され、縄文時代では石鏃３個、古墳時代の遺物は石製模造品12個が採録され、遺跡景観の写真も載っている。原調査員の聞き書きによると大正６・７年頃庭から10個ほどの石製模造品が出たという。この石製模造品が採録されたものかと思われる。その後大量に出土したものが現在熊谷氏が保管しているものと思われる。昭和30年とそれ以降に発刊された「下伊那史」第３・４巻には東山道関連主要祭祀遺跡の一つとして詳しく取上げられている。

縄文時代・弥生時代の遺物については、「下伊那の先史及び原始時代」には石鏃が、昭和56年発刊の長野県史遺跡地名表には、縄文時代は石鏃ほかの石器、弥生時代は後期土器、古墳時代は土師器・須恵器・石製模造品、平安時代では灰釉陶器出土が記載されている。昭和59年発刊された阿智村誌でも、弥生時代扁平片刃石器が加味されて、祭祀遺跡のほかに縄文時代・弥生時代の集落所在が予測されている。

今回の発掘調査により、石製模造品が大量出土し、検出例の少ない20か所以上に及ぶ祭器群が検出されたり、石製模造品の伴う道路跡が検出されて、古代東山道にかかわる祭祀遺跡としての位置付けがより明確になった。はっきりした遺構を検出するに至っていないが、縄文時代前期や同中期初頭・中葉・後葉の土器片出土し、弥生時代中・後期の土器も多く発見されて、主要複合遺跡であることも明確になった。

2. 祭器群の検出

祭器と呼ばれる道具は縄文時代から石棒・土偶・小形特殊土器・埋設土器・穿孔土器・石製模造品・土製模造品等々数多くあるが、古墳時代になると石製・土製の模造器具や高坏形土器や供献用の須恵器等の出現により区別がしやすくなる。祭祀の場所も集落内の屋内・屋外にそれらしいところが検出されることがある。特殊な例として環状に並ぶ集石遺構とか土器群があったり、露出する巨石の近くから銅鏡・勾玉・管玉・石製模造品・土製模造品・須恵器等が出土する例もある。霊山を望む聖地で模造の器具を使用して祭祀を行う例がある。

石製模造品の出土が多い阿智村の中では、神坂峠・大垣外等は古代東山道にかかわる典型的な祭祀遺跡であり、園原・川畑・中原にもこの場所があったのではと言われているが、以前から神坂峠遺跡を除けば実証できる遺構は検出されていない。しいて言えば、杉ノ木平遺跡Ａの石製模造品・土師器の隣接出土と焼土の存在から祭祀的な場所とされたところ、同Ｂ地緒の巨石の元で石製模造品が発見された例しかない。飯田盆地へ広げてみても、石製模造品の出土は散発的で、土師器を数個以上重ね

て埋設した鼎天白B遺跡の祭器群、溝の中に高坏形土器が集団で配置した松尾清水遺跡や座光寺恒川遺跡の例しかないのが現状である。

今回の大垣外遺跡の祭器は、石製模造品であり、土師器・須恵器の器であるが、ここでは土器そのものを限定して祭器と扱うことにした。登録された20個以上の土器を祭器と扱う条件は、1．日常生活の場所で使われていないこと。2．浅くても窪みの中に埋設したものが多いこと。3．石製模造品とかかわる位置にあること。4．意図的に穿孔された器があること。5．配置に規則性がありそうなことで、B2地区の16基の祭器群について考えてみたい。

1については本文にあるように台地全体から土師器片が多く出土するが、土坑、平安時代の遺構以外は検出されていない。

2の窪みの中に置かれたものは、祭器1・8・9・11・20・23・2・5の8基である。

3の石製模造品とのかかわりは、西側の円板・剣形石製模造品の集中地の外縁には、西側の溝状遺構と鉄製品集中地、東側には祭器1・10・11・22・12・13・8・14の8基と大形な土器片が円弧を描きながら取り巻いている。この一帯が一つの祭祀の場所に使われたものと思われる。また東側の傾斜面にも祭器9・20・6・23が直線的に並び、それぞれの周辺から石製模造品も出土している。

4の穿孔土器は祭器11・9で、意図的に穿孔して埋設されている。

5の位置的関係は西側傾斜面で観察される。同時期に置かれたものかどうか問題になるが、ほぼ2m間隔で並んでいることに注意したい。

全地域を合わせて登録した祭器24個が全部祭器であるか疑問が持たれるが、B1地区では道路跡の南側に直線的に並ぶように思われ、B2地区では台地の傾斜面に規則的な位置にあること等から、それぞれが祭祀の場所と考えたい。祭祀の場所であるならば、大垣外遺跡の性格がよりはっきりするわけで、熊谷氏宅の石製模造品集中地と併せ考えれば、調査地の近くに古代東山道の通過地があると思われる。

3. 道路跡の検出

B1地区で検出された道路跡は、道幅・形態等は杉ノ木平遺跡の道路跡に非常に似ている。異なるところは検出された場所の地形である。杉ノ木平遺跡の場合は傾斜面を登るコースであり、大垣外の場合は平坦なところを通過している。路底の土質が杉ノ木は小石混じりの黄褐色砂質土であり、大垣外の場合は灰褐色砂質土で、土の締まり具合に違いがある。このことからみれば踏み固められた形跡・路底の平坦さ等から道路の条件は整っているように思われる。心残りは東側の転石群で、コースを見極めるのに禍していて、大石を取り除くことをしなかったので、はっきりしないところが多かった。石製模造品の出土状況は良好で、模造品の出土点を辿るとコースが推定できそうに思われる。

いずれにしても古代東山道と断定する条件はまだまだ不足してはいるが、路形の様子・祭器と思われる土器の並び方・石製模造品の出土状況等から有力な道路跡かと思われる。これら二つの発見を足がかりにして、古代東山道の道跡を考古学的に確かめ得るのは阿智村だけと思われる。杉ノ木遺跡の道路跡を確かめれるのは児の宮遺跡の一画であり、大垣外遺跡のコースを確かめれるのはA地区の詳細調査如何にかかっているので、阿智村の英知に期待したい。

4. 大垣外遺跡の石製模造品

今回の発掘調査で出土した石製模造品は、残欠・未製品を合わせて239個に及ぶ。熊谷氏宅から出土した151個を含めると390個以上で、神坂峠の1882個に次ぐ大量出土の遺跡になる。長野県下でも150個以上の石製模造品出土地を挙げると、神坂峠（1882個）・入山峠（625）・大垣外（390）・阿智中原（200）・座光寺田中（180）・鼎天白（171個）の6か所で、円板・剣形模造品の大量出土地は、神坂峠・入山峠・大垣外遺跡である。このことは神坂峠・入山峠は古代東山道の主要祭祀遺跡で、これに匹敵する主要祭祀遺跡の中に大垣外遺跡が含まれることを語っている。

調査報告書「入山峠」の石製模造品整理表に大垣外遺跡B地区のものを加味したものが、次の表である。

1．円板・剣形・勾玉の数

	大垣外		神坂峠	入山峠
	A	B		
双孔円板	5	19	91	39
単孔円板	10	21	21	20
剣形A	9	3	73	30
〃 B	55	15	142	72
〃 C	52	50	115	113
勾玉A			11	7
〃 B			12	
〃 C			6	2

2．剣形 A·B·Cの比率

	大垣外		神坂峠	入山峠
	A	B		
剣形 A	7%	4%	22%	14%
〃 B	47%	22%	43%	34%
〃 C	45%	74%	35%	52%

1の表は、円板・剣形・勾玉の形態別の一覧であり、2は剣形模造品の形態別比率表である。調査報告書「神坂峠」に採録されている剣形模造品の形態分類は、A・B・Cで断面等の形態から時期の変遷も示されている。A・B形態を合計すると、神坂峠は65%・入山峠は48%・大垣外A地区は54%・同B地区は26%である。単純ないい方をすれば古い時期のもは神坂峠に多く、大垣外A・入山峠の順になる。大垣外Bには新しい時期のものが多いことを示している。大垣外遺跡のA・B地区を比較するとその差はさらに広がり、C形態のものはA地区では45%、B地区では74%になる。分類者がそれぞれ異なるので、不正確なところがあるが一つの目安になると思われる。　大垣外遺跡の中で、熊谷氏宅のもの（A）・今回の調査地B1・B2もの（B）を比べてみても三者三様である。剣形の形態については前述のようであるが、材質の違いに気づく。A地域のものは濃青色の整形の整ったものが多く、B地区のものは濃青色のものもあるが、薄青・茶・灰白系統のものも多い。B地区の中でもB1地区の中には不整形物・残欠のもの・未製品等が多く含まれ、B2地区のものは整形の整ったものが多い。材質をみるとA地区のものは濃青色のものが多く、同一材から作られてもの、B地区のものは種々あるように思われる。A地区には残欠・未製品が少ないのは採集方法に違いがあるのかと思われる。

これらのことから大胆に考察すると、A地区のものは製造を主にしたところであり、B地区のものは祭祀に使われたり、上方から移動したものも含まれているかもしれない。B1地区の67点以上の臼

玉のことは別にして、円板・剣形についてみると祭器に伴う整品の多いところと、残欠・未製品等の出土する場所の違いがあるように思われ、上方からの移動もあるように思われる。

B２地区の場合は第15・16図でみられるように整った整品が多いことで、しかも、西側の傾斜面には臼玉１個を含めて35個、中央高所に7 個、東側傾斜面に13個、東側の低地に７個の配置がみられ、本文でも報告したようにそれぞれ祭器に近い位置にある。とくに西側斜面一帯には東側に祭器１・10・11・22・12・13・８・14が円弧を描きながら石製模造品集中地を取り巻いている。さらに祭器12・13・14の周辺から中央高所にかけて大形土器片を含む土器片集中地がるので、中央高所から西側にかけて祭祀場の中心があったと思われる。

中央高所から東側傾斜面とその東南の低地の場合も祭器９・20・６・23・16・５・７等の配置がみられ、それぞれその周辺から石製模造品が発見されているので、出土数は少ないが西側同様に考えられる。

以前には石製模造品出土地は祭祀にかかわる遺跡と考えられ、古代東山道の通過推定地の関連遺物とされてきた。昭和48年鼎天白Ｂ遺跡で古墳時代の屋外祭祀の祭器群や住居址内から多くの臼玉が発見されてから、即祭祀遺跡の考えが見直されている。その後、竜丘前の原遺跡・豊丘村田村原遺跡・座光寺田中遺跡・喬木村伊久間原遺跡等の住居址から臼玉等の石製模造品が出土し、屋内祭祀があったことが実証されている。

阿智村でも春日京田遺跡の住居址から円板・剣形石製模造品が発見されてはいるが、旧来の出土地川畑・杉ノ木・児の宮・大平神社・中原遺跡等は、古代東山道通過推定地を探る重要な検証資料であることには間違いない。しかしながら、石製模造品と東山道関係遺構の実証資料となるところは、神坂峠・大垣外遺跡のものだけで、杉ノ木遺跡の場合もまだ不十分な資料といわざるを得ない。その意味でも、今回の大垣外遺跡の石製模造品の出土状況は極めて重要な考証資料と思われる。

5. 古代東山道通過推定地

飯田下伊那地方では古代東山道の通過推定地については諸説があって決め兼ねている所が多い中で、神坂峠から阿知の駅までの推定コースが有力視されている阿智村の東山道研究の成果に他地区のものが口をはさむ余地は少ない。ただ、阿智村の東山道にかかわる遺跡の幾つかに関係した者で、飯田市座光寺の恒川遺跡を東山道が通過していると考える立場から、一・二疑念を持っている。それは中平から下平に降りるコースと春日を過ぎて飯田地籍を通るコースである。一つは、座光寺の伊那郡家を古代東山道が通過する立場をとれば、山本・伊賀良を通過するコースに疑念が持たれ、二つ目は、大垣外遺跡で祭器群と石製模造品集中地の遺構を検出したことから、中平地籍から下平地籍へ下るコースは寺沢川沿いが有力のように思われる。その根拠は、現在の時点では中平地籍の東山道コースは今回の調査地が有力であるから、本沢を上流で渡る必要がないと思われるので、さらに検討してほしいと思っている。

もう一つ古代東山道にかかわる遺跡の中で、研究を深めてほしいと思うことは園原遺跡群の問題である。杉ノ木平遺跡や児の宮遺跡は東山道通過推定地域としては有力であるが、薬師平・下瀬ケ原遺跡等に広拯院や伏屋の跡があるのかどうかということである。広拯院のことは別として、大垣外遺跡の位置付けに課題が残る。平成９・10年にクラガリ沢・薬師平・長者屋敷の一部を試掘調査したが、

遺物出土が非常に少なかった。遺跡の中心からはずれているのかもしれないが、昭和48年以降、何回かの分布調査の結果からみても、杉ノ木・児の宮遺跡の遺物多量出土に比べてみると大きな違いである。

西部山岳地帯に神坂峠・網掛峠の二つの難所を持つこの地域では、阿知駅を過ぎた旅人の恐怖は網掛山麓にかかる時が一番強いと思われる。大垣外の地で幣を捧げ、仮泊をして剣難な旅路の第一歩を踏み始めた人も多かったと思えば、この地の検証が大きな課題のひつとなってくる。

熊谷氏宅の石製模造品集中地、Ｂ１・２地区の道路跡・祭器群と石製模造品の集中地の検出ができたものの、東山道関連遺構のほんの一部に過ぎない。現在の所では、村道3-208号線周辺に有力な検証材料が埋もれているように思われる。その方法の一つに試掘を伴う悉皆分布調査がある。報文にある分布調査はただ単に表面に散乱する遺物を拾う作業であるが、一枚の畑の中に２ｍほどの試掘坑を入れることができれば、遺物の有無・包含層の層序・遺構の有無等が確かめられ、場合によれば有力遺構の検出の端緒が得られることもある。その候補地の一つに南地籍の2392-1・3番地の畑と、山岸地籍が挙げられる。山岸地籍の2420-1・2番地の畑は、大形土師器片を始め須恵器・陶器片が多い所で、有力な包蔵地の一画と思われる。そこから上方は、日当たりの良い扇状地状の地形であるが、雑草が生い茂り表面調査の難しい所である。上方には無量寺跡・お池跡があるので、雑草を取り除くだけで遺物の有無が確かめられる。試掘坑が開けられればなお望ましい。この辺りの遺物の有無の確かめによって、大垣外遺跡の広がり、東山道関連遺構の有無によってＢ１・２地区の祭器群の在り方もみえてくると思われる。

もう一つの候補地は諏訪明神社参道付近である。村道３－208号線の掘り割りを挟んで石製模造品・土師器・鉄滓等が出土している。一つの登山口と思われるので、解明を試みたい候補地の一つである。このような調査は５～６人で４～５日あれば可能であるから、まず手始めに行われればありがたいと思っている。

網掛峠登山遊歩道整備の計画があることはありがたい。昨年12月16日の踏査によって 本沢頭の平場で須恵器片が採集され、一つの手がかりが見つかった。道筋の芝を取り除くだけで初期の目的が果たされそうに思われる。現在でも網掛峠へ登る道は開かれているのだから、古代を探るコース作りは可能だと思われる。網掛峠そのものも雑木を刈るだけで景観が生きてくる。過去において薙鎌・須恵器・灰釉陶器片も発見されているから、掘り下げなくても清掃するだけで新遺物の発見も可能かと思われる。

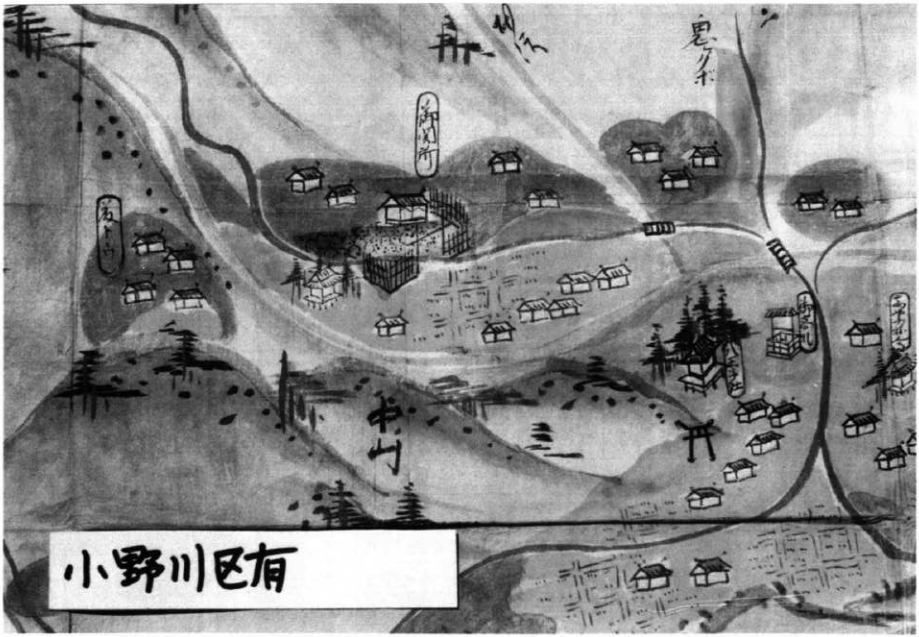
同一村に古代東山道通過の峠を二つも持つ村はほかにはない。しかも、神坂峠には手向ケ丘と呼ばれそうな頂上の平場から大量の石製模造品が出土しているし、網掛峠東麓の大垣外遺跡には、石製模造品集中出土地・祭器群がある。しかも、この峠の間には杉ノ木平・児の宮等の遺物多出遺跡を含む園原遺跡群、大山道・大山洞等の東山道関連地名の多い矢平地籍等々、有力な遺跡が山積する阿智村であるから大変なことではあるが、年次計画を立てながら解明の手立てを考えてほしい。

阿智第三小学校の児童たちが、「阿智村を通る東山道」をテーマに共同研究が進められ、現地踏査も父兄と共に行われている。その成果がＰＴＡ総会や社会教育研究集会等で発表されている。テーマに相応しい場所が多い阿智村であり、熱心な子供達によって解明の糸口が見つけ出されたり、地域の人々の啓蒙にも大きく役立っていると思われる。一回の調査活動だけで終わることのないように、阿智村当局も教育委員会もまた地域の方々もこの火を点し続けて頂きたいと願っている。

写真図版

写図1　発掘調査前の大垣外遺跡

写図2　石碑二態　祭祀遺跡、小野川関址



写図3　小野川村旧絵図

写図4　旧関所石臼

写図5　諏訪明神社・大平神社

諏訪明神社参道

大平神社参道

写図6　無量寺跡石仏群

写図7　B1・B2地区遺構全景

1．手前B2、向かって奥B1地区

2．B1地区

写図8　B-1地区遺構跡

写図9　杉ノ木平遺跡道路跡

写図10　B1地区土層断面

1．中央土層ベルト

2．西側未調査地の断面

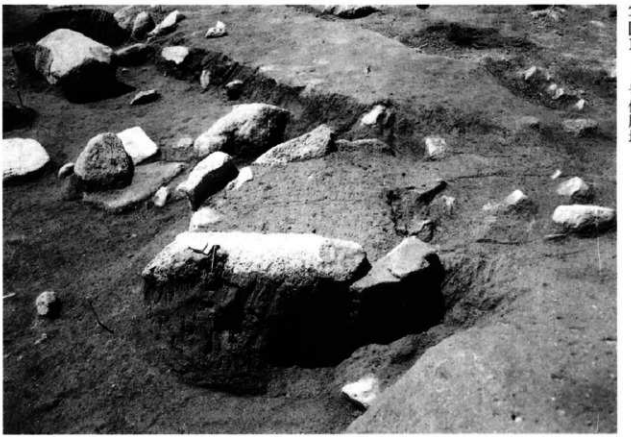
写図11　B1・B2地区の段差面

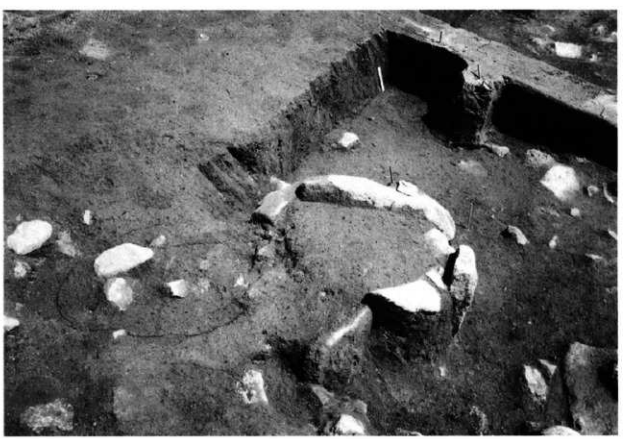
1．B1地区

2．B2地区

写図12　B2地区遺構全景

左手前低湿地、中央祭器群



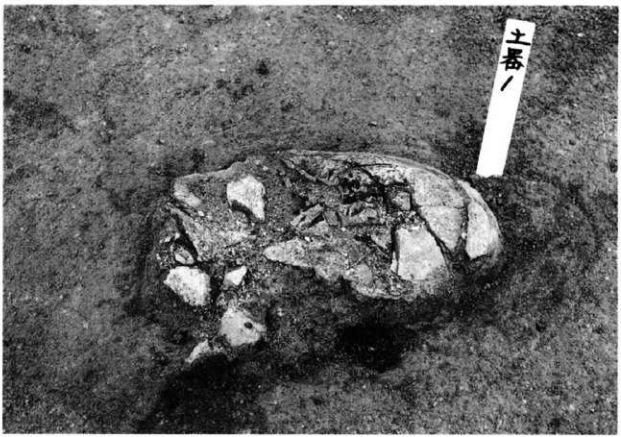


写図13　1号住居址

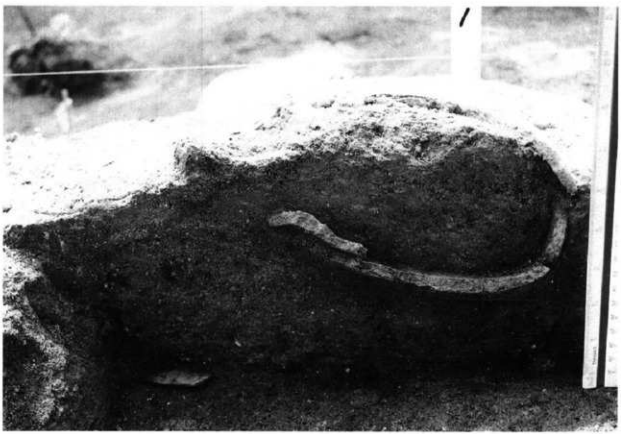
写図14　土坑12・7

1．B1F12

2．B2F7



写図15　祭器No.1出土状況



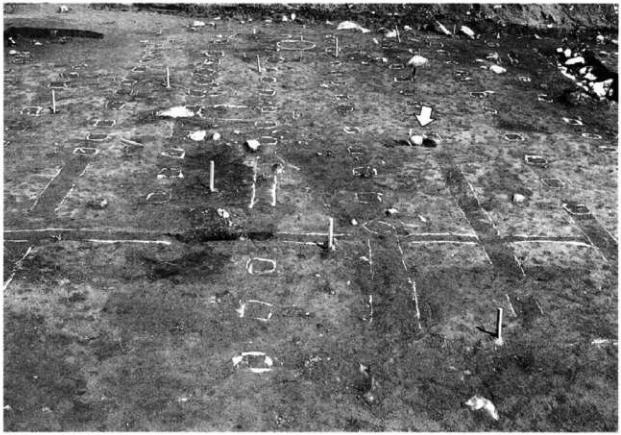
断面、下層に剣形模造品

写図16　祭器No.1・2（土器）

1．No.1

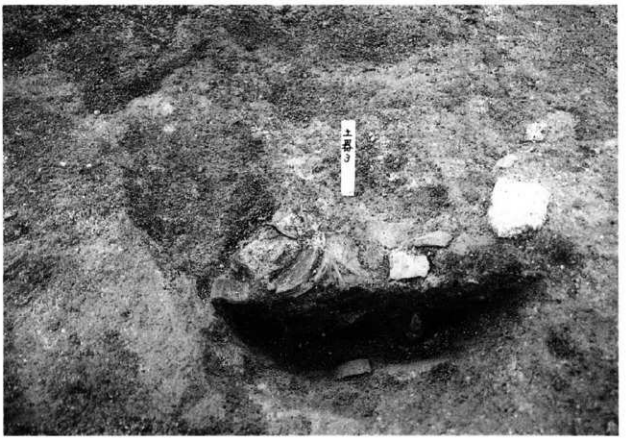
2．No.2

写図17　祭器No.2出土状況



近世ピット列と祭器No.2

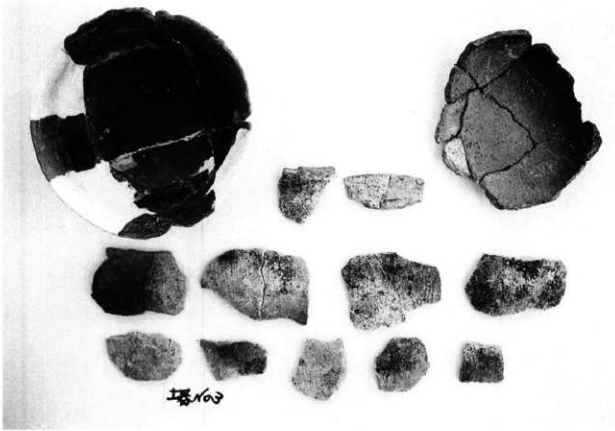
写図18　祭器No.3出土状況



1．坏形土器と甕形土器片の重なり

2．土器を取り上げた後

写図19　祭器No.3・4（土器）



1．No.3

2．No.4

写図20　祭器No.4出土状況

1．南側の土器片

2．大石付近の土器片

写図21　祭器No.5出土状況

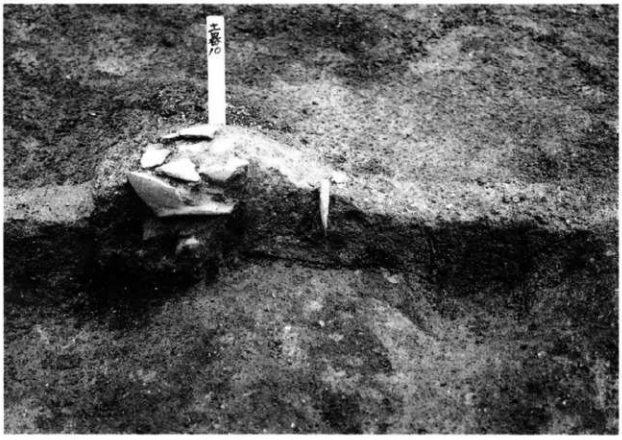
1．上層の土器片

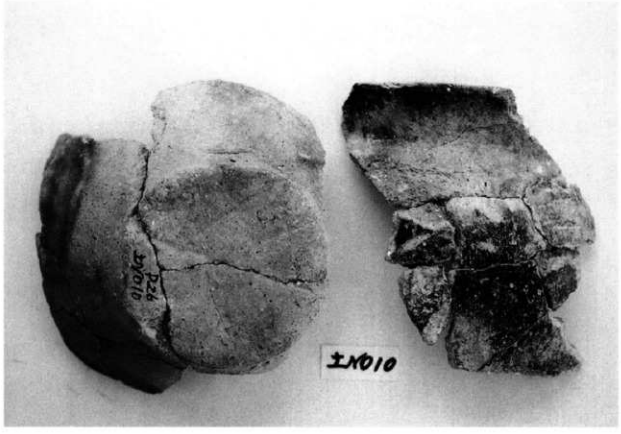
2．下層の土器

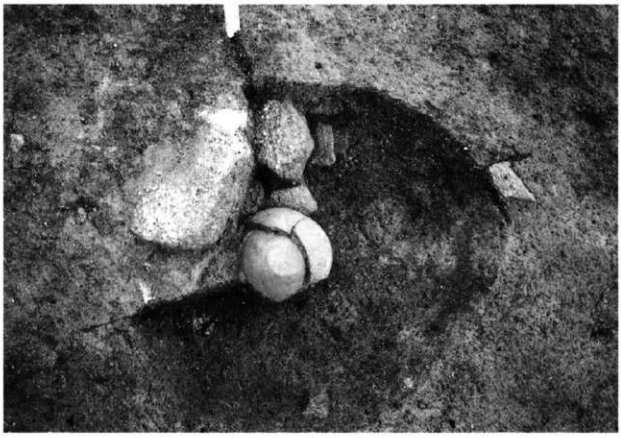
写図22　祭器No.8出土状況

写図23　祭器No.9出土状況と土器

写図24　祭器No.10出土状況と土器

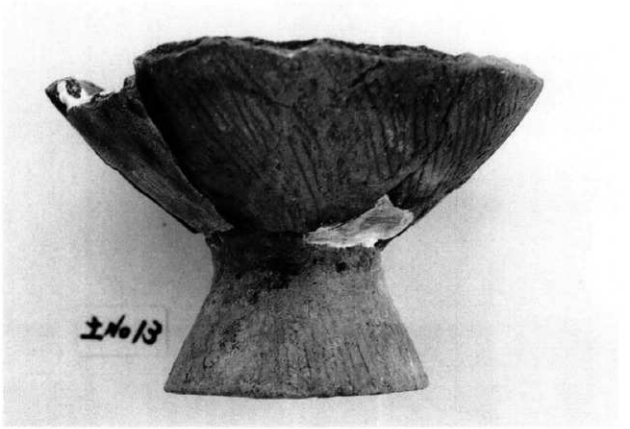


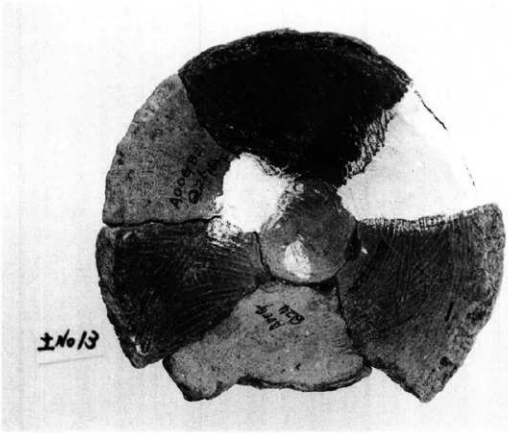


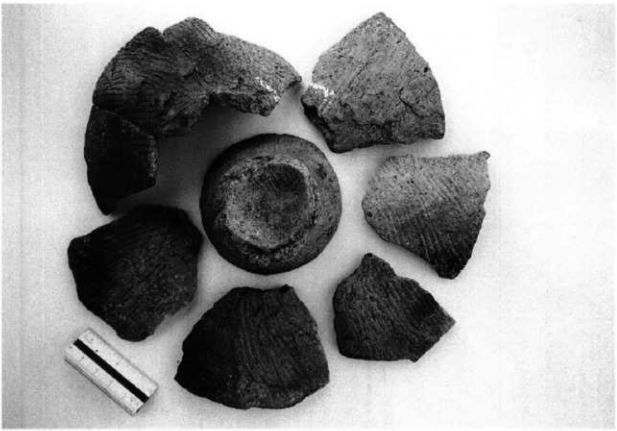


写図25　祭器No.11出土状況と土器

写図26　祭器No.13出土状況と土器

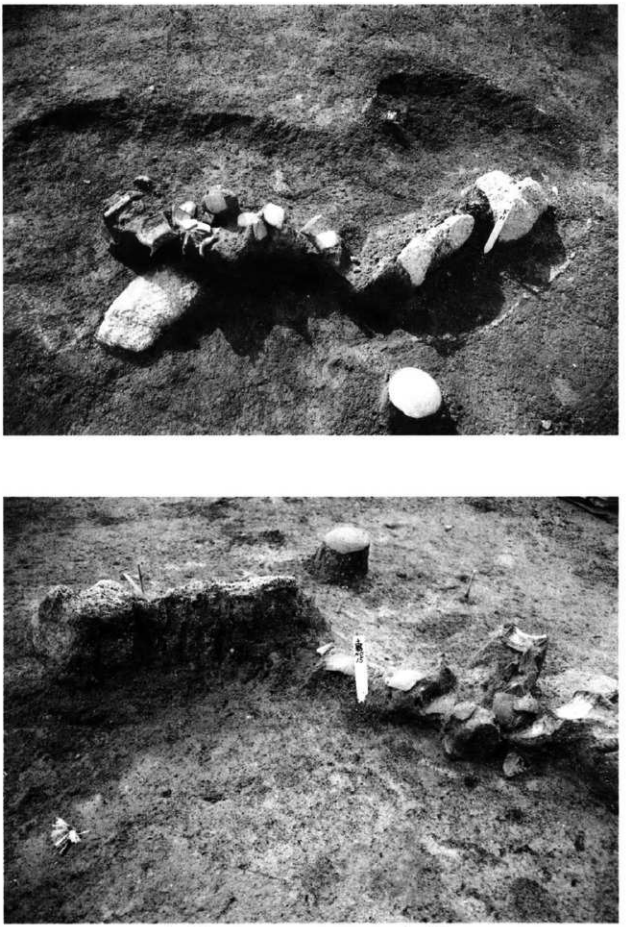






写図27　祭器No.13（土器）

写図28　土坑11と祭器No.15出土状況



左．土坑11　　右．祭器15

写図29　祭器No.15出土状況と土器